金日成・金正日主義の基本

朝鮮社会科学者協会

2016

目　　次

総　論

金日成・金正日主義は偉大な金日成主席と金正日総書記の聖なる革命活動の思想的・理論的総括であり、人類の自主偉業、社会主義偉業完遂のための前途を明確に示す不滅の旗印である。

金正恩委員長は次のように述べている。

「人民大衆の自主偉業、社会主義偉業は、偉大な金日成・金正日主義を指導指針として全社会を金日成・金正日主義化することによってのみ立派に完成します」

金日成主席によって創始され、金日成主席と金正日総書記によって深化発展されて今日、金正恩委員長の思想・理論活動によってさらに輝く金日成・金正日主義は、チュチェ時代の要求を反映して生まれた独創的な革命思想であり、自主性を目指す人民大衆の革命闘争のすべての段階、すべての分野で提起される理論的・実践的問題に完璧な解答を与えるもっとも科学的かつ百科全書的な革命学説である。

金日成・金正日主義は大きな真理の力で数億万人民の心の中に深く根を下ろし、5大陸に波及されている。チュチェ思想研究組織が世界の各地に組織されて活発に取り組んでおり、世界の多くの政党が金日成・金正日主義を見習っている。

本書が豊かで深奥な金日成・金正日主義の宝庫の中で、基本的なものだけを紹介することにより、チュチェ思想の研究者と進歩的人類が自主思想を学ぶうえで助けとなり、自主的な現代の流れを先導する力になればと願うものである。

1. 金日成・金正日主義の本質的特徴

金日成・金正日主義は、金日成主席が創始し金日成主席と金正日総書記が深化発展させたチュチェ思想とそれによって解明された革命と建設に関する理論と方法の全一的な体系である。

金日成・金正日主義は、人民大衆の自主偉業遂行の前途を明らかに示す自主時代の指導思想として、自己の固有の特徴を持っている。

金日成・金正日主義は、チュチェ思想を真髄とし、先軍思想を全面的に具現しており、チュチェ思想によって明らかにされた革命理論と指導方法を固有の構成体系としている独創的な革命思想である。

金正恩委員長は次のように述べている。

「金日成・金正日主義はチュチェの思想、理論、方法の全一的な体系であり、チュチェ時代を代表する偉大な革命思想です」

金日成・金正日主義は、人間中心の哲学思想であるチュチェ思想を真髄としている革命思想である。

チュチェ思想が金日成・金正日主義の真髄であるということは、それが金日成・金正日主義の起点、基礎をなし、内容と構成体系全般に貫かれている根本的な核心、骨子となる思想であるということである。

チュチェ思想は人間、人民大衆の自主的地位と尊厳を最上の境地に立たせた哲学思想である。

チュチェ思想は人間を中心にすえて世界にたいするもっとも正しい見解、観点と立場を確立した。

チュチェ思想は人間を中心にすえて世界を認識し、改造する方法論と人間の主動的作用と役割によって発生し発展する社会的運動の固有の合法則性を解明する。

チュチェ思想は人間、人民大衆中心の革命理論と指導方法を正しく展開し、体系化できる起点、基礎となる。

金日成・金正日主義の構成部分であるチュチェの革命理論、チュチェの指導方法は、チュチェ思想を起点、基礎にして展開されたことにより人間、人民大衆中心の革命理論、指導方法となっている。

金日成・金正日主義は、先軍思想を全面的に具現している革命思想である。

先軍思想は、人民大衆の自主偉業、社会主義偉業遂行において軍事を重視して優先させ、革命軍隊を中核にして革命と建設全般を推し進める思想である。

金日成・金正日主義の全般内容、特に革命理論と指導方法には先軍思想が全面的に具現されている。

チュチェ思想には人間、人民大衆の生命であり、国と民族の生命である自主性は強力な銃をもってのみ擁護し実現するという先軍革命思想が具現されており、チュチェの革命理論には先軍革命の原理と原則、先軍政治理論と戦略戦術が明白に示されている。それだけでなく、チュチェの指導方法には先軍時代の党と領袖の指導は先軍革命指導であり、その実現を目指す原則と先軍革命指導体系、先軍指導芸術が全面的に示されている。

金日成・金正日主義は構成において、チュチェ思想とそれにもとづいて示されているチュチェの革命理論、チュチェの指導方法が全一的に体系化された革命思想である。

金日成・金正日主義は人民大衆の革命闘争において提起されるすべての理論的・実践的問題に多面的で深奥かつ論理明白な解答を与えるように構成されている。

金日成・金正日主義は人民大衆にもっとも正しい世界観を与え、それに基づいて革命と建設の正しい戦略戦術と人民大衆を革命と建設に組織動員する妙術を明示することによって、革命と建設の指導思想としての全一的で完璧な構成体系をなしている。

金日成・金正日主義は、人民大衆第一主義で一貫され集大成されてい

る偉大な革命思想である。

金日成・金正日主義が本質において、人民大衆第一主義であるということは、金日成・金正日主義が、人民重視、人民尊重、人民愛を根本的理念、基本精神としている革命思想であるということである。

人民大衆をこの世で一番強力な存在として押し立て、それに徹底的に依拠すれば百戦百勝するが、人民大衆を遠ざけ、大衆から見捨てられれば百戦百敗するという原理が集大成されている思想がほかならぬ金日成・金正日主義である。

2. 金日成・金正日主義の創始と深化発展

金日成・金正日主義は、偉大な金日成主席と金正日総書記が自主時代の革命実践の要求を反映して新たに創始し、深化発展させた独創的な革命思想であり、それは今日、金正恩委員長によってりっぱに継承され、新たな高い段階へと絶えず発展、豊富化されている。

1）金日成・金正日主義の創始と深化発展の過程

金日成・金正日主義の創始と深化発展の過程は、偉大な金日成主席と金正日総書記、敬愛する金正恩委員長が、自主と尊厳をめざす人民大衆の歴史的闘争を輝かしい勝利へと導いた聖なる革命活動の過程である。

金日成主席は歴史の新時代、自主時代の要求を反映して新たな革命思想、チュチェ思想を創始した。

金正日総書記は次のように述べている。

「偉大な領袖金日成同志は、つとに人民大衆の志向と時代の要請を反映してチュチェ思想を創始することによって、われわれの時代、自主時代の新しい指導思想をもたらしました」

時代と革命の前途を示す革命思想は当該の歴史的時代の要求を反映して生まれる。

チュチェ時代は先行したすべての歴史的時代と根本的に区別される歴史の新時代である。

先行したすべての歴史的時代と区別されるチュチェ時代の根本的特徴は、かつて抑圧され虐げられてきた勤労人民大衆が世界の主人として登場して自己の運命を自主的に、創造的に開拓していく歴史の新時代であるというところにある。

新しい時代は新たな指導思想を求める。

チュチェ時代は人民大衆に世界と自己の運命の主人であるという見解と観点を与える人間中心の新たな哲学思想と人民大衆中心の新しい革命理論、人民大衆をして革命と建設の主人としての責任と役割を全うさせる革命的指導方法を求めた。

新たな革命思想、指導思想の創始は朝鮮革命の実践においてさらに切迫した要求として提起された。

朝鮮革命では歴史発展の特殊性と革命の困難さ、複雑さによって人民大衆が革命の前途を自主的に、創造的に開拓していく問題が特に重要な問題として提起された。

朝鮮では腐敗し無能な封建支配層によって生まれた事大主義が長い間、人々の思想精神生活を拘束してきた。それは朝鮮民族の自主的発展を阻み、国を亡国へと引導して行った主な思想的毒素となり、国が滅びた後には民族解放運動に大きな害を及ぼした。

朝鮮革命は強大な日本帝国主義を相手にして反帝・民族解放革命の課題と反封建民主主義革命の課題を同時に遂行すべき困難で複雑な革命であり、前人未到の道を開拓しなければならない困難な革命であった。こうした事情によって朝鮮では広範な人民大衆を奮起させて革命の道を自主的に、創造的に開拓するようにする新たな革命思想の創始がさらに切実な要求とし

て提起された。

チュチェ思想、先軍思想はこのような時代的要求を反映して創始された。

金日成主席は革命実践の中で新たな革命の真理を発見した。

当時、わが国の民族解放運動の本質的弱点は上層部の幾人かが集まって空理空論に明け暮れ、革命運動に大衆を奮起させず、事大主義、ドグマ主義に染まって他人の力によって革命を行おうとしたことである。

主席はわが国の民族解放運動の弱点から深刻な教訓を汲み取り、頑な民族主義者とえせマルクス主義者、事大主義者と教条主義者とは異なる方式で朝鮮革命の新たな道を開拓する過程にチュチェ思想の起点となる二つの真理を見出した。

主席が発見した真理の一つは、革命の主人は人民大衆であり、人民大衆の中に入って彼らを教育し組織動員すれば革命で勝利することができるということである。

主席が発見した真理のもう一つは、革命は自らの信念によって、自らが責任をもって行わなければならないし、革命で提起されるすべての問題を自主的に、創造的に解決すべきであるということである。

金日成主席は主体的立場で朝鮮革命の進路を模索する過程に、チュチェ思想の起点となる二つの真理とともに銃剣重視、軍重視思想を新たに明らかにした。

主席は幼年の時代につとにわが国の反日民族解放運動の卓越した指導者である尊父から「志遠」の崇高な意志とともに二挺の拳銃を革命の遺産として譲り渡され、武装でもって国の独立を成し遂げる固い覚悟を持し、革命活動をおこなった。

二挺の拳銃には武装した強盗である日本帝国主義とは必ず武装でもって立ち向かわなければならないし、武力抗争で国の独立を達成すべきであるという思想が込められている。

主席は民族解放闘争の切実な要求を深く洞察し、革命の主人である人

民大衆の自主性を擁護し、革命を自主的に、創造的におこなうためには強力な銃から整え、それに依拠して武装した強盗とは武装でもって立ち向かわなければならないという真理を明らかにした。

主席はチュチェ思想の起点となる二つの真理と先軍思想の基礎となる革命闘争の真理を見出したうえで、チュチェ 19（1930）年 6 月、卡倫でおこなわれた共青及び反帝青年同盟指導幹部会議でチュチェ思想の原理を闡明し、武装闘争の路線を基本にする朝鮮革命の主体的な路線を明らかにした。

これはわれわれの時代の革命の新たな指導思想であるチュチェ思想、先軍思想の創始を宣布した歴史的出来事となる。

チュチェ思想、先軍思想は朝鮮革命の実践を通じてわれわれの時代の革命の指導思想として完成された。

主席は各段階の革命闘争と政治、軍事、経済、文化など、すべての分野の闘争を勝利へと指導する過程に、豊富で貴い経験と業績を積み上げ、それを一般化してチュチェの思想、理論、方法を全面的に新たに示した。

金正日総書記はチュチェ思想、先軍思想を革命発展の要求に即して科学的に定義づけ、全面的に深化発展させた。

金正恩委員長は次のように述べている。

「金正日同志は非凡な思想的・理論的英知と深い探求力をもって精力的な思想・理論活動を展開し、金日成同志の革命思想を金日成主義と定義づけ、金日成主義が自主時代の偉大な指導思想として一層光を放つようにしました」

金正日総書記は主席の革命思想を金日成主義として完璧に定義づけた。

総書記は金日成主義をチュチェの思想、理論及び方法の全一的な体系として定義づけ、その特徴と歴史的地位など、金日成主義を理解するうえで提起される理論的・実践的問題にもっとも科学的な解答を与えた。

金正日総書記は金日成主義を新たな原理と内容でさらに深化発展させ、豊富化した。

金正日総書記はチュチェ思想を全面的に体系化し、深奥な原理と命題でさらに発展、豊富化させた。

金正日総書記はチュチェの革命理論を全面的に体系化し、新しい命題と原理として発展、豊富化させた。

金正日総書記はチュチェの指導方法を全面的に深化発展させた。

金正恩委員長は革命発展の要求に合わせて、偉大な領袖たちの革命思想を新たな高さで科学的に定義づけ、さらに発展、豊富化している。

金正恩委員長は偉大な領袖たちの革命思想を金日成・金正日主義に定式化し、それが本質において人民大衆第一主義であるということを新たに闡明した。

金正恩委員長は金日成・金正日主義をチュチェ革命の新時代の要求に合わせてさらに発展、豊富化している。

またもう一方の傑出した思想理論家である金正恩委員長を押し戴いて偉大な金日成・金正日主義はチュチェ革命の新時代、先軍時代の強国建設と全世界の自主化偉業を強力に突き動かす完成された指導思想として永遠な生命力を発揮するようになった。

2）金日成・金正日主義の創始と深化発展の基本要因

革命思想は、卓越した領袖によってのみ創始され、深化発展される。

金正日総書記は次のように述べている。

「労働者階級の革命思想は卓越した領袖たちによって創始されます」

金日成・金正日主義は、誰も身につけることができなかった偉人としての風格を天稟として備えた偉大な金日成主席と金正日総書記によって創始され、深化発展されたものであり、偉大な指導者の偉人としての風格を、そのまま受け継いだ金正恩委員長によってさらに発展、豊富化されている。

以民為天は、金日成主席がチュチェ思想を創始することができた根本

源泉である。

以民為天には、人民をこの世でもっとも強力で貴い存在、全知全能の存在に押し立て、すべてを人民の力を信じ、それに依拠して解決し、すべてが人民に奉仕する崇高な精神が集大成されている。

主席の生涯は、以民為天を座右の銘とし思想と指導に具現して現実に花咲かせた人民的領袖の崇高な生涯であった。

主席にとって人民大衆は常に親しい師であり、心魂と情熱を尽くして支えるべき天であった。ご自身を人民の平凡な息子と見なし、人民の中に入ることから革命活動をはじめた主席は、一生涯、常に人民の中で、人民の自由と解放を目指す闘争を繰り広げてきた。

主席はこのように以民為天を座右の銘とし、困難で複雑な朝鮮革命の進路を新しく切り開く過程にチュチェ思想を創始した。

領袖にたいする絶対的な忠誠心は金正日総書記と金正恩委員長が金日成・金正日主義化を深化、発展させ得る根本的要因である。

革命の指導者が自らの使命に合わせて領袖の思想と偉業をしっかり擁護、固守し、全面的に継承し発展させるためには何よりも領袖にたいする忠誠心が透徹していなければならない。

金正日総書記は、領袖への忠誠心を天稟としていたがゆえに、金日成主席の革命思想を寸分たがわず、純潔に擁護、固守し、発展する現時代と革命実践の要求に合わせて全面的に深化発展させ、チュチェ時代の永遠な指導思想として絶えず輝かせた。

金正恩委員長は金日成主席と金正日総書記への忠誠心をもっとも崇高な高さで体現していることにより、主席と総書記の尊名を冠した領袖の革命思想を発展する時代と革命実践の要求を反映して全面的に発展、豊富化させている。

金日成主席と金正日総書記、金正恩委員長の思想的・理論的英知は、その幅と深度において遠大かつ深奥である。そうした遠大で深奥な思想

的・理論的英知を備えているがゆえに、金日成主席と金正日総書記、金正恩委員長は労働者階級の従来の理論はもとより、東西方の思想と文化、歴史に完全に精通し、それにもとづいて人類のすべての進歩的な思想的・理論的遺産を集大成し、新たな高い段階へと発展させた偉大な金日成・金正日主義を創始し、深化発展させることができた。

3．金日成・金正日主義の歴史的地位

革命思想が占める歴史的地位は、それが込めている内容がいかに新しく完成されたものであり、またいかなる時代を代表しているかによって規定される。

金正恩委員長は次のように述べている。

「偉大なチュチェ思想、先軍思想に基づいて社会主義偉業の最終的勝利のための革命理論と指導方法を全面的に体系化し、社会生活のすべての分野を人民大衆の自主的志向と要求に即して革命的に改造、変革していく道を明示しているところに、われわれの時代の完成された革命の指導思想としての金日成・金正日主義の突出した歴史的地位と百戦百勝の威力があります」

金日成・金正日主義はまず、革命思想発展のもっとも高い段階をなす完璧な革命思想である。

金日成・金正日主義は、人間中心の新たな哲学的原理にもとづいて展開され、体系化された完成した革命思想である。

金日成・金正日主義がもとづいている哲学的原理は、人間の本質的特性にたいする科学的解明にもとづき、世界における人間の地位と役割を新たに解明することにより、人民大衆が自己の本性に合わせて世界を改造し自己の運命を開拓していく道をもっとも正確に解明する。

金日成・金正日主義は革命思想が含有すべきすべての内容を全面的に、かつ完璧に示す完成された革命思想である。

金日成・金正日主義には人間中心の哲学的原理と人民大衆中心の社会的・歴史的原理、革命と建設の指導的原則など、革命的世界観がもつべきすべての原理が科学的に解明されている。それだけでなく、民族解放、階級解放、人間解放に関する理論と自然改造、社会改造、人間改造に関する理論、全世界の自主化に関する理論など、革命理論がもつべきすべての理論と戦略戦術が全面的かつ深奥に解明されており、革命的指導の本質と原則、革命的指導体系と指導芸術に至るまで大衆指導におけるすべての原則的問題が完璧に解明されている。特に金日成・金正日主義は軍事を第一の国事とし、革命軍隊を主力にして革命と建設を推し進める先軍思想と社会主義強国建設理論を解明することにより、今日、人民大衆の自主偉業、社会主義偉業を力強く推し進めるようにするもっとも正しい道を示す。

金日成・金正日主義はまた、現代と未来の全歴史的時代を代表する偉大な革命思想である。

金日成・金正日主義は今日の革命実践が提起するすべての問題に完璧な解答を与える指導思想、現代を代表する偉大な革命思想である。

金日成・金正日主義はわれわれの時代の人民大衆の自主的志向と要求に即して革命闘争の総体的目標と方向を明示し、それを実現する闘争の合法則性と戦略戦術、方法を全面的に示す。これとともに社会主義の本質的優越性と勝利の必然性、その建設の合法則性を新たに闡明し、社会主義建設、社会主義強国建設をめざす闘争の戦略と戦術を科学的に解明することにより、人民大衆がいささかの偏向もなく、社会主義偉業を首尾よく完遂できるようもっとも正しい道を示している。それだけでなく、人民大衆が革命と建設において主人の地位を占め、主人としての役割を果たすための革命的指導で提起されるすべての問題に完璧な解答を与えている。特に、チュチェ革命の新しい時代である先軍時代の要求に相応しく先軍革命思想、先軍政治理論を全面的に解明することにより、帝国主義者とあらゆる反動派の策動を断固粉砕し、人類の自主偉業、社会主義偉業を勝利の一途へと導ける威力ある指導的

指針をもたらした。

　金日成・金正日主義は現代ばかりでなく、人民大衆の自主性が完全に実現される未来の全歴史的時代を代表する偉大な革命思想である。

　金日成・金正日主義は人民大衆の自主性が完全に実現される未来の社会で住む人々の精神的・道徳的風格、その社会で成される社会関係と活動方式など、人類の理想社会を建設し、発展完成させるうえで提起される原則的諸問題を完全に解明している。

第１編　チュチェ思想

金日成・金正日主義はチュチェ思想から出発しており、チュチェ思想に一貫されている。チュチェ思想は、人間を哲学的解明の中心にすえて人間の運命問題に解答を与えることを使命とする哲学思想である。

チュチェ思想は人間中心の世界観であり、人民大衆の自主性を実現するための革命学説である。人間が自己の運命の主人であるというところにチュチェ思想の革命的本質がある。

チュチェ思想は人間本位の哲学的原理と社会・歴史原理、革命と建設の指導原則を明らかにしている独創的な思想である。

第１章　チュチェ思想の哲学的原理

チュチェ思想の哲学的原理は、チュチェ思想において基礎をなす原理である。

チュチェ思想のすべての体系と内容は、チュチェ思想の哲学的原理にもとづいて展開され、貫かれている。

チュチェ思想の哲学的原理は、世界における人間の地位と役割を明らかにしたチュチェ思想の根本原理と人間の本質的特性、世界にたいする人間中心の見解と観点、立場を明らかにした原理を構成内容としている。

第１節　チュチェ思想の根本原理

チュチェ思想は哲学の根本問題を新たに提起し、それに科学的な解答を与える根本原理を独創的に解明した。

金正日総書記は次のように述べている。

「チュチェ思想は人間を本位にして哲学の根本問題を提起し、人間があらゆるものの主人であり、すべてを決定するという哲学的原理を明らかにしました」

チュチェ思想が提起した哲学の根本問題は世界における人間の地位と役割の問題である。

世界における人間の地位に関する問題は、人間が周囲世界を支配するか、それとも世界の単なる部分として周囲世界に従属されて生きるかの問題である。

世界の発展において人間の果たす役割に関する問題は、世界を発展させる上で人間の活動が主動的な作用をするか否かに関わる問題である。

世界における人間の地位と役割の問題は、哲学の使命に合わせてはじめて提起された哲学の根本問題である。

哲学の使命は人々に世界観を与えることにより、人間の運命開拓の道を示すところにある。人間が世界観を確立する根本問題は、自己の運命を開拓するところにあり、人間の運命は世界との関係の中で切り拓かれる。それゆえに、世界観が人間の運命開拓の道を示すには哲学の根本問題が必ず人間と世界との関係問題、世界における人間の地位と役割の問題とならなければならない。

世界における人間の地位と役割の問題はわれわれの時代、自主時代の根本的要求をもっとも正しく反映して新たに提起された哲学の根本問題である。

自主時代は人間、人民大衆が世界と自己の運命の主人として登場して

自己の運命を自主的に、創造的に開拓していく歴史の新時代である。新たな時代は人々をして世界と自己の運命の主人としての地位と役割を正しく解決することを求めた。まさにこうした要求を反映して新たに提起された哲学の根本問題が世界における人間の地位と役割の問題である。

チュチェ思想によって新たに提起された哲学の根本問題は、人間があらゆるものの主人であり、すべてを決定するというチュチェ思想の根本原理が打ち出されることにより、科学的に解明された。

チュチェ思想の根本原理は、人間があらゆるものの主人であり、すべてを決定するということである。

人間があらゆるものの主人であるという原理は、世界における人間の地位の問題に解答を与える原理であり、人間がすべてを決定するという原理は、世界発展における人間の役割の問題に解答を与える原理である。

人間はあらゆるものの主人である。

人間があらゆるものの主人であるというのは、人間が世界と自己の運命の主人であるということである。

人間が世界の主人であるというのは、人間が周囲世界を自己の意思と要求に即して服従させていく存在であるということである。

人間が自己の運命の主人であるというのは、人間が自己の生存と発展を自分自身が決定するということである。

人間はすべてを決定する。

人間がすべてを決定するというのは、世界を改造し自己の運命を開拓するうえで人間が決定的な役割を果たすということである。

人間が世界を改造するうえで決定的役割を果たすというのは、世界の改造発展に作用するさまざまな要因の中で人間の主動的な作用がもっと大きな役割を果たすということである。

人間が自己の運命を開拓するうえで決定的な役割を果たすというのは、人間の運命開拓に影響を与える要因の中で人間自身の役割が決定的な作用

をするということである。

チュチェ思想の根本原理は現実世界の根本特徴を正しく反映しているもっとも科学的な哲学的原理である。

人間があらゆるものの主人であり、すべてを決定するというチュチェ思想の根本原理は、人間が主人の地位を占めており、人間の自主的かつ創造的な活動によって絶えず改造され発展されていく現実世界の本質的特徴をそのまま反映している。

チュチェ思想の根本原理は、人間の運命開拓の道を正しく解明するもっとも革命的な哲学的原理である。

人間があらゆるものの主人であり、すべてを決定するというチュチェ思想の根本原理は、あらゆる従属と束縛から脱して世界の主人、自己の運命の主人として生きようとする勤労人民大衆の志向と要求を集中的に反映している。そして人間があらゆるものの主人であり、すべてを決定するというチュチェ思想の根本原理には人間が自己の運命の主人として自己の運命を掌握し自主的に､創造的に開拓していくべきであるという人間の運命開拓の根本方途が明示されている。

第 2 節　人間の本質的特性

人間があらゆるものの主人であり、すべてを決定するというチュチェ思想の根本原理は、人間の本質的特性にたいする科学的な解明に基づいている。

金正日総書記は次のように述べている。

「人間は自主性、創造性、意識性をもつ社会的存在である。自主性、創造性、意識性をもつ社会的存在であるというところに, 人間の本質的特性がある」

チュチェ思想は人間にたいする哲学的解明から人間が社会的存在であ

るというところから出発する。

人間が社会的存在であるということは、人間が社会的集団をなし、社会的関係を結んで生き、活動する存在だという意味である。

人間は世界で唯一の社会的存在である。

チュチェ思想は人間が社会的集団を成し、社会的関係を結んで生き、活動する社会的存在であることにより、世界の他のすべての物質的存在と根本的に区別される自らの固有の属性をもつようになることを科学的に闡明した。

チュチェ思想は人間が社会的存在であるというところから出発して人間の本質的特性を独創的に解明した。

自主性は人間の本質的特性である。

自主性は世界と自分の運命の主人として自主的に生き、発展しようとする社会的人間の属性である。

人間は自主性をもつ存在、自主的な社会的存在である。

自主という言葉は文字通り、自ら主人になるという意味である。

人間は自主性をもつことによって、自然と社会のあらゆる束縛と従属に反対しすべてを自分に奉仕するようにしていく。

自主性は自然と社会のあらゆる束縛と従属に反対して自由に生きようとする人間の性質であり、自然と社会を自分に奉仕するようにしていく人間の性質である。

社会的人間の属性である自主性は自主的要求をもち、自主的活動をおこなう上で表現される。

自主性は人間にとって生命である。

人間にとって自主性が生命であるということは、自主性が、人間が人間らしく生きられるようにするもっとも重要な要因、社会的人間の生存と発展を規定する根本要因であるということである。

人間にとって自主性が生命であるという時、それはすなわち社会的・

政治的自主性を意味する。

社会的・政治的自主性が実現された生活は、あらゆる社会的従属から脱し、国家と社会の主人となって社会政治生活分野において自主的権利を思う存分行使する生活であり、そのような生活のみが人間の本性に合致する人間らしい生活である。

人間が社会的・政治的自主性を失えば、社会的従属と束縛を受けながら他人に縛られた奴隷の生活を余儀なくされ、そのような生活は動物の生活と同然である。

創造性は人間の本質的特性である。

創造性は目的・意識的に世界を改造し、自己の運命を開拓していく社会的人間の属性である。

人間は創造性をもつ存在、創造的な社会的存在である。

創造性によって、人間は古いものを変革し、新しいものを作り出しながら自然と社会を自分により有用かつ有益なものに改変していく。

創造性は周囲世界に目的・意識的に対しながら自己に必要なものを作り出す人間の性質であり、古いものを変革し新しいものを作り出しながら自然と社会を自分により有用に、有益なものに改変していく人間の性質である。

社会的人間の属性である創造性は、創造的能力をもち、創造的活動を行う上で表現される。

意識性は人間の本質的特性である。

意識性は世界と自分自身を把握し改変するためのすべての活動を規制する社会的人間の属性である。

人間は意識性をもつ存在、意識的な社会的存在である。

意識性によって人間は、世界とその運動発展の合法則性を把握し、自然と社会を自己の要求に即して改造し発展させていく。

社会的人間の属性である意識性は意識をもっていることから表現される。

意識は人間の肉体的器官の中でもっとも発達した器官である脳髄の

高級な機能として、人間のすべての活動を指揮し調節、統制する。

人間の意識は大きく思想意識と知識に区分できる。

思想意識は現実にたいする立場、態度の基礎に置かれている人間の要求と利害関係を反映した意識である。

知識は事象の本質とその変化発展の合法則性を反映した意識である。

意識において基本は思想意識である。

もちろん、知識も人間の活動で重要な役割を果たすが、人間の活動を規定する決定的要因は知識ではなく、思想意識である。

思想意識は人間の価値と品格を規定する決定的要因であり、人間のすべての活動を規制する決定的要因である。

人間の本質的特性である自主性、創造性、意識性は互いに密接に結ばれている。

自主性を抜きにして創造性を十分に発揮できず、創造性を抜きにしては自主性を正しく実現できない。

自主性が主に世界の主人としての人間の地位として表現されるならば、創造性は主に世界の改造者としての人間の役割として表現される。

自主性は創造性を発揮させる要因であり、創造性は自主性の実現を保証する。

自主性と創造性は意識性を前提にし、またそれによって保証される。

自主性、創造性、意識性は社会的・歴史的に形成され発展される社会的属性である。

第３節　世界にたいする人間中心の見解

世界にたいする人間中心の見解は、人間との関係で解明した世界の本質とその変化発展の合法則性にたいする理解である。

人間が生きている今日の世界は本質において、人間によって支配され改造される世界である。

金正日総書記は次のように述べている。

「世界が人間によって支配され改造されるというのは、人間との関係において明らかにした世界にたいする新しい見解です」

世界は人間によって支配される。

世界が人間によって支配されるというのは、世界が人間の自主的要求と利益を実現することに奉仕することを意味する。

人間の能動的な活動によって世界は人間により奉仕する方向にたゆみなく変貌される。

世界が人間の自主性がよりよく実現される方向へと発展する過程は、人間によって支配される世界の範囲が広まり、その質的水準がさらに高まる過程である。

世界は人間によって改造される。

世界が人間によって改造されるというのは、世界が人間の目的意識的な活動によって人間の要求にふさわしく改変されるということを意味する。

世界はただ人間の積極的な活動によってのみ改変される。

人間の創造的役割によってより多様かつ多くの自然物が加工されて社会的財貨に新たに転換され、自然環境がより清潔で美しいものとなる。人間の創造的役割によって社会の発展水準が高まり、その面貌もいっそう改変される。

世界が人間によって支配され、改造されるというのは、人間が自主性、創造性、意識性をもつもっとも優越で強力な存在だからである。

自主性、創造性、意識性をもつ人間は、周囲世界との関係で自己の自主的要求を自覚し、主動的に提起し創造的能力でそれを実現することを通じて、世界にたいする支配と改造を実現していく。

世界の支配とその改造発展の合法則性は、人間の積極的な活動によって成されるということである。人間の積極的な活動は自主的かつ創造的で意識的な活動であり、このような活動によって世界の支配と改造発展の水準と領域、速度が規定される。

世界の支配と改造発展はまず、人間の積極的な活動の強化にともなってその水準も高まる。

これは人間の自主的かつ創造的で意識的な活動水準が高まれば高まるほど、世界の支配と改造発展の水準が高まるということである。

世界の支配と改造発展はまた、人間の積極的な活動の強化によってその領域が拡大される。

これは世界を支配し改造していく人間の自主的かつ創造的で意識的な活動が強化されればされるほど、世界の支配と改造発展の領域が拡大されるということである。

世界の支配と改造発展はまた、人間の積極的な活動が強化されるにつれて早いスピードで成される。

これは人間の自主的かつ創造的で意識的な活動が急ピッチで強化されればされるほど、自然と社会が人間に有益なものとしてさらに早く改変されるということである。

第４節　世界にたいする人間中心の観点と立場

チュチェ思想は人間を中心に据えて世界に対応する観点と立場を新たに解明する。

世界にたいする主体的観点と立場の重要な内容の一つは、人間の利益から出発して世界にたいする観点と立場である。

金正日総書記は次のように述べている。

「人間を中心に世界に対応するというのは、世界の主人である人間の利益にもとづいて世界に対応することを意味します」

人間の利益から出発して世界に対応するということは、人間のためによりりっぱに奉仕するようにする見地で世界に対応するということである。

人間の利益から出発して世界に対応する観点と立場はまず、認識と実践活動において人間の自主的要求と利益を第一と見なし、それを基準にしてすべての事象の価値を分析し評価する観点と立場である。

事象の価値は人間の自主的要求と利益を基準にしてのみ正しく評価できる。事象の価値を正しく評価するということは、それが人間の生存と発展に有意義で役に立つか、人間に切実に必要で有益なのかを正しく確定するということである。これはすなわち人間の自主的要求と利益に合致するか、否かの問題が事象の価値を正しく評価する基準となることを意味する。人間は常に人間の自主的要求と利益を第一とし、それを絶対的な基準にして事象の価値を評価してこそ、自己の利益に合う対象を正しく選択し、それを認識して改造するための活動を目的・意識的に展開できる。

人間の利益から出発して世界に対応する観点と立場はまた、認識と実践活動で人間の自主的要求と利益を第一とし、それをより立派に実現することに寄与するよう、すべての問題を取り計らっていく観点と立場である。

人間は自己の自主的要求と利益を第一とし、それに合わせて認識と実践活動で提起されるすべての対象を取り計らってこそ、自己に不利なものを

有利なものに、有利なのはさらに有利なものに改造して世界のすべてを自分により良く奉仕するようにし、自己の運命を成功裏に開拓して行ける。

人間の利益から出発して世界に対応すべきことは、人間が世界の主人であり、世界で人間の利益がもっとも貴いからである。

世界にたいする主体的観点と立場の今一つは、人間の活動を基本にして世界の変化発展に対応する観点と立場である。

金正日総書記は次のように述べている。

「人間を中心に世界に対応するというのは、世界の改造者である人間の活動を基本にして世界の変化発展に対応することを意味します」

人間の活動を基本にして世界の変化発展に対応するということは、世界を自己の意思と要求に即して目的・意識的に改造していく人間の積極的な活動の見地で世界の変化発展に対応するということである。

人間の活動を基本にして世界の変化発展に対応する観点と立場はまず、人間の積極的な活動によってのみ世界が人間のための世界に改造され発展されるという見地で世界に対応する観点と立場である。

世界の改造発展はひとえに人間の積極的な活動によってのみ成される。人間の積極的な作用と役割は、世界を人間の自主的要求と利益に即して改造し変革していく決定的な要因である。

人間の活動を基本にして世界の変化発展に対応する観点と立場はまた、すべての認識と実践活動を行ううえで人間の積極的な活動をもっとも強力な基本要因と見て、それに依拠して他のすべての要因を作用させていく観点と立場である。

人間の積極的な活動の見地で世界に対応する観点と立場は、世界を改造変革していく決定的な要因を客観的条件ではなく、人間に求める観点と立場である。

世界にたいする主体的な観点と立場は、真の革命的な観点と立場である。

世界にたいする主体的観点と立場は、人々をして世界と自己の運命の主人であるという高い自覚をもたせ、世界と自己の運命を成功裏に開拓していくようにする。

第2章　チュチェ思想の社会・歴史原理

チュチェ思想の社会・歴史原理は、社会は人々が集まった集団であり、社会・歴史の主体は人民大衆であり、社会的・歴史的運動は人民大衆の自主的かつ創造的で意識的な運動であるというところから、社会的・歴史的運動、革命運動で自主的立場と創造的立場を堅持し思想を基本に捉えていくことを新たに解明する。

第1節　社会にたいする理解

社会は人間の集まった集団である。

金正日総書記は次のように述べている。

「社会とは一言でいって、人間が集まった集団です。人間が社会的財産をもち、社会的関係で結ばれて生活する集団がすなわち社会なのです」

人間は個別的にではなく、集団をなして生き活動する。人間の集まった集団であるというところに自然と区別される社会の本質的特徴がある。

社会は人間が社会的財産をもって社会的関係で結ばれて生活する集団である。

社会的財産は人間が創造して利用する物質的財産と精神的・文化的財産を意味する。

社会的関係は社会生活の過程で結ばれる人間同士の関係である。

全社会的範囲で成された社会的関係の強固な秩序、体系が社会制度である。

社会制度には政治制度、経済制度、文化制度がある。

社会の主人は人間である。

人間が社会の主人であるということは、人間が社会的財産と社会的関係の主人だという意味である。人間が社会の主人となるのは社会的財産と社会的関係が人間によって創造されるからである。

社会の主人である人間がおこなう生活は、政治生活と経済生活、思想文化生活である。

政治生活は社会生活のもっとも重要な分野である。

政治生活は人間の政治的要求を実現する社会生活分野である。人間は国家と社会の構成員としての権利を行使し責任と義務を果たそうとする要求、政治的要求をもち、こうした要求を実現していく生活が政治生活である。

政治生活は大きく国家政権を通した政治生活と政党、団体を通した政治生活に区分できる。

政治生活は社会生活で決定的な意義を有する分野である。

人間は政治生活を通じて社会的な権利と義務を遂行しながら社会的存在として生きていく。人間は政治生活を通じて経済建設と文化生活をはじめ、すべての生活を自主的要求に合わせて行える。

経済生活は社会生活の重要な分野である。

物質的富の生産と分配、交換と消費を通して自己の物質的需要を満たしていく生活が経済生活である。

経済生活は社会の物質的富を生産する創造的労働生活であり、生産された物質的富を消費しながら生きていく物質生活である。

社会主義経済生活は労働生活と物質生活の各分野で人民大衆の自主的要求をりっぱに実現するもっとも優れた経済生活である。

経済生活は社会生活の基礎をなす重要な分野である。

経済生活によって人間の生存と発展に必要な物質的条件がもたらされる。

思想・文化生活は社会生活の重要な分野の一つである。

人間は社会的・政治的要求と物質的要求ばかりでなく、精神的・文化的要求をもっており、それを実現するための活動をおこなう。人間はただ食、衣、住に満足せず、絶えず強力な存在に発展しながら生活をより美しく、高尚で文化的に営むことを求める。人間のこうした精神的・文化的要求を充足させている生活が思想・文化生活である。

人間は思想・文化生活によって政治、経済生活の発展に必要な深い科学知識と高い文化的素養をもち、高尚な道徳と壮健な体力をもつようになる。

該当の社会の性格はまず、どの階級、どの社会的集団が政権を掌握しているかによって規定される。

政権の所有関係によってその社会がどの階級、どの集団が政治的に主人の地位にある社会かということが規定され、その社会政治制度の進歩性と反動性が規制される。

社会の性格はまた、生産手段にたいする所有形態によって規定される。

生産手段の所有形態によってどの階級、どの社会的集団が経済的に主人の地位を占める社会かということが規定される。

社会の性格を規定する基本要因は政権にたいする所有関係である。

生産手段にたいする所有関係は、国家政権によって合法化され担保されてこそ、社会の支配的な関係となり得る。生産手段にたいする所有関係の強化、発展も国家政権によって規制される。

社会はその性格によって搾取社会と社会主義社会に区分する。

搾取社会は搾取階級が国家主権と生産手段を独り占めにし、主人顔に振舞いながら、勤労人民大衆を搾取する反動的な社会である。

搾取社会には奴隷所有者社会、封建社会、資本主義社会がある。

社会主義社会はすべての搾取社会と根本的に区別される新たな類型の社会である。

社会主義社会は史上はじめて人民大衆があらゆるものの主人となった

もっとも先進的な社会である。かつてすべての搾取社会と異なって人民大衆は社会主義社会で、はじめて国家主権と生産手段の主人、社会のすべての主人となる。

第2節　社会・歴史の主体

歴史の主体に関する問題は社会発展を主体的な観点と立場で理解するうえで基礎的な問題である。

歴史の主体に関する問題は社会的・歴史的運動を目的・意識的に起こし、推し進める担い手の問題である。

社会的・歴史的運動は主体の主動的な作用と役割によって生成・発展する。

自然の運動は客観的に存在する物質の相互作用によって自然発生的に成されるが、社会的運動は主体の主動的な作用と役割によって生成・発展する。

歴史の主体は人民大衆である。

金正日総書記は次のように述べている。

「社会的運動の主体は人民大衆です。人民大衆をぬきにしては社会的運動そのものが存在しえず、歴史の発展について語ることもできません」

歴史の主体が人民大衆であるということは、社会的・歴史的運動を目的・意識的に、主動的に起こし推し進める担い手が人民大衆であるという意味である。

人民大衆は勤労する人々を基本にして自主的要求と創造的活動の共通性から結ばれた社会的集団である。

社会的・歴史的運動の原因もそれを推し進める力も主体である人民大衆にある。

人民大衆は自然を改造し生産力を発展させ、物質的富を創造する。思

想的・文化的富も社会関係、社会制度も人民大衆によって改造され変革される。

結局、人民大衆によって社会のすべての物質的・文化的富が創造され、社会関係が発展しそれによって歴史が前進する。

人民大衆は革命と建設の主人であり、自然を改造し社会を発展させる決定的要因である。

革命と建設を要求するのも人民大衆であり、革命と建設を遂行するのも人民大衆である。

反動的搾取階級は歴史の主体になりえず歴史の反動に、革命の対象になる。

歴史発展における人民大衆の地位と役割は、彼らが歴史の自主的な主体をなすことによって非常に高まる。

歴史の自主的な主体に関する問題は歴史の主体としての人民大衆の発展水準、歴史発展における地位と役割に関連して提起される問題である。

歴史の自主的な主体は歴史と自己の運命を自主的に、創造的に開拓していく人民大衆である。

人民大衆は歴史の主体ではあるがどの時代、どの社会でもその地位と役割が同等なものではない。人民大衆は搾取社会で長い間、歴史の自主的な主体となり得なかった。搾取社会で人民大衆は自己の意思通りにではなく、主に搾取階級の意思にしたがって歴史を創造してきた。

人民大衆は歴史舞台に先進的な労働者階級が出現し、彼らの自主的な革命思想によって意識化、組織化されながらはじめて歴史の自主的な主体として登場した。

歴史を前進させ、自己の運命を開拓するための人民大衆の闘争は、反動的統治階級をはじめ、敵対勢力との鋭い対決過程である。

人民大衆が歴史の自主的な主体としてさらに強化、発展されるためには社会主義制度が樹立されなければならない。

人民大衆は社会主義制度で全社会の一心団結を成し遂げ、統一的な指導の下に歴史の自主的な主体の威力を非常に強化していく。

人民大衆が歴史の自主的な主体となる上で基本は正しい政治的指導を受けることである。

人民大衆は党と領袖の正しい指導を受けてこそ、自然と社会を改造する深刻かつ複雑な革命闘争を力強く展開して民族解放、階級解放をなし、社会主義社会を成功裏に建設し、それを立派に運営して行ける。

第3節　社会的・歴史的運動の本質的特性

チュチェ思想が解明した社会的運動の本質的特性は、歴史の主体である人民大衆を中心にすえて社会的･歴史的運動の本質と合法則性にたいするもっとも正しい見解を与える。

主体の運動としての社会的・歴史的運動の本質的特性は、人民大衆の自主的、創造的、意識的な運動であるということである。

チュチェ思想は社会的・歴史的運動が社会歴史の主体である人民大衆の自主的運動であるという原理を解明する。

金正日総書記はつぎのように述べている。

「社会と自然を改造し人間を改造する闘争は、すべて人民大衆の自主性を擁護し実現する闘争です」

社会的・歴史的運動が人民大衆の自主的運動であるということは、人民大衆の自主性を擁護し実現するための運動だという意味である。言い換えれば､それは自然の拘束と社会的従属と不平等から脱して世界と自己の運命の主人として生き､発展しようとする人民大衆の自主的な志向と要求を実現するための運動だということである。

社会的・歴史的運動が人民大衆の自主的運動となるのは、人民大衆が自主性を本性とする自主的な存在であることと関連する。

自主性を擁護し実現するための人民大衆の闘争によってすべての社会的運動が起こり、前進していく。

自主性をめざす人民大衆の闘争は一定の合法則性にしたがって行われる。

自主性を実現するための人民大衆の闘争は何よりもまず、社会改造と自然改造、人間改造のすべての領域で全面的に行われる。

社会を改造する闘争は、人民大衆が階級的および民族的従属から脱して自主的な生活を営むことのできる社会的・政治的条件を作る闘争である。

自然を改造する闘争は人民大衆が自然の束縛から脱して自主的な生活を営みうる、物質的条件を作るための闘争である。

人間を改造する闘争は人民大衆が古い思想文化の束縛から脱して自主的な生活を享受できる思想的・文化的条件をつくる闘争である。

自主性をめざす人民大衆の闘争はまた、一定の歴史的逐次性によって行われる。

人民大衆の自主性を目指す闘争は社会改造、自然改造、人間改造のすべての領域でともにおこなわれるが、社会発展段階によってより前の段階にあるものもある。

人民大衆の自主性を目指す闘争では、人民大衆の社会的・政治的自主性を実現するための社会改造が第一義的な問題として提起される。

人民大衆の社会的・政治的自主性を実現するということは、人民大衆があらゆる形態の社会的従属から脱して国家と社会の主人となることを意味する。

人民大衆の社会的・政治的自主性が実現された社会主義社会では、自然改造と人間改造活動が前面に提起され実現されていく。

自主性を目指す人民大衆の闘争はまた、国際的性格を帯びて行われるようになる。

人民大衆の自主性を実現する闘争が国際的性格を帯びるということは、

それが国際的範囲で行われるということ、言い換えれば、自主性を擁護する世界のすべての国と民族、人民が固く団結して共同でたたかう闘争だという意味である。

人民大衆の自主性を目指す闘争が国際的性格を帯びるようになることは、世界の被抑圧民族と人民の歴史的境遇と利害関係の共通性とも関連している。

自主性を目指す人民大衆の闘争はまた、社会主義のための闘争を通じてその終局的目的を達成するようになる。

社会主義を目指す闘争は人類社会で人間による人間の搾取、階級による階級の圧迫、国家による国家の支配を永遠に終わらせ、歴史的に伝来されてくる古い社会のあらゆる遺物を一掃し、その束縛から人々を終局的に脱するようにする闘争である。

社会的・歴史的運動が人民大衆の自主的運動であるだけに、社会的・歴史的運動、革命運動では自主的立場を堅持すべきである。

自主的立場はまず、人民大衆が革命と建設の主人としての権利を行使する立場である。

革命と建設の主人としての権利を行使するということは、人民大衆が革命と建設で提起されるすべての問題を自己の独自的な判断と決心によって自己の利益に即して解決するという意味である。

自主的立場はまた、人民大衆が革命と建設で主人としての責任を果たす立場である。

革命と建設の主人としての責任を果たすということは、人民大衆が革命と建設において提起されるすべての問題に責任をもち、自力で解決することを意味する。

チュチェ思想は、社会的・歴史的運動が社会・歴史の主体である人民大衆の創造的運動であるという原理を解明する。

金正日総書記は次のように述べている。

「社会的・歴史的運動は自然と社会を改造し変革する人民大衆の創造的運動です。

自主的な生活をめざす人民大衆の活動は創造的性格をおびます」

社会的・歴史的運動が人民大衆の創造的運動であるということは、それが自然と社会を絶えず新たに改造し変革していく人民大衆の創造的活動の過程であるということを意味する。言い換えれば、それは社会的・歴史的運動が、人民大衆が自らの創造的能力で自主性を蹂躙し束縛するあらゆる古いものをなくして新しいものを創造する闘争だということである。

社会的・歴史的運動が人民大衆の創造的運動となるのは、人民大衆が創造性を本性とする創造的な存在であることと関連する。

人民大衆の創造的活動は一定の合法則性によって行われる。

人民大衆の創造的活動はまず、闘争を伴うようになる。

創造の過程がすなわち闘争の過程であるというのは、新たなものが古いものを克服していく闘争の中で創造され発展するということを意味する。

人民大衆の創造的活動はまた、人民大衆の創造的能力が成長するにつれてさらに発展するようになる。

自然を征服し、社会的進歩を遂げるための創造的闘争過程に人民大衆はさらに強力な存在と発展し、それによって人民大衆の創造的運動はさらに発展するようになる。

人民大衆の創造的運動はまた、社会主義を目指す闘争でもっとも高い段階に至るようになる。

社会主義を目指す闘争は、人類史でもっとも高い形態の創造的運動である。人民大衆の創造力は彼らの本性的要求を全面的に、完全に実現させる人類の理想社会を建設するための闘争でもっとも高く発揮される。

社会的・歴史的運動は人民大衆の創造的運動であるだけに、自然と社会を改造する闘争で常に創造的立場を堅持すべきである。

創造的立場はまず、革命と建設におけるすべての問題を人民大衆の創

造力に依拠して解決する立場である。

人民大衆の創造力に依拠して革命と建設におけるすべての問題を解決するということは､革命と建設のすべての問題を人民大衆の革命的熱意と創造的積極性を高く発揮して解決するということである。

創造的立場はまた革命と建設におけるすべての問題を自国の具体的実情に合わせて解決していく立場である。

すべての問題を自国の具体的実情に合わせて解決するということは、それを自国の具体的条件と絶え間なく変化する現実に合わせて解決するということである。

チュチェ思想は社会的・歴史的運動が社会・歴史の主体である人民大衆の意識的な運動であるという原理を解明する。

金正日総書記は次のように述べている。

「革命運動はすべて意識的な運動です」

社会的・歴史的運動が人民大衆の意識的な運動であるということは、この運動が人民大衆の目的･意識的な闘争によって推進される運動であるという意味である。言い換えれば、それは社会的・歴史的運動が人民大衆の自主的要求を実現するための創造的活動を目的･意識的に展開していく運動であるという意味である。

社会的・歴史的運動が人民大衆の意識的運動となるのは、人民大衆が意識性を本性とする意識的な存在であることと関連する。

人民大衆の意識的な活動である社会的・歴史的運動は、一定の合法則性によって行われる。

人民大衆の意識的な活動である社会的・歴史的運動は何よりもまず、自主的な思想意識の規制的作用のもとで行われる。

社会的・歴史的運動、革命運動で決定的な役割を果たすのは人民大衆の自主的な思想意識である。革命運動で人民大衆の自主的な思想意識が決定的な役割を果たすということは､自主的な思想意識が革命と建設で果たす人

間の役割を規制する決定的な要因であるということである。

人民大衆の意識的な活動である社会的・歴史的運動はまた、革命運動が発展するにつれてその意識的な性格がより強化されるようになる。

社会的運動の意識的な性格が強化されるということは、社会的・意識的な運動で思想意識の役割がさらに高まることを意味する。

思想意識の役割は、社会主義をめざす人民大衆の闘争において比べようもなく高まる。

社会主義を目指す闘争はその本性から人々の高い意識性を要求する。

社会主義偉業は人民大衆の自主性を完全に実現するための偉業であり、人民大衆の目的・意識的な闘争によって実現される偉業である。それゆえ社会主義をめざす闘争は思想意識の役割を非常に高めることを求める。

革命運動は意識的な運動であるだけに革命闘争と建設事業で常に人々の思想を基本に捉える原則を堅持すべきである。

革命と建設で人々の思想を基本に捉える原則は、思想的要因に決定的な意義を付与し思想・意識の役割を高めてすべてを解決していく原則である。

思想的要因に決定的な意義を付与するということは、人々の思想に第一義的に着目し、思想的要因に依拠して革命と建設を他のすべての条件を成熟させるということである。

思想・意識の役割を高めてすべてを解決するということは、革命と建設におけるすべての問題を技術・実務的かつ行政的な方法ではなく、人々の思想を発動させる方法で解決するということである。

第３章　チュチェ思想の指導的原則

チュチェ思想の指導的原則は、革命と建設のすべての分野において主体性を確立するための指導的指針である。ここには、自主的立場を堅持して創造的方法を具現し、思想・意識の役割を高めて革命と建設を成功裏に遂行するうえで提起される根本原則が解明されている。

第１節　自主的立場を堅持するための原則

自主的立場を堅持する原則は、革命と建設において自主性を堅持し、具現する指導原則である。

金正日総書記は次のように述べている。

「チュチェ思想の要求通り革命と建設を進めるためには、党および国家活動で自主性を堅持し、具現しなければなりません」

自主的立場を堅持するための原則は、思想における主体、政治における自主、経済における自立、国防における自衛の原則を内容としている。

思想において主体性の原則は思想分野で自主性を具現するための指導的原則である。

思想において主体性を確立することは、自主性を目指す人民大衆の革命闘争において提起される第一義的な要求である。

思想において主体性を確立するということは、革命と建設の主人としての自覚をもち、自国の革命を中心にすえてすべてのことを思考して実践し、すべての問題を自らの知恵と力で解決していく観点と態度をとることを意味する。

思想において主体性を確立してこそ、政治における自主、経済における自立、国防における自衛の原則を立派に貫徹できる。

思想において主体性を確立するためには何よりも、自主的な革命思想

と、自党の路線と政策で武装しなければならない。

人民大衆は自主的な革命思想で武装してこそ、革命と建設の主人としての自覚をもち、困難かつ複雑な状況下でも革命と建設を成功裏に遂行して行ける。

各国の革命的党の路線と政策は自主的な革命思想を具現したものであり、その国の革命と建設の唯一の指針である。自党の路線と政策でしっかり武装し、それを思考と実践の基準にしてこそ、自国人民の要求と自国の実情に即して革命と建設を行えるし、革命の主人としての責任を全うできる。

思想において主体性を確立するためにはまた、自国のものに精通し、それを大切にして押し立てなければならない。

各国の人民は自国の歴史と地理、経済と文化、自国人民の風習を熟知しなければならないし、特に自党の政策と革命歴史、革命伝統をよく知らなければならない。

思想において主体性を確立するためにはまた、強い民族的自尊心と革命的自負を持たなければならない。

民族的自尊心と革命的自負は、どの民族にも必要であるが、とりわけ小さな民族にとってより必要である。かつて長い期間、他国の抑圧を受けてきた小国の人民であるほど、民族的自尊心と革命的自負を高めるための闘争をより強化すべきである。

思想において主体性を確立するためにはまた、民族文化を発展させ、大衆の文化・技術水準を高めなければならない。

民族の文化を健全に発展させるためには帝国主義の思想的・文化的浸透を徹底的に防ぐとともに、民族の文化遺産にたいする復古主義的傾向と虚無主義的態度を排撃し、歴史主義の原則と現代性の原則を結びつけて、その優秀な伝統を時代と革命発展の要求、人民大衆の思想感情と情操に即して正しく継承し発展させるべきである。

国際的に熾烈な科学・技術競争が展開され、帝国主義者が「高度技術

兵器」と「物質的・技術的優勢」によって自分らの支配主義的野望を実現しようと悪辣に策動している状況下で、科学技術を発展させないと帝国主義の支配と略奪を免れ得ないし、国と民族の自主権も守れない。

思想において主体性を確立するためにはまた、事大主義をはじめとするあらゆる古い思想に反対してたたかわなければならない。

思想において主体性を確立するうえで何よりも有害な思想潮流は、事大主義である。事大主義は大国、先進国に仕え、崇拝する奴隷的屈従思想であり、自国と自民族を見下げ、蔑視する民族虚無主義思想である。自分自身と自国人民の力を信じない人々の行き届く終点はまさに事大主義であり、事大主義が案内する道は売国と反逆の道である。

事大主義に毒されれば自力を信じないようになり、他人を見上げながら盲目的に追随するところから他国が修正主義に走れば自分も修正主義に走り、他国が教条主義に陥れば自分も教条主義に陥るようになる。

人が事大主義に走れば愚か者になり、民族が事大主義に染まれば国を滅ぼし、党が事大主義に陥れば革命と建設を失敗させる。

政治における自主の原則は、政治分野において自主性を具現するための指導的原則である。

政治において自主性を堅持するということは、自国人民の民族的独立と自主権を固守し、自国人民の利益を擁護し自国人民の力に依拠する政治を実施するということを意味する。

政治において自主性を堅持することは、自主性を目指す人民大衆の革命闘争においてもっとも重要な要求である。

政治における自主性の堅持が重要であるのは、政治が社会生活において決定的意義を持つ分野であり、また政治的自主性が自主独立国家の第一の表徴であり、第一の生命であるからである。

政治において自主性を保障するためには、自主的な政権をもつべきである。

人々の自主的権利は国家主権で集中的に表現される。したがって、人民大衆が自主性を完全に実現するためにはまず、自主的な政権をもつべきである。

政治において自主性を保障するためには主体的な政治的力量をもつべきである。

政治的力量は革命勢力で基本をなす。主体的な政治的力量をしっかりととのえ、それに依拠してのみ、自主権を獲得し、かつ守り自主的な政治を保障することができる。

政治において自主性を保障するためには、自己の指導思想をもち、自分の決心にしたがって路線と政策を独自的に決定し貫徹しなければならない。

政治における自主性を保障するためには、対外関係で完全な自主権と平等権を行使すべきである。

国家間に領土の大小や人口の多少の差はあり得るが、高い国と低い国はあり得ない。

各党の間の関係も同じである。各党の間に高い、低い党はあり得ない。

自主性は国際主義と矛盾しないばかりか、それを強化するための基礎となる。自主性に基づいてのみ、国際主義的団結ははじめて自発的で平等的なものになり得るし、真実で強固なものとなり得る。

経済における自立の原則は、経済分野で自主性を具現するための指導的原則である。

経済において自立の原則を貫くということは、自立的民族経済を建設するということを意味する。言い換えれば、他国に従属せず独り立ちできる経済、自国人民に奉仕し、自国の資源と人民の力によって発展する経済を建設することを意味する。

経済において自立の原則を守ることは、かつて帝国主義の支配と略奪により経済的･技術的に立ち後れている国々において死活の問題として提起

される。これらの国では自立的民族経済を建設しなければ、帝国主義者の新植民地主義政策を退けて彼らの支配と搾取から完全に脱することができず、民族的不平等をなくし、自主の道へと力強く前進していくこともできない。

経済における自立の原則を守るためには、経済建設で自力更生の原則を堅持しなければならない。

自力更生をせず、他国の援助を受けて経済を建設しようとすれば、他国に経済的に従属されかねない。真に自立的民族経済を建設するためには自力更生の旗を高く掲げるべきである。

経済において自立の原則を貫徹するためにはまた、経済を多方面的かつ総合的に発展させなければならない。

先軍時代の要求に合わせて経済を多方面的に、総合的に発展させるためには国防工業を優先的に発展させながら軽工業と農業を同時に発展させる経済建設路線を徹底的に貫徹しなければならない。

資本主義、帝国主義経済が金儲けを目的とするならば、自立的民族経済は自国と人民の需要を満たすことを目的とする。それゆえ、自立経済は当然、国を富強にし、人民の生活を高める上で必要な重工業及び軽工業製品と農業生産物を自体で生産し保障できるように多方面的に、総合的に発展されなければならない。このような経済を建設してこそ、経済を強固な土台の上で安全に早く発展させ得る。

経済における自立の原則を貫徹するためには、経済を近代的な技術で装備し民族技術人材を大々的に育成すべきである。

自体の発達した技術があってこそ、国の自然富源を効果的に開発・利用でき、人民経済を多方面的に発展させ得る。と同時に民族技術文明から遠く立ち後れていた国々が民族技術幹部問題を解決するのは、新社会建設で格別に重要な課題として提起される。

経済における自立の原則を貫徹するためには、自体の原料、燃料基地をつくり、対外貿易に大きな力を入れなければならない。

原料と燃料を他人に依存することは経済の命綱を他人に任せるのと同然である。自立的民族経済は自体の原料と燃料に基づいている。原料と燃料を他人に依存する経済は自分の足で歩めないし、自国人民に奉仕できない。こうした経済は従属経済に同然である。

国家間に互いに経済的・技術的に緊密に協力することは、各国の経済的自立を保障し経済的威力を強化する上で重要な問題と提起される。他国と親善協力関係を発展させるためにも、対外貿易を絶えず拡大・発展させるべきである。

経済において自立の原則を貫徹するためには、経済指導と管理を改善し党の併進路線をあくまで貫徹すべきである。

国防における自衛の原則は国防分野で自主性を具現するための指導的原則である。

国防において自衛の原則を貫くというのは、自らの力で自国の防衛に当たることを意味する。言い換えれば、それは各国の人民が自分を守り得る強力な国防力を建設し、国防建設と軍事活動におけるすべての問題を自国人民の利益と自国の実情に即して解決していくという意味である。

国防において自衛の原則を貫くことは、自主性を目指す人民大衆の革命闘争の勝利を軍事的に保証するための重要な要求である。

国防力を強化することは、国と民族の生死存亡に関わる重大な問題である。国防力が弱ければ、しまいには他人に従属されて奴隷の運命を免れ得ない。

国防において自衛の原則を貫くためには、自衛的な革命武力を持たなければならない。

革命軍隊を政治的・思想的に、軍事的・技術的に絶えず強化してこそ、社会主義を守り、人民の幸福を保証できる。

国防において自衛の原則を貫徹するためには全人民的、全国家的防衛体系を確立すべきである。

全人民的、全国家的防衛体系を確立するためには、全民を武装させ、全国を要塞化しなければならない。そうしてこそ、全民の力を引き出して敵がいつどこから攻めてきても適時にことごとくせん滅でき、帝国主義侵略から国を頼もしく守ることができる。

国防において自衛の原則を貫徹するためには、革命武力の政治的・思想的優位性を高く発揮すべきである。

国防において自衛の原則を貫徹するためには、自体の国防工業を建設すべきである。

戦争は軍人の思想的・精神的力と軍事的知略の対決であると同時に、武装装備の対決である。自体の国防工業を創設し発展させてこそ、革命戦争に対処できる近代的な兵器と軍事的・技術的機材を適時に、円満に備えられるし、自国の実情に即して軍事装備を絶え間なく更新できる。

国防において自衛の原則を貫徹するためには、後方を強化すべきである。

第 2 節　創造的方法を具現するための原則

創造的方法を具現するための原則は、革命と建設で創造性を具現していくための指導的原則である。

金正日総書記は次のように述べている。

「チュチェ思想の要求通りに革命と建設を進めるためには、革命の路線と戦略・戦術の確立、さらには、その貫徹において創造的方法を具現しなければなりません」

創造的方法を具現するための原則は、人民大衆に依拠する方法と実情に即しておこなう方法を内容としている。

人民大衆に依拠する方法は、革命と建設で創造性を具現するための指導的原則である。

人民大衆に依拠するというのは、人民大衆の力に信じ、彼らの創造力を引き出して革命と建設で提起されるすべての問題を解決することを意味する。

人民大衆に依拠しなければならないことは、人民大衆が革命と建設を推し進める直接的担当者だからである。

人民大衆は革命と建設の主人であり、尽きない創造的能力を持っているだけに、人民大衆に依拠してこそ、いかに困難な問題も成功裏に解決し革命と建設を力強く早められる。それゆえ、人民に信じ人民から学びながら人民を奮起させるべきである。

人民大衆に依拠して革命と建設を遂行するためには大衆の要求と志向を反映して、路線と政策を策定しそれを大衆自身のものにしなければならない。

人民大衆は誰よりも現実を良く知り、豊かな経験を持っている。広範な大衆の意思と要求を総合し一般化してこそ、人民大衆の志向と利益に合致する正しい路線と政策を策定し大衆の心を捉え、彼らを闘争へと鼓舞できる。

人民大衆の意思と志向を反映して立てた路線と政策は、大衆の中に深く浸透させて大衆自身のものになるようにすべきである。

人民大衆に依拠して革命と建設を進めるためには、大衆を一つの政治的勢力として結束すべきである。

大衆の力は団結にある。大衆は一つに団結されるとき、革命闘争と建設事業で驚くべき力を発揮する。

人民大衆を一つの政治的勢力に固く結束するためには、階級路線と大衆路線を正しく結び付けなければならない。

階級路線と大衆路線をおろそかにすれば、革命の動力となる階級と階層を反動にすることができる。

人民大衆に依拠して革命と建設を遂行するためには、革新を妨げるあらゆる古いものに反対して闘うべきである。

消極性と保守主義、敗北主義に反対する闘争を強化してこそ、人民大衆の創造力を高く発揮させ、革命と建設で絶え間ない革新と高揚を起こすことができる。

人民大衆に依拠して革命と建設を進めるためには、大衆的運動を広く展開すべきである。

大衆的運動を妨害するあらゆる要素に反対し、大衆の自発性と創意性を高く発揮させ、大衆的闘争を組織化し絶えず発展させるならば、いかに困難な問題も成功裏に解決できる。

人民大衆に依拠して革命と建設を進めるためには、革命的活動方法を確立すべきである。

革命的党は常に革命的活動方法を堅持すべきであり、特に政権を掌握した後は発展する現実に合わせて活動方法を絶えず改善し完成すべきである。

実情に合わせておこなう方法は、革命と建設で創造性を具現するための指導的原則である。

実情に合わせて行うというのは、すべての問題を変化、発展する現実と国の具体的条件に合わせて創造的に解決することを意味する。

革命運動はすべての問題を変化、発展する現実と自国の具体的条件に合わせて解決することを要求する。

革命闘争を自国の実情に合わせて遂行するためには、自国の革命の主客観的条件をよく打算し、それに合わせて路線と政策、戦略戦術を規定すべきである。

革命の闘争目標と主な打撃方向を定め、革命勢力を正しく編成し、革命闘争の形態と方法を規定し、革命の適切な時期を正しく選択するなど、革命の路線と政策、戦略戦術を作成する上で提起されるすべての問題を現下の客観的条件と環境を十分に考慮しながらも人民大衆の自主的要求と準備程度を基本にして規定すべきである。

革命闘争を自国の実情に合わせて遂行するためには、既成の理論に正しく対応すべきである。

既成の理論の命題や公式に対応する上でそれがいかなる時代の要求を反映し、またいかなる前提の下で出されたかを突き詰めて自国の具体的現実と特性に合わせて適用すべきである。

革命闘争を自国の実情に合わせて遂行するためには、時代の歴史的条件と自国の具体的実情に合わせて革命と建設の新たな原理と方途を積極的に探求すべきである。

革命的党は時代が変わり、革命と建設の前進に合わせて革命思想と理論を探求し、発展させるための活動に深い注意を払うべきである。この活動を疎かにして革命思想の修正主義的変質や教条主義的沈滞をもたらすと革命は正しい指導指針を持たなくなり、曲折と失敗を免れえない。

革命闘争を自国の実情に即して遂行するためには、他人の経験に批判的に、創造的に対すべきである。

他人の経験はあくまでもその国の社会的・歴史的条件と民族的特性を反映したものである。他人のすぐれた経験を受け入れる場合にもそれを鵜呑みにするのではなく、自国の実情に即して受け入れる立場を堅持すべきである。

第３節　思想を基本に捉える原則

思想を基本に捉える原則は、革命と建設において提起されるすべての問題を人民大衆の意識性を高く発揮させて解決していくための原則である。

金正日総書記は次のように述べている。

「革命運動において人民大衆の自主的な思想・意識は決定的な役割を果たすため、革命と建設では必ず思想を基本にとらえ、人民大衆の自発性と積極性を高めるための思想改造、政治活動をすべての活動に優先させなければ

ばなりません」

思想を基本に捉える原則は、思想改造優先の原則と政治活動優先の原則を基本内容としている。

思想改造優先の原則は、革命と建設で提起されるすべての問題を人民大衆の意識性を高く発揮させて解決するための指導的原則である。

思想改造を優先させるということは、人々の思想・意識を改造して彼らを真の社会的人間に準備させる活動を他のすべての活動に優先させるということである。

人間改造は本質において思想改造である。人々の価値と品格を決定するのは思想であり、したがって人間を改造する上で思想を改造することが何よりも重要である。

思想改造は人々の物質生活条件を改変する活動や彼らの文化・技術水準を高める活動よりもっと困難で複雑な事業であるだけに思想改造活動にさらに大きな力を入れてそれをすべての活動に確固と優先させるべきである。

思想改造で基本は革命的世界観、革命観を確立することである。

チュチェの革命観は、革命の主人として担うべき革命にたいする主体的観点と立場である。チュチェの革命観は人民大衆を中心に据えて革命にたいする観点と立場であり、人民大衆のために頑固たたかっていく革命精神である。

チュチェの革命観を確立するということは、革命の本質と根本的目的、その実現方途を正しく認識し、革命のためにすべてを尽くしてたたかう覚悟と意志を信念として持つことを意味する。

チュチェの革命観を確立するためにはまず、チュチェ思想でしっかりと武装し、堅実な革命精神を持たなければならない。

チュチェ思想で武装し堅実な革命精神を所有した人こそ、いかなる絶海孤島でも自分の信念と節操を最後まで守り、党と領袖を忠実に奉じる真の

革命闘士に育てられる。

チュチェの革命観を確立するためにはまた、革命の主体にたいする正しい観点と立場を持つべきである。

革命の主体は領袖、党、軍隊と人民の統一体であるだけに、革命の主体にたいする正しい観点と立場を確立するためには、革命的領袖観、組織観、大衆観を持つべきである。また、革命の主体は運命を共にする社会的・政治的生命体であるだけにチュチェの革命観を確立するためには革命的道徳観を確立すべきである。

チュチェの革命観で中核をなすのは、革命的領袖観である。

チュチェの革命観の確立程度は革命的領袖観をどう確立したかに集中的に表れる。

チュチェの革命観が確固たる信念となるためには、人生観化されなければならない。

革命観を人生観化するということは、人々をして革命観を自己の生活の要求として、確固たる信念として受け入れ、革命観の要求通りに生き、働くことを生活化するにしていくことを意味する。

政治活動の優先の原則は革命と建設で提起されるすべての問題を人民大衆の意識性を高く発揮させて解決するための指導的原則である。

政治活動を優先させるということは、人々を教育し、発動させるための活動を他のすべての活動に優先させることを意味する。人民大衆を党の路線と政策で武装させ、彼らの革命的熱意を呼び起こすことによって、大衆自身が高い自発性と積極性を持って革命闘争と建設活動を成功裏に遂行するようにするところに政治活動優先の本質がある。

政治活動を優先させることは思想を基本に捉えて、大衆の思想を発揮させて彼らを革命課題の遂行へと力強く動員する方法であり、革命闘争と建設活動で常に確固と堅持すべき基本原則である。

政治活動優先の原則を具現する上で重要なのはまず、政治活動を優先さ

せながら行政･実務活動と技術･経済活動をこれに正しく結合することである。

社会主義建設は全社会的な規模で計画的に推進される高度で組織化された活動であり､近代科学技術にもとづいておこなわれる複雑な活動なので、それは緻密な行政・組織活動、科学的な技術・経済活動を求める。

政治活動優先の原則を具現する上で重要なのはまた、政治的・道徳的刺激を基本にしながらここに物質的刺激を正しく配合することである。

社会主義社会ではどこまでも政治的・道徳的刺激を基本にしてこそ、人民大衆が革命の主人としての正しい立場と態度をもって自発的情熱を出して働ける。

政治活動優先の原則を具現する上で重要なのはまた、政治活動を科学的で革命的な方法に依拠しておこなうことである。

政治活動を説伏と教育の方法で、多様な形式と方法で斬新に行うべきである。

政治活動を大衆自身の活動として展開し革命的実践と密接に結びつけて行うべきである。

第２編　チュチェの革命理論

チュチェの革命理論は、勤労人民大衆を中心に据えて展開した革命理論であり勤労人民大衆の役割にもとづく革命の戦略と戦術である。

チュチェの革命理論には革命の一般原理から民族解放、階級解放に関する理論、社会主義建設に関する理論、現時、社会主義強国建設に関する理論と祖国統一､全世界の自主化に関する理論に至るまで自主性を目指す革命運動のすべての段階､すべての分野の理論と戦略･戦術が全面的に集大成されている。

第１章　革命の一般原理

チュチェの革命理論は人民大衆を中心に据えて革命の本質と根本原理から出発して先軍革命の原理と原則､革命勝利の根本要因と革命運動で領袖の占める地位と役割にいたるまで革命の一般原理を新たに示す。

第１節　革命の本質と革命の根本原理

革命の本質と根本原理に関する問題は、革命理論を展開する上でもっとも基礎的かつ出発的な問題である。

チュチェの革命理論は人民大衆を中心に据えて革命の本質を新たに解明している。

金日成主席は次のように述べている。

「革命は本質において人民大衆の自主性を擁護し実現するための組織的な闘争であります」

革命はまず、人民大衆の自主性を擁護し実現するための闘争である。

人民大衆が繰り広げる革命闘争はその類型が多様で発展段階における闘争課題と方法が異なるが、それはあらゆる民族的及び階級的な従属と古い社会の遺物の束縛から脱して、自主性を擁護し実現するところにその目的がある。

人民大衆の自主性を擁護し実現するための闘争はすなわち古い物をなくし新しいものを創造する闘争である。

古い物は人民大衆の自主性の実現を妨げるものであり、新しいものは人民大衆の自主性の実現に寄与することである。古い物をなくし、新しいものを創造する闘争過程に人民大衆の自主性が擁護され実現される。こういう意味で革命を古い物をなくし、新しいものを創造する闘争、自主性の実現を目標として押し立てる深刻な社会的変革であるという。

革命はまた人民大衆の組織的な闘争である。

革命が人民大衆の組織的な闘争であるというのは、それが一定の組織の指導の下に意識化され組織化された人民大衆の団結した力によって遂行される闘争であるというのである。

革命は自然発生的に、分散的に行われるものではない。革命は意識化され組織化された人民大衆の団結した力によって遂行される。

革命が前進する過程は組織を組んでそれを拡大していく過程である。

人民大衆の組織的な闘争のもっとも高い形態は、党と領袖が導く革命組織によって一つの政治的勢力として結束された人民大衆が遂行する闘争である。

人民大衆の自主性を擁護し実現するための組織的な闘争としての革命は二つの基本内容を持っている。

革命の基本内容の一つは、古い社会制度を覆して新たな社会制度を樹立することである。

古い社会制度が新たな社会制度に変われば、人民大衆の自主性を目指す闘争で前進がなされ、彼らの地位と役割が高まる。

社会主義制度の樹立によって人民大衆ははじめて、国家と社会の主人としての地位を占め、主人としての役割を果たし、社会的・政治的自主性を全面的に実現していくようになる。

搾取社会で搾取階級、支配階級間に行われる政変や改良、改革や改変は人民大衆の自主性を擁護し実現できるように社会制度の根本的な変化をもたらす社会的変革ではないため、革命となり得ない。

革命の基本内容の今一つは思想、技術、文化分野で古い物を新しいものに変えることである。

新しい社会制度が人民大衆に主人の地位を保障するといっても人民大衆が思想的・文化的に技術的に立ち後れた状態では、自然の束縛と古い思想文化の束縛から脱せず、社会の主人としての責任と役割を立派に行えず、社会の主人としての責任と役割を十分に発揮できず、人民大衆の自主性が完全に実現され得ない。

したがって、思想、技術、文化分野で古い物を新しいものに変える３大革命も人民大衆の自主性を実現するための闘争の重要な内容となる。

革命の本質的内容をなす古い社会制度を転覆し、新たな社会制度を建てる革命と思想、技術、文化分野においても古い物を新しいものに変える革命は一定の差をもつ。

まず、その内容と闘争対象で差がある。

古い搾取社会制度を新たな社会主義制度に変える革命が人民大衆の社会的・政治的自主性を実現するための闘争であるなら、思想、技術、文化の３大革命は人民大衆を古い社会の遺物の束縛から解放して、彼らの自主性を完全に実現するための闘争である。

古い搾取社会制度を新たな社会主義制度に変える革命の闘争対象が古い搾取社会制度の維持に利害関係をもって、社会の発展を阻害する反動的な搾取階級、支配階級であるならば３大革命において一掃すべき対象は搾取社会が残した遺物である古い思想と文化、立ち後れた技術である。

また、その遂行方式と方法、期間においても差がある。

古い社会制度を新たな社会制度に変える革命が暴力的方法によって遂行されるならば、思想、技術、文化の３大革命は人々を教育・改造する方法、思想、技術、文化分野で新たなものを創造して古い物をなくす方式に遂行される。

社会制度を変革するための人民大衆の革命闘争は搾取社会制度を覆し、社会主義制度を樹立すれば終わる。しかし、３大革命は人民大衆が政権を掌握し、新社会建設の道に入った初期から始まり、社会主義制度が樹立した後も全面的に行われ、社会主義建設の全期間に渡って遂行される。

チュチェの革命理論は革命の根本原理を解明する。

金正日総書記は次のように述べている。

「人民大衆は革命と建設の主人であり、革命と建設を推進する力も人民大衆にあるというのが、チュチェ思想が解明した革命の根本原理である」

革命の根本原理は、革命と建設の主人は人民大衆であり、革命と建設を推進する力も人民大衆にあるということである。

革命と建設の主人が人民大衆だということは、人民大衆が革命と建設を受け持って遂行すべき権利と責任を担っている直接の担当者だという意味である。

人民大衆は自主的な生活を求めるだけに革命と建設で切実な利害関係をもつ。革命と建設が人民大衆自身のための事業であるだけに、人民大衆は革命と建設を受け持って遂行すべき当然の権利を持っている。

革命と建設は人民大衆自身が責任をもって遂行すべき事業である。革命と建設は人民大衆のための事業であるだけに、人民大衆自身が責任をもって遂行すべきである。

革命と建設を推進する力が人民大衆にあるというのは、人民大衆が革命と建設で決定的な役割を果たすことを意味する。

人民大衆は革命と建設を推進できる尽きない創造的力と革命的能力を

もつことによって、革命と建設で決定的な役割を果たす。

革命の根本原理は、人民大衆の自主性を目指す革命運動が国と民族を単位にしてそれぞれの発展段階でさまざまな特性をもって、多様に行われている今日の革命実践の要求を正しく反映した科学的な原理である。

革命と建設が民族国家を単位にして行われる状況下で誰も他国の革命と建設の主人になれないし、他国の革命に責任をもって提供することもできない。それゆえ、各国の革命と建設で提起されるすべての問題を処理し解決する権利と責任も、革命と建設を推進する決定的な力もその国の人民自身にある。

革命の根本原理は人民大衆の運命開拓の筋道を正しく示すもっとも革命的な原理である。

人民大衆は自己の運命の主人たる自覚をもち、自らの力で革命闘争と建設事業を行うときにのみ自らの運命を成功裏に開拓できる。

第2節　先軍革命原理と原則

チュチェの革命理論は革命の銃剣を中心にすえて革命運動に作用する革命原理と原則について全面的に解明する。

先軍革命原理は先軍革命偉業の勝利的前進を目指す要の問題に科学的かつ実践的な解答を与えるための起点である。

先軍革命原理は銃剣哲学と軍隊は党、国家、人民であるという原理を包括している。

先軍革命原理の重要な内容をなしているのは、銃剣哲学である。

金正恩委員長は次のように述べている。

「特に金正日同志は、金日成同志の銃剣重視の思想を先軍革命思想、先軍政治理論として深化、発展させ、社会主義強国建設理論を示すことにより、金日成主義の牽引力と生命力を一段と高め、革命実践でその正当性を

実証しました」

銃剣哲学は銃剣には銃剣でもって立ち向かい、革命は銃剣で保証しなければならないということである。

革命で基本は銃剣である。革命の銃剣とは思想精神的力と結合された武装力、革命武力を意味する。革命闘争は反革命勢力との力の対決を伴うだけに強い革命武力に依拠してのみ、革命で勝利することができ、その革命を守り抜ける。

銃剣哲学の基本内容は、革命は銃剣によって開拓され、前進し完成されるということである。

革命が銃剣によって開拓されるということは、社会的・政治的自主性を実現するための人民大衆の革命闘争が革命武力に依拠する武装闘争の方法によって始まるということである。

革命が銃剣によって前進し、完成されるということは、人民大衆の自主性を実現するための革命偉業が強力な軍事力によって立派に遂行されるということである。

先軍革命原理は、軍隊は党であり、国家であり、人民であるということである。

軍隊はすなわち党であるということは、革命軍隊によって革命的党の存在と発展が左右されるということである。

軍隊はすなわち国家であるということは、銃剣によって社会主義国家政権が維持され絶えず強化、発展されることを意味する。

軍隊はすなわち人民であるということは、革命軍隊があってこそ、人民大衆が自らの自主的地位と尊厳を固守し、自主的かつ創造的な生活を享受できることを意味する。

先軍革命原則は軍事優先の原則と先軍後労の原則を包括している。

先軍革命原則で重要なのは、軍事優先の原則である。

金正恩委員長は次のように述べている。

「先軍政治は、銃剣重視、軍事優先の原則に立って軍事をすべての事業に優先させ、人民軍を中核、主力部隊として革命の主体を強化し、それに依拠して社会主義偉業を勝利に向けて前進させていく金正日式社会主義基本政治方式です」

軍事優先の原則はまず、革命と建設において軍事を他のすべての事業に確固と先行させてそこに最大の力を入れる原則である。

これは軍事を国と民族、革命の運命に関わる死活の問題と見なしてそこに第一義的な意義を付与し、国防力の強化に国のすべての力量を集中することを意味する。

軍事優先の原則はまた、軍事活動を優先させながら、同時に革命と建設のすべての分野を軍事活動の発展に追いつかせて共に調和をなして推し進める原則である。

これは軍事活動で収めた成果を土台にして国の富強・繁栄と人民の幸福を創造する上で画期的な転換をもたらすことを意味する。

軍事優先の原則は革命と建設において堅持すべき根本原則である。

軍事優先の原則はまず、強力な軍事力を備える確固たる保証である。

軍事優先の原則は、軍事を第一の地位にすえてここに国の総力を集中して短時日内に国の全般的軍事力を急速に強化し、その水準を絶えず高めることによって、軍事力を短時日内に迅速に強化するようにする。それだけでなく、武装装備の近代化を積極的に実現し国のすべての人的、物的資源を軍事活動に総動員することによって、軍事力の質的水準を非常に高め、それにたいする量的需要を適時に十分に保障するようにする。

軍事優先の原則はまた、国の全般的国力の強化の根本的な保証である。

軍事優先の原則は、国防事業に第一義的な力を入れる過程に収められた科学的・技術的、経済的成果を強固にし、急ピッチで発展させることによって、国力のしっかりした科学的・技術的基礎をつくるようにする。

軍事優先の原則は、軍隊を中核、柱にして革命の主体を強化し、国防

工業の強力な物質的・経済的土台をさらに強化し、軍事力の近代化に必要な科学的・技術的問題を成功裏に解決することによって、全般的国力を最上のレベルで準備するようにする。

先軍革命原則で重要なのは先軍後労の原則である。

先軍後労の原則は、革命軍隊を革命と建設において主力軍に押し立てる原則である。

革命の主力軍であるという時、それは革命の主体をなす革命の力量のうち、中核的な地位を占め、先鋒的、主導的役割を果たす革命集団を意味する。

もっとも革命的で戦闘的な集団である革命軍隊を革命の中核部隊、手本に押し立て、革命軍隊の先鋒的役割に依拠して革命と建設で提起されるすべての問題を解決する原則がまさに先軍後労の原則である。

先軍後労の原則は、革命と建設で一貫して堅持すべき根本的な原則である。

先軍後労の原則はまず、革命の主体をしっかりと固めるための根本的な保証である。

先軍後労の原則は、革命軍隊を中核に、手本に押し立てることにより、領袖への忠誠心に基づく革命隊伍の思想的・意志的団結を全面的に強化するようにする。と同時に革命軍隊を手本に押し立てて革命隊伍の中に領袖の命令、指示を決死、貫徹する鋼鉄の規律を確立するようにする。

先軍後労の原則はまた、社会主義建設のすべての活動を革命的に、戦闘的に展開するための確固たる保証である。

先軍後労の原則は革命性と戦闘力のもっとも強い革命軍隊を社会主義建設の先鋒隊として押し立てることにより、革命軍隊が先頭に立って社会主義建設の進軍路を拓くようにする。それだけでなく、革命軍隊の闘争気風と態度が全社会に漲るようにして、社会の全構成員を創造と闘争へと鼓舞、激励する。

第３節　革命勝利の根本的要因

チュチェの革命理論は社会で革命が起こる原因が何かについての科学的な解明にもとづいて革命勝利の根本的要因を新たに解明している。

人民大衆の自主性にたいする侵害と拘束は革命が起こる重要な原因である。

金正日総書記は次のように述べている。

「自主性を生命とする人間が自主性の侵害に反対してたたかうのは当然のことです」

搾取社会で人民大衆は搾取階級の搾取と抑圧によって、自らの自主性を無残に蹂躙されるようになる。搾取と抑圧があるところに反抗があり、反抗のあるところには革命が起こるはずである。

かつて、ブルジョア革命や社会主義革命も搾取階級の抑圧に反対して立ち上がった人民大衆の闘争によって起こった。植民地従属国の人民にたいする帝国主義者の支配と略奪はその国の人民をして反帝民族解放闘争に立ち上がらざるを得なかった。

帝国主義者の植民地支配と略奪がある限り、民族解放闘争が起こるのは法則である。結局、搾取社会では搾取階級の搾取と抑圧によって人民大衆の自主性が侵害されて革命が起こるようになる。

社会主義社会で人民大衆は搾取社会が残した古い遺物によって自主性が拘束される。社会主義社会に残っている古い社会の遺物である思想、技術、文化の立ち後れは、人民大衆の自主性を実現する上で阻害を与える。それゆえ、人民大衆は搾取社会の遺物である思想、技術、文化的後進性をなくすために革命闘争を繰り広げるようになる。

自主性にたいする侵害と拘束がある限り、自主性を擁護し実現するための人民大衆の革命闘争が起こることは必然的である。

しかし、人民大衆の自主性が侵害され、拘束されるからといって革命

がいつでもおのずから起こるのではない。

革命が起こる直接の原因の一つは、人民大衆の高い自主意識にある。

人民大衆が高い自主意識をもつということは、彼らが自らの階級的境遇と利害関係を自覚し、あらゆる従属と束縛から脱して自主的に生きようとする要求を提起し、それを実現するために闘う思想的覚悟と意志を持つことを意味する。自主的な思想意識が高くない人間はいくら搾取され抑圧されてもそれを宿命的なものとして受け止めながら革命闘争に立ち上がれない。

革命が起こる直接の原因のいま一つは、人民大衆の高い政治的準備にある。

人民大衆が政治的に準備されるということは、彼らが組織的に結束されて強力な一つの政治的勢力をなすことを意味する。

革命組織に依拠せずには、革命の道に立てないし、たとえ革命に参加したとしても革命の道を最後まで行けない。

革命はそれを担当すべき人民大衆が自らの前衛部隊をもって組織的に闘争できる実際的な準備を備えてこそ起こり、前進する。

今日、資本主義諸国で革命が起こらない直接の原因は、人民大衆が自主的な思想意識で武装されず、反革命勢力を打ち倒すほどの政治勢力に準備されなかったところにある。

チュチェの革命理論は、革命勝利の根本要因を新たに解明した。

革命勝利の根本要因に関する問題は、革命の直接の担当者である革命の主体と客観的条件との関係において何が決定的であるかという問題である。

革命勝利に作用する客観的条件には、物質的・技術的手段、社会制度、国際的環境と自然地理的環境などが含まれる。客観的条件が革命に重要な作用をするが、それは革命勝利の根本要因とはなり得ない。

革命勝利の根本要因は革命の主体を強化し、その役割を高めるところにある。

革命の主体は革命の直接の担当者であり、推進力である。

革命の主体によって有利な客観的条件がつくられ正しく利用される。

有利な客観的条件は主体の主導的な作用と役割によってもたらされ、革命勝利に作用するようになる。革命の主体が準備されず、その役割をりっぱに果たせないと、有利な客観的な条件がもたらされないし、たとえ、条件が準備されていても革命勝利を達成することに正しく利用できない。

主体の主導的な作用と役割によって、革命に不利だった客観的条件が有利なものとして変わることができる。反対に革命の客観的な条件が有利であっても主体を強化しその役割を高めないと革命の勝利を達成できない。

革命闘争において客観的条件が重要な作用をするが、革命の勝敗を左右する決定的要因は客観的条件にあるのではなく、革命の主体をいかに強化し、その役割をどのように高めるかというところにある。

革命はその直接の担当者である人民大衆が意識化、組織化されたときにのみ起こりうるし、その成敗の根本的な要因も客観的条件に求めるのではなく、主体に求めなければならない。革命の主体を強化しその役割を高めるところに革命勝利の根本的な秘訣がある。

第４節　革命闘争における領袖の地位と役割

革命闘争は他の社会的運動とは異なり、党と領袖の指導の下に行われる勤労人民大衆の目的・意識的かつ組織的な闘争である。それゆえ、革命闘争で領袖の占める地位と役割を正しく解明してこそ革命を、領袖を中心にして正しく理解し、領袖に忠実できる。

チュチェの革命理論は史上初めて、革命偉業遂行において領袖の占める絶対的な地位と決定的な役割に対する科学的な解明に基づいて、領袖を心から押し戴く姿勢と立場を独創的に示す。

領袖は、歴史の発展と革命闘争において絶対的地位を占める。

領袖が歴史の発展と革命闘争において絶対的地位を占めるということは、領袖が革命の主体、社会的・政治的生命体の中心として誰も代わることのできない特出した地位にあるという意味である。

領袖は何よりも人民大衆を、一つの社会的・政治的生命体として結合させる思想的・組織的・道徳信義の団結の中心である。

領袖は、党と軍隊と人民の思想的・意志的統一の中心である。

領袖はまた、党と軍隊と人民の自主的要求と利害関係を反映して革命思想を打ち出す。領袖の革命思想は軍隊と人民の要求と利害関係を正しく反映して、彼らに闘争の前途を正しく示すことによって、軍隊と人民を思想的・意志的に固く結束させる思想的基礎となる。

領袖は党と軍隊と人民の組織的団結の中心である。

領袖は革命的党を創建し、その指導を受ける政治組織を結成し、それを通じて軍隊と人民を組織的に結束させる。それゆえ、領袖は党と軍隊と人民の組織的団結の中心となる。

領袖は党と軍隊と人民の道徳的・信義的統一の中心である。

社会的・政治的生命体の中で革命的信義と同志愛は領袖を中心にしてなされる。革命的信義と同志愛は領袖と戦士の間で最も高く発現される。

領袖はまた、社会的・政治的生命体の活動を統一的に指揮する指導の中心である。

個別的人間の生命活動を指揮する中心が脳髄であるように、さまざまな政治組織と集団、それに属した多くの大衆からなる社会的・政治的生命体の活動を統一的に指揮する中心はただその最高脳髄である領袖のみができる。

領袖によってすべての政治組織と集団、それぞれの階級、階層の広範な人民大衆に対する唯一の指導が実現されることによって、社会的・政治的生命体の活動が統一的におこなわれる。

領袖は人民大衆を一つの社会的・政治的生命体に結びつける統一団結

の中心であり、社会的・政治的生命体の活動を統一的に導く指導の中心であることによって、名実共に、社会的・政治的生命体の中心として革命闘争で絶対的な地位を占めるようになる。

領袖は歴史発展と革命闘争で決定的な役割を果たす。

領袖が歴史発展と革命闘争で決定的な役割を果たすということは、領袖が革命の主体である人民大衆の運命を開拓する上で決定的な役割を果たすことを意味する。

領袖は、何よりも革命の指導思想を創始して深化、発展させて人民大衆に革命闘争の前途を指し示す。

領袖は歴史発展の合法則性と人民大衆の自主的要求、利害関係を反映し人民大衆の革命闘争経験を正しく分析し一般化して革命の指導思想を創始し、それをさらに深化発展させていく。

領袖はまた、革命の主体をつくりあげ、その役割を絶えず高めて革命を勝利へと導く。

領袖は革命思想を創始して人民大衆を意識化できる思想的糧を準備させるだけでなく、それでもって人民大衆を武装させる活動を組織、指導する。領袖は党をはじめとした革命組織と軍隊を創建し、組織性と規律性、団結力においてどの社会的集団よりも優れた革命軍隊を中核力量にして、人民大衆を党の周りに結束して革命隊伍の統一団結を実現することによって、革命の強力な主体をもたらす。

領袖は革命発展の各時期、各段階に人民大衆の自主的要求と利益、革命力量の準備程度、客観的条件を分析した上で、科学的な戦略と戦術、路線と政策を提示して人民大衆を組織、動員して彼らの創造力を最大限に発揮するよう賢明に導く。

領袖はまた、後継者問題を正しく解決して革命の最終的な勝利を成し遂げるようにする。

領袖は革命軍隊と人民をして革命闘争の実践の中で革命偉業を継承し

完遂できる品格と資質をそなえた真の人民の指導者を後継者として推戴するようにする。また、後継者の思想と指導を奉じられる組織的・思想的基礎を強固に築いて、後継者の指導体系を徹底的に確立することによって、革命偉業が代を継いで継承され、完成されるようにする。

領袖の革命偉業を、代を継いで継承、完成する上で領袖の後継者は絶対的な地位を占め、決定的な役割を果たす。

領袖が切り開いた革命偉業は、一世代で終わるのではなく、幾世代にわたって行われる長期的な偉業であるため、それを完成するためには領袖の偉業を、代を継いで継承しなければならない。

領袖の後継者は、領袖にたいする忠誠心とぬきんでた英知、卓越した指導力と人民的品格をもっとも崇高な水準で体現した人民の指導者である。

領袖の後継者は先代の領袖との関係では後継者であるが、人民大衆との関係では領袖の地位と役割をそのまま受け継いだ指導者である。それゆえ、領袖の後継者は領袖の革命偉業を継承し完成する上で絶対的地位をそのまま継承する。

領袖の後継者は領袖の革命偉業を継承し完成する上で決定的な役割を果たす。

領袖の後継者は領袖が創始した革命思想を代を継いで固守し、継承、発展させ、それが全社会に徹底的に具現されるようにする。そして領袖が成し遂げた革命伝統をしっかりと守り代を継いで継承し、発展させ、領袖が成し遂げた革命隊伍の政治的・思想的統一と純潔性を永遠にしっかりと固守していく。

革命運動で領袖が決定的な地位を占めて、決定的な役割を果たすという見解と観点から領袖を心から押し戴く姿勢と立場が生まれる。

金正恩委員長は次のように述べている。

「われわれは金正日同志をわが党と人民の永遠なる領袖として高く仰ぎ、金正日同志の革命的生涯と不滅の革命業績を永遠に輝かせていくべき

です」

領袖を心から高く奉じる姿勢と立場は一言で言って、領袖への限りない忠誠心である。

領袖への忠実さで重要なのはまず、領袖を高く仰ぎ、領袖の権威を絶対化することである。

領袖を高く押し戴くということは、領袖を奉じていることを最高の栄誉、最大の幸福とみなし、領袖に自己の運命を全的に委ね、領袖がおられる限り、やりきれないことはないという鉄の信念をもって、領袖のために自分のすべてを尽くして闘うことである。

領袖の権威を絶対化するということは、領袖以外には誰も知らないという確固たる立場をもって、いかなる逆境の中でも領袖を政治的･思想的に、命をもって擁護、固守し、領袖の権威と威信を高めるためにすべてを尽くし、領袖の権威と関わる問題では些細な譲歩もしないということである。

領袖への忠実さで重要なのはまた、領袖の思想と意図を信条化し、その執行において無条件的な原則を守ることである。

領袖の思想と意図を信条化するということは、領袖の思想と意図をもっとも正当なものとして受け入れて仕事と生活の唯一の指針にし、領袖の思想を固く守り、ひたすら領袖の思想と意図通りに思考し行動することを意味する。

領袖の思想と路線を貫徹する上で無条件的な原則を守るということは、領袖の思想を法、至上の命令として受け入れ、領袖の思想と路線を貫徹する前は死ぬ権利もないという強靭な意志をもっていささかの理由と口実、不平も言わずに限りない献身と犠牲精神を発揮してそれを徹底的に実行するということである。

領袖を心から高く押し戴く姿勢と立場を確固たるものとして身につけるためには、領袖への忠実さが信念化、良心化、道徳化、生活化されなければならない。

領袖への忠実さを信念化するということは、領袖を心から高く仰ぎ、最後まで従おうとする確固たる決心と思想的覚悟を持つことを意味する。

領袖への忠実さを良心化するということは、領袖を何の私心もなしにいつどこでも心から高く奉じようとする清らかな心を体得することを意味する。

領袖への忠実さを道徳化するということは、領袖を自らの運命の恩人に、慈父に奉じて領袖の恩恵に必ず報いようとする崇高な徳義心を持つことを意味する。

領袖への忠実さを生活化するということは、領袖への忠実さを日常の生活の中で強化し、実践活動に具現するということである。

領袖への忠実さは代を継いで継承されなければならない。

代を継いで継承される忠実さは、領袖の地位と役割を継承した後継者にたいする忠実さである。領袖への忠実さは領袖の後継者にたいする忠実さに永遠につながってこそ、領袖が開拓した革命偉業を最後まで継承し完成していくようにする永遠なる忠実さになれる。

代を継いで継承される永遠なる忠実さであるというところに領袖にたいする真の忠実さの根本的特徴がある。

第２章　民族解放、階級解放

チュチェの革命理論は反帝・反封建民主主義革命と社会主義革命に関する理論と戦略戦術を新たに解明し、全面的に体系化することにより、人民大衆が民族的および階級的解放を成し遂げ、社会的・政治的自主性を真に実現していける広い道を開いた。

第１節　反帝・反封建民主主義革命

チュチェの革命理論は反帝・反封建民主主義革命の本質とその遂行の歴史的必然性を解明している。

金日成主席は次のように述べている。

「わが党は反帝・反封建民主主義革命の遂行を当面の闘争綱領としてかかげ、その実現をめざしてたたかいました」

反帝・反封建民主主義革命は本質において、植民地、半植民地諸国で自主性を蹂躪される被抑圧勤労人民大衆が外来帝国主義の植民地統治を終わらせ、封建的関係を一掃することによって、社会の民主主義的発展の道を開くことを目的にして行われる革命である。

反帝・反封建民主主義革命は他の社会革命では見られない特徴をもつ。

反帝・反封建民主主義革命はまず、反帝民族解放革命の課題と反封建民主主義革命の課題が同時に遂行される革命である。

反帝・反封建民主主義革命の対象である外来帝国主義の侵略勢力と地主、買弁資本家、民族反逆者、反動的な官僚は利害関係の共通性によって互いに結託している。植民地、半植民地国で外来帝国主義者は自らの植民地統治を維持するために封建的関係をそのまま所属させながら封建地主、買弁資本家、民族反逆者、反動官僚は帝国主義の侵略勢力と結託してそれに追随しながら自分らの特権的地位を保障する。

こうした状況下で外来帝国主義者に反対して闘争せずには、反封建的課題を成功裏に遂行できないし、国内封建勢力に反対して闘争せずには反帝的課題を十分に遂行できない。こういうことによって反帝・反封建民主主義革命は反帝民族解放革命の課題と反封建民主主義革命の課題が密接に結合されて統一的に遂行される。

反帝・反封建民主主義革命はまた、労働者階級の指導の下に広範な愛国的民主勢力が参加する革命である。

植民地半封建社会で労働者、農民をはじめ、青年学生、知識人、ブルジョア階級と心ある民族資本家、宗教人を網羅する広範な愛国的民主勢力は外来帝国主義勢力と封建勢力に反対することに同じ利害関係をもっており、したがって反帝・反封建民主主義革命に参加するようになる。この革命で指導階級は労働者階級である。労働者階級は勤労人民大衆の自主的要求と利益を代弁し擁護する徹底した自主的階級であり、革命性と組織性が強く、勤労人民大衆を組織、指導して革命を導ける能力をもつもっとも先進的で革命的な階級である。それゆえ、労働者階級は反帝・反封建民主主義革命の先頭に立ち、その革命を指導するようになる。

反帝・反封建民主主義革命はまた、社会主義革命へと引き続き移行する革命である。

反帝・反封建民主主義革命は社会主義革命のための準備であり、その前提条件をつくる事業である。労働者階級は人民大衆の自主性の完全実現を歴史的使命としていることによって、民主主義革命にとどまることはできない。それで労働者階級は反帝・反封建民主主義革命を遂行した後も社会主義革命を遂行するようになる。

植民地、半植民地国で反帝・反封建民主主義革命を遂行することは歴史発展の必然的要求である。

その理由は一言で言って、それらの国々で帝国主義勢力と封建勢力の過酷な搾取と抑圧によって、人民大衆の自主性が無残に蹂躙されていること

と関連する。

チュチェの革命理論は反帝・反封建民主主義革命の戦略戦術を全面的に提示する。

反帝・反封建民主主義革命の戦略戦術で重要なのは、革命の主体をしっかりと固め、常備的革命武力に依拠した組織的な武装闘争を展開することである。また、人民民主主義政権を樹立し、諸般の民主主義的改革を実施することである。

民主主義的改革を遂行する上で土地改革を実施し、重要産業を国有化し、勤労者の民主主義的自由と権利を全面的に保障するための改革を実施することが重要な課題として提起される。

第2節　社会主義革命

チュチェの革命理論が明らかにした社会主義革命に関する理論と戦略戦術で何よりも重要な内容をなすのは、社会主義革命の本質とその遂行の歴史的必然性に関する理論である。

社会主義革命は本質において人間による人間の搾取を終局的に一掃し、人民大衆の社会的・政治的自主性を実現し社会発展の新しい大路を開く革命である。

金日成主席は次のように述べている。

「社会主義革命は人間による人間の搾取を最終的に一掃し、社会発展の新しい道を切り開く人類史上もっとも深刻な社会的変革であります」

植民地、半植民地の国々で反帝・反封建民主主義革命を遂行した後も引き続き社会革命へと移行することは革命発展の合法則的過程である。

反帝・反封建民主主義革命が社会主義革命へと引き続き移行することは、搾取と抑圧の社会的根源を最終的になくし、勤労人民大衆を社会のすべての真の主人につくり、社会の生産力を古い生産関係の拘束から解放し、国

の全般的経済を早く発展させるようにする。それはまた、労農同盟にもとづく全人民の統一団結を強化し、革命の政治的基盤を強固にする。

チュチェの革命理論は、社会主義革命を成功裏に遂行するための戦略戦術を全面的に示す。

社会主義革命の戦略戦術で重要なのは何よりもまず、社会主義政権を樹立することである。

社会主義政権を樹立することは、社会主義革命を遂行する上で第一義的に提起される問題である。

社会主義政権を樹立することが社会主義革命を遂行する上で第一義的に提起される問題となるのは、社会主義革命が熾烈な階級闘争をともない、社会主義政権によってのみ、農民をはじめ、プチブルを社会主義の道へと正しく導けるからである。

反帝・反封建民主主義革命を遂行した国々で社会主義政権を樹立するもっとも正しい方途は、すでに立てられた人民民主主義政権を社会主義政権に強化、発展させることである。

資本主義諸国で社会主義革命を遂行する場合にも、革命的暴力によってブルジョア政権を覆し、新しい社会主義政権を樹立するようになる。しかし、植民地、半植民地国ではすでに立てられた人民民主主義政権を強化、発展させる方法で社会主義政権を樹立するようになる。これは反帝・反封建民主主義革命を遂行した国々で社会主義政権を樹立できるもっとも正しい方途である。

社会主義革命の戦略戦術で重要なのは次に、都市と農村において古い生産関係を社会主義的に改造することである。

古い生産関係を改造し、社会主義的生産関係の唯一的支配を確立する上で重要なのはまず、農業協同化である。

個人の農民経理を協同化してこそ、農村において社会主義的生産関係を確立し、搾取と貧窮の根源を完全になくすことができ、農業の物質的・技

術的土台を強化し、農業生産力を早く発展させることができる。それだけでなく、農民を社会主義経済システムに網羅させることによって、労農同盟を新たな土台の上でさらに強化することができ、革命の政治的基盤を強化することができる。

個人農民経理を協同化する正しい道は、農村経理の技術的改造に先立って経理形態を社会主義的に改造することである。

農村経理の技術的改造に先立って経理形態を社会主義的に改造することは、農業協同化実現の決定的条件と協同経理の優越さにたいする科学的解明にもとづくもっとも正確な農業協同化方針である。

農業協同化を実現する上で決定的な条件は、農村経理が近代的な技術で装備されているかにあるのではなく、農業協同化がその主体である農民自身の生活的要求として提起されているか、それを担当できる革命力量が準備されているかにかかっている。農村経理の担当者であり、主人である農民自身が協同化を切実に要求し、それを受け持って遂行できる力量が準備された条件の下では近代的農機具がないといっても工業化が実現される時まで農村経理の社会主義的改造を延ばす必要がない。

生産力と技術の発展水準がたとえ低いといっても、農民大衆が古い生産関係の改造を切実に求め、それを担当できる革命力量が準備されている状況下では農業協同化をゆうに実現できる。

農村経理の社会主義的改造を実現するためには、農業協同化運動を正しく組織し展開すべきである。

農業協同化運動を組織、展開する上で重要なのは、自発性の原則を守り、正しい階級政策を実施し、協同化運動にたいする党と国家の指導と援助を強化することである。

古い生産関係を改造し、社会主義的生産関係の唯一的支配を確立する上で重要なのはまた、個人商工業を社会主義的に改造することである。

農村経理を協同化するだけでなく、個人商工業を社会主義的に改造し

てこそ、都市と農村で古い生産関係の社会主義的改造を完成し、社会主義的生産関係の唯一的支配を確立することができる。

個人商工業には都市の手工業と資本主義的商工業が含まれる。

都市の手工業を社会主義的に改造する一般的な方法は、それを協同化することである。手工業者の社会主義的改造は彼らの社会的・経済的境遇によって立派に指導すれば手際よく解決できる。

個人商工業の社会主義的改造で中小企業化、商人の社会主義的改造がもっとも困難で複雑な問題として提起される。

かつては、社会主義革命段階でブルジョア一般を収奪の方法で一掃することが一般的なものとなっていた。

チュチェの革命理論は社会主義革命時期の階級的力量関係と資本主義的商工業者の実態にたいする正確な分析にもとづいて、彼らを収奪せずに、制限、利用しながら漸次社会主義的に改造する道を示す。

資本主義的商工業を社会主義的に改造する効果的な方途は、それを国家の指導と援助の下に各形態の協同経理を通じて改造することである。

資本主義的商工業の社会主義的改造を成功裏に実現するためには、経理形態の改造と人間改造を密接に結びつけて行わなければならない。

生産関係の社会主義的改造を成功裏に実現するためには、農村経理の協同化と資本主義的商工業の社会主義的改造を並行して行わなければならない。

都市と農村で生産関係の社会主義的改造が完成されて、社会主義革命が勝利すれば、搾取と抑圧が最終的に一掃され、人民大衆が社会のあらゆるものの主人となるもっとも先進的な社会主義制度が樹立される。

第３章　社会主義建設

社会主義建設は人民大衆の自主性を目指す闘争のもっとも高い段階であり､人民大衆の自主性は社会主義建設のための闘争を通じて完全に実現される。

チュチェの革命理論は、人民大衆の自主性の実現を中心にすえて社会主義建設で提起されるすべての理論実践的問題に全面的な解答を与える。

第１節　社会主義の本質的優位性とその勝利の必然性

チュチェの革命理論は人間、人民大衆を中心にすえて、社会主義の本質的特性を解明したうえで､社会主義の本質的優位性とその勝利の必然性を科学的に解明する。

金正日総書記は次のように述べている。

「チュチェの社会主義思想は、社会主義は人民大衆があらゆるものの主人となり､すべてが人民大衆に奉仕し、人民大衆の団結した力によって絶えず発展していくもっとも先進的な社会であることを明らかにした」

社会主義はまず、人民大衆があらゆるものの主人となっている社会である。

社会主義社会で人民大衆があらゆるものの主人であるというのは、彼らが国家主権と生産手段の主人であり､社会を管理する主人であるということである。

社会主義社会で人民大衆が占める政治の主人としての地位は、革命的党と党の指導を受ける真の人民の政権、社会主義政権によって保証される。社会主義社会で人民大衆が占める政治の主人としての地位は､彼らが主権の行使に実質的に参加して自らの真の代表者を自分の手で選出し自己の意思と要求を党と国家の路線と政策に反映して政治的自由と権利を思いっきり

行使するところで表現される。

社会主義社会では社会主義的所有関係が確立されて人民大衆が生産手段の主人となる。人民大衆が国家主権と生産手段の主人となっており、革命的党の正しい指導が保証されることによって、人民大衆が社会にたいする管理を自己の要求に即して自分が責任をもって行っていく。

社会主義社会はまた、すべてが人民大衆に奉仕する社会である。

社会主義社会ですべてが人民大衆に奉仕するということは、党と国家のすべての活動が人民大衆に真の政治的自由と権利、裕福で文化的な生活を保障するところに服従されるということである。

社会主義社会は党と国家の正しい政策と人民的施策を通して、人民大衆に自主的かつ創造的な政治生活と経済生活、思想文化生活を全面的に保障している。

社会主義社会では人民大衆が国家と社会の主人として、平等な政治的自由と権利を享受し、誰もがみな政治組織に網羅されて革命的な組織生活をしながらもっとも貴い政治的生命を輝かせていく。

社会主義社会では人民大衆が安定した職業と文化的・衛生的な労働条件を保障されながら食・衣・住の心配もなく幸福な労働生活と物質生活を共に享受するようになる。

社会主義社会では人民大衆が党と国家の指導と配慮の中で先進的な思想文化の真の創造者、真の享受者になって自主的な思想意識と高い創造的能力をもった真の社会的人間として準備され、健全かつ豊富な文化・情操生活を思う存分享受する。

社会主義はまた、人民大衆の団結した力によって絶えず発展する社会である。

社会主義が人民大衆の団結した力によってひっきりなしに発展する社会であるということは、社会主義思想で武装した人民大衆の高い革命的自発性と創造的積極性によって発展するもっとも高い発展能力をもつ社会であ

るということである。

社会主義社会は人民大衆の自主的要求と利害関係を正確に反映し、その実現の道を科学的に示す自主的な革命思想にもとづいて、社会の全構成員の統一団結をなした社会である。

社会主義社会は自主的な思想意識発展のもっとも高い段階である社会主義思想にもとづいて領袖を中心とする党と軍隊と人民が渾然一体をなした社会であるから、もっとも高い発展能力をもつ社会となる。

社会主義社会がすぐれた社会であるといって、その優越性が自ずと発揮されるものではない。

社会主義社会の優越性とそれを発揮させる問題は別個の問題である。

社会主義であるというと、資本主義より優越であることは事実であるが、その優越性が国ごとによって異なって表れるのはまさに、社会主義社会の主人である人民大衆の準備程度如何にかかっている。社会主義がいくら優れていてもその主人である人間がそれに合う自主的な思想と創造的能力をもっていなければ、社会主義の優越性を遺憾なく発揮できなくなる。

党と領袖の正しい指導の下に人民大衆が高い自主意識と創造的能力をもって、社会の主人としての地位を占め、主人としての役割を果たす時、社会主義はその本質的優越性を遺憾なく発揮できるし、社会主義の最後の勝利を成し遂げられる。

チュチェの革命理論は人民大衆を中心にすえて、社会主義の勝利の必然性を科学的に示す。

金正日総書記は次のように述べている。

「社会主義はその科学性と真理性により必ず勝利する」

社会主義が勝利することはなにものをもってしても押しとどめることのできない歴史発展の法則である。

社会主義は人民大衆の志向である。

人民大衆はその本性において自主性を志向する。自主性を志向すると

いうことは、つまるところ社会主義へと進むことを意味する。それは人民大衆の根本的な志向であり、要求である自主性は、人間による人間の搾取を一掃し、人々をあらゆる拘束と従属から最終的に解放させる社会主義によってのみ実現できる。結局、社会主義は誰かが頭の中から考案したものではなく、自主性を本性とする人民大衆が自ら選択し志向していくものである。

社会主義は人民大衆の志向であると同時に意志である。

社会主義を実現しようとする人民大衆の意志は、社会的人間の自主的念願と歴史発展の合法則的要求を反映していることによって、いかなる力をもってしても挫けない。

時代と歴史が発展し人民大衆の自主意識が高まれば高まるほど、帝国主義者の支配主義的策動が強化されれば強化されるほど、社会主義を必ず実現しようとする人民大衆の意志はさらに強くなっている。

現実は社会主義が人民大衆の変わらない志向であり、意志であり、これによってその勝利は確定的であるということを如実に実証している。

個人主義にもとづく社会が集団主義にもとづく社会へと移行することは、人類社会発展の必然的要求である。

人民大衆の自主性は個人主義にもとづく社会では実現され得ないし、集団主義にもとづく社会でのみ実現され得る。

集団主義は自由と平等、協力と団結を生み、人間の自主性を徹底的に擁護し、社会の発展を力強く推進する。人間は社会的集団をなして活動してこそ生存し発展することができ、社会構成員の集団的協力によってのみ自然と社会を改造し自主的要求を実現し得る。

社会主義社会は集団主義にもとづく社会である。それゆえ、人民大衆の自主性は社会主義社会でのみ立派に実現される。

歴史は個人主義にもとづく社会では人民大衆の自主性が実現されないことを見せている。

人民大衆の自主性を実現するためには個人主義にもとづく社会から集

団主義にもとづく社会､社会主義社会へと移行すべきであるというのが人類社会発展の歴史的総括である。

個人主義にもとづく社会が集団主義にもとづく社会へと移行するのが歴史発展の必然的要求となっていることにより、社会主義は必ず勝利する。

新しいものが勝利し古いものが滅亡するのは歴史発展の法則である。

歴史発展の過程で新しいものとは、人民大衆の自主性を実現することに寄与することであり､古いものとは人民大衆の自主性の実現を抑制することである。自主性を目指す人民大衆の闘争の歴史は、古い物をなくし、新しいものを創造するための闘争の歴史であり､この過程で新しいものは必ず古い物に打ち勝ち、勝利するようになる。

社会主義は新しいものであり､搾取社会､資本主義は古いものである。

社会主義を目指す闘争は古い搾取社会を永遠に一掃し、人民大衆の志向と要求に合致した新しい社会を創造するための闘争､新しいものと古いものとの闘争である。この闘争の過程に古くて反動的な搾取社会が滅亡し、新しくて先進的な社会主義が勝利することは歴史発展の法則である。

社会主義の勝利が必然的であるが、社会主義の勝利がおのずから実現されるのではない。

社会主義偉業の勝利を成し遂げるためには、社会主義を信念化、道徳化すべきである。

社会主義を信念化するということは、社会主義偉業の正当性にたいする確信をもってそのために断固闘う思想的覚悟と意志を持つという意味であり、社会主義を道徳化するということは、社会主義を生命、生活として肝に銘じ､社会主義をさらに輝かせようとする崇高な徳義心を持つことを意味する。

第２節　社会主義建設の戦略的目標

社会主義建設の戦略的目標は、社会主義建設の全過程を通じて達成すべき総体的な目標である。

社会主義建設の戦略的目標を正しく打ち立ててこそ、社会主義建設を一貫して何らの紆余曲折もなしに成功裏に推し進められる。

社会主義建設の戦略的目標は、社会主義の思想的要塞と物質的要塞を占領することである。

社会主義の思想的要塞を占領するというのは、社会の全構成員を自主的な思想意識と高い文化水準をもった全面的に発展した社会的人間につくりあげ、全社会を一つの思想と革命的同志愛で固く結合された政治的・思想的統一体、むつまじい一つの大家庭に作ることを意味する。

社会主義の物質的要塞を占領するというのは、生産手段にたいする単一の全人民的所有を確立し、需要による分配を実現しうるように生産力を高めるということを意味する。

思想的要塞と物質的要塞を占領するための闘争は、人々の思想精神生活と物質生活分野で人民大衆の自主性を完全に実現するための闘争である。

思想的要塞を占領して人民大衆があらゆる古い思想の拘束と文化的立ち後れから完全に解放され、真の社会的人間が担うべき思想的・精神的品格と資質をそなえ、全社会が生死運命を共にする一つの社会的・政治的生命体となるとき、はじめて思想精神生活分野で人民大衆の自主性が完全に実現される。

物質的要塞を占領して全社会に全人民的所有の唯一的支配を確立し、社会主義の物質的・技術的土台を強固に築くとき、物質生活分野で人民大衆の社会的平等を完全に実現し、その物質的需要を円満に充足できる。

思想的要塞と物質的要塞を成功裏に占領するためには、思想的要塞を占領することを確固と優先させながら二つの要塞を占領する事業をともに

おし進めていく原則を堅持しなければならない。

社会主義の物質的要塞を占領する事業が社会主義社会の物質的条件をつくることであるというなら、思想的要塞を占領する事業は社会主義社会の主体を準備することである。

社会主義の思想的要塞を占領して、社会主義の主体を準備することは、社会主義の物質的要塞を占領する事業よりもっと重要な事業である。社会主義の運命は、社会主義の主体を準備する活動をいかに行っていくかに大きくかかっている。社会主義の主体をしっかりと準備してこそ、その威力で物質的要塞を占領するための事業も力強く推進させることができる。

社会主義社会はすべての人々が高い自主意識と創造的能力をもって、同志的に団結して互いに助け導き、むつまじく暮らす社会であるだけでなく、物質的にも豊かな社会である。したがって、思想的要塞と物質的要塞をともに占領せずには人民大衆の自主性を完全に実現できない。

チュチェの革命理論は社会主義建設の戦略的目標を占領するための戦略的課題を科学的に示す。

社会主義建設の戦略的課題は自然改造、人間改造、社会改造である。

金日成主席は次のように述べている。

「自然改造と人間改造、社会改造は自主性の実現をめざす人民大衆の創造的活動の三大分野であり、したがってこれは、社会主義、共産主義建設でともにとらえていくべき戦略的課題となります」

人間改造は社会主義を建設し完成するための戦略的課題である。

人間改造は人々を精神的に、肉体的により強力な存在として育て上げ、革命の主体を強化するための創造的活動である。

人間改造は社会主義を建設し完成するための闘争で第一義的に解決すべき根本的な問題である。

社会主義社会で人間改造の基本任務は、社会の全構成員を高い自主意識と創造的能力を備えた全面的に発達した社会的存在に育てることである。

自然改造は社会主義を建設し完成するための戦略的課題である。

自然改造は人間の生存と社会発展のための物質的条件を整える創造的活動である。

社会主義の物質的・技術的土台は各国と民族が自立的民族経済を建設する過程を通じて築かれるようになる。

経済建設は具体的な客観的条件と環境の中で繰り広げられる。それゆえ、社会主義の物質的・技術的土台を築くためには、経済建設で社会主義原則、集団主義原則を確固と固守しながらも、自らの実情に合う自分なりの方途を探し、それに徹底的に依拠すべきである。

社会改造は社会主義を建設し完成するための戦略的課題である。

社会改造は人民大衆の地位と役割を高められるように社会関係を発展させていく創造的活動である。

社会主義建設で行われる社会改造は社会関係を絶えず改善、完成して社会主義的社会関係を全面的に強化し発展させる活動である。

社会主義建設で行われる社会改造で提起される基本課題は、勤労者の思想文化水準が高まり、社会の物質的土台の強化に伴って、労働者階級と農民の階級的差をなくすことである。また、人の間に革命的同志愛と信義にもとづく団結と協力の関係をさらに強化し、政治制度と経済制度、文化制度を引き続き発展させて社会主義的社会関係をより徹底的に確立していくことである。

社会主義を建設し完成するためには、人間改造に第一義的な力を入れながら、自然改造と社会改造をともに推進する原則を堅持すべきである。

社会主義建設の戦略的目標である思想的要塞と物質的要塞を占領するための闘争は、全社会の金日成・金正日主義化を通じて実現される。

チュチェの革命理論は全社会の金日成・金正日主義化を社会主義偉業完遂のための最高綱領として提起し、その実現において提起される問題を全面的に解明する。

金正恩委員長は次のように述べている。

「全社会の金日成・金正日主義化はわが党の最高綱領です」

人民大衆の自主偉業、社会主義偉業を完成していく過程は、全社会を領袖の革命思想で一色化していく過程である。

全社会を領袖の革命思想で一色化することは、社会主義偉業完成の合法則性である。

社会主義を建設し完成するためのもっとも正しい革命の指導思想は、偉大な金日成・金正日主義である。それは偉大な金日成・金正日主義が人民大衆の自主性を完全に実現するための闘争目標と方向、その実現のための根本方途を集大成している革命の唯一の指導思想だからである。

全社会の金日成・金正日主義化の本質的内容はまず、社会の全構成員を真の金日成・金正日主義者に育成することである。

真の金日成・金正日主義者とは、金日成・金正日主義を確固たる信念とし、わが党の指導に従って社会主義偉業、チュチェ革命偉業の勝利のためにすべてを尽くしている偉大な領袖たちの真の戦士、弟子のことを意味する。言い換えれば、人民大衆第一主義である金日成・金正日主義の要求通りに人民を天のように見なし、人民のために献身的に奉仕する人間がまさに真の金日成・金正日主義者である。

社会の全構成員が金日成・金正日主義にしっかりと武装し、それを確固たる信念とし、いつどこでもその要求通りに思考して行動しその勝利のためにすべてを尽くして闘う堅実な闘士として準備されるとき、社会主義偉業は立派に実現され得る。

全社会の金日成・金正日主義化の本質的内容はまた、政治と軍事、経済と文化など、すべての分野を金日成・金正日主義の要求通りに改造することである。

社会主義偉業の完成は自然と社会を金日成・金正日主義の要求通りに改造して社会主義社会に合う物質的・技術的土台を強固に築き、集団主義的

社会関係を全面的に確立するとき実現される。

人間と社会と自然を金日成・金正日主義の要求通りに改造して人民大衆の自主性が完全に実現される人類の理想社会を建設し完成するここに全社会の金日成・金正日主義化の革命的本質がある。

全社会の金日成・金正日主義化は、社会主義偉業を立派に完成するための朝鮮労働党の最高綱領である。

全社会の金日成・金正日主義化の綱領は、人民大衆の自主性を完全に実現することを社会主義建設の最終的目的として明示している。

金日成・金正日主義は人民大衆の自主性が完全に実現される社会主義社会の面貌とその実現を目指す道を科学的に示した完成された革命学説である。

金日成・金正日主義は人類の理想である人民大衆の自主性が完全に実現される社会主義社会は、人民大衆が自然と社会、自分自身の完全な主人となった社会であることを示している。

金日成・金正日主義は、理想社会の本性的要求に即して人間と社会と自然を改造していく根本的な方向と要求、この社会でなされる社会関係と活動方式まですべて示している。

全社会の金日成・金正日主義化の綱領は、人民大衆の自主性が完全に実現される社会主義を建設し完成するための方途を全面的に示している。金日成・金正日主義は社会主義建設の戦略的目標と革命的道程、社会主義建設で堅持すべき根本原則と総路線など、社会主義偉業を完成する上で捉えていくべき戦略と闘争方途を全面的に示している。

金日成・金正日主義は、現時代の革命的党と人民が偏向なく、まっすぐに社会主義偉業を完成させるようにするもっとも正確な指導的指針である。

第３節　社会主義建設の総路線

社会主義建設の総路線は、人民政権を強化し、その機能と役割を絶えず高めながら思想、技術、文化の３大革命を徹底的に遂行することである。

人民政権は社会主義建設の政治的武器である。

金正恩委員長は次のように述べている。

「人民政権は社会主義強国建設の強力な武器です」

人民政権は社会主義社会の主人である人民大衆の自主権を代表し、社会主義社会生活全般を統一的に管理する指揮権である。これは人民政権が人民大衆の自主的権利と利益を代表して擁護する政治組織であり、政治、経済、文化など、社会生活のすべての分野と国のすべての地域とその発展を統一的に掌握し指揮する政治組織であることを意味する。

人民政権の基本使命は、勤労人民大衆のために奉仕することである。

人民政権はまず、勤労人民大衆の自主的権利の代表者である。

社会主義社会で国家と社会の主人としての人民大衆の自主的権利は、人民政権によって代表される。人民政権は人民大衆の真の代表者で構成されており、人民大衆の自主的志向と要求を集大成して路線と政策を策定し人民大衆の力に依拠してそれをあくまで貫徹する。人民政権は人民大衆に真の自由と権利を保障し、彼らが国家と社会の主人として人間の真の尊厳と価値を輝かせ、自由で幸福な生活を思う存分享受するよう配慮する。

人民政権はまた、勤労人民大衆の創造的能力の組織者である。

社会主義社会で人民大衆の創造的能力はもっとも包括的な政治組織である人民政権によって組織、動員される。人民政権は教育活動をはじめ、社会主義文化のすべての活動を掌握しその発展を力強く推し進めることによって、社会の全構成員を高い創造的能力をもった強力な社会的存在として育てる。また、党の指導の下に各階層の広範な人民大衆をもっとも包括的な国家政治組織に網羅させ、彼らの創造的活動を全社会的な範囲で統一的に指揮

することによって、人民大衆の創造的能力を高く発揮させる。

人民政権はまた人民の生活に責任をもった戸主である。

社会主義社会で人民の物質・文化生活は人民政権によって保障される。

人民政権は人民の物質・文化生活に責任をもって保証する神聖な義務を持っている。人民政権の機能と役割によって国の富強・繁栄がなされるに従って、人民の物質・文化生活が系統的に高まり、全人民がともに裕福な生活を享受するようになる。

人民政権はまた、勤労人民大衆の自主的かつ創造的な生活の保護者である。

勤労人民大衆の自主的かつ創造的な生活は、人民大衆の利益をむしばみ、侵害する敵対分子と不純分子に反対する闘争の中で実現される。社会主義社会で人民大衆の自主的かつ創造的な生活は人民政権によって保護される。

社会主義を建設し完成するためには、人民政権を強化しその機能と役割を高めなければならない。

人民政権を強化する上で重要なのは、政権建設で領袖の思想と指導を徹底的に具現し、人民政権機関を党に忠実で人民の間で信望のある優れた幹部で固め、彼らが人民の忠僕として自己の任務を円満に遂行するようにすることである。そして、人民政権の政治、経済、軍事的基盤を磐石のごとく打ち固め、人民政権機関の事業体系を改善することである。

人民政権の機能と役割を高める上で重要なのは、社会にたいする統一的指導を保障し人民民主主義独裁を強化することである。

社会主義を建設し完成するためには、思想、技術、文化の３大革命を遂行すべきである。

金正恩委員長は次のように述べている。

「思想、技術、文化の３大革命は、社会主義建設の全期間に遂行すべき継続革命の課題であり、人民大衆の自主性を実現するための最も高い段階

の革命です」

３大革命は思想、技術、文化分野で古い社会の遺物を一掃し、新たな社会主義思想と技術、文化を創造して勤労人民大衆の自主性を完全に実現するための闘争である。

思想、技術、文化の３大革命は社会主義建設の根本的な方途である。それは思想、技術、文化の３大革命は社会主義制度が樹立した後に遂行される革命の基本内容であり、社会主義制度の本性と人民大衆の意思に合致する革命方式だからである。

３大革命は社会主義制度の樹立後、人民大衆の自主性を完全に実現するために遂行すべき革命の基本内容である。

人民大衆の自主性は社会主義革命が勝利し、社会主義制度が樹立されたからといって、完全に実現されない。社会主義制度が樹立されれば、人間による人間の搾取が一掃され、人々は階級的支配と従属から脱するが、古い社会の遺物である思想、技術、文化の立ち後れは依然として残るようになる。

思想、技術、文化の３大革命は社会主義における革命の継続であり、人民大衆の自主性を完全に実現するためのもっとも高い段階の革命である。

３大革命は社会主義制度の本性と人民大衆の意思に合う革命方式である。

３大革命で重要なのは思想革命である。

思想革命は一言で言って、思想分野において古いものを新しいものに変える革命である。言い換えれば、人々の頭の中に残っている古い思想を根こそぎになくし、彼らを自主的な思想意識、社会主義思想で武装させ、それにもとづいて革命と建設で人民大衆の革命的熱意と創意性、精神力を高く発揮させるための事業である。

思想革命の中心課題は、すべての人々を一つの思想、領袖の革命思想でしっかりと武装させて彼らの精神力を最大限に発揮させ、全社会の思想的統一を確固と実現することである。

思想革命を成功裏に遂行するためには、思想教育と思想闘争を強化し革命的学習と組織生活、革命的実践を通じた鍛錬を強化すべきである。

３大革命で重要なのは技術革命である。

技術革命は本質において技術分野で古いものを新しいものに変える闘争である。言い換えれば、生産力を発展させて人民の物質的福祉を増進させて、労働の本質的差をなくし、勤労者を骨の折れる労働から解放するための事業である。

技術革命を遂行するのは社会主義建設の合法則的要求である。

資本主義社会では技術改造が資本家の利潤追求の手段となっており、技術が発展すれば発展するほど、勤労大衆の境遇はさらに悲惨になるが、社会主義社会では技術革命が進捗されるに従って、人民大衆が自主的で創造的な物質生活と労働生活を思いっきり享受するようになる。

技術革命は自然を改造して社会主義社会の要求に合う物質的・技術的土台をつくるための根本的な方途である。

技術革命遂行の基本方向は、技術を発展させて勤労者を骨の折れる労働から解放し、自国人民の自主的要求に合う社会主義の自立的民族経済を建設し発展させていくことである。

技術革命を成功裏に遂行するためには提起された革命課題と現実的可能性を正しく打算してその段階を正確に設定し正しい原則を堅持し、科学者、技術者の役割をあらゆる面から高めることである。

３大革命で重要なのは文化革命である。

文化革命は人々を古い文化の束縛から解放し人民大衆のために奉仕する社会主義文化を創造してすべての人々が深い知識と高い文化的素養をもって、社会主義的な文化生活を享受させるための事業である。

文化革命を遂行するのは、社会主義建設の合法則的要求である。

社会主義制度が樹立した後、文化分野で革命を続けてこそ、人民大衆を文化的立ち後れと非人間的な古い文化の拘束から解放して高い創造的能

力の所有者、真の社会主義的文化生活の享受者に育成できる。

社会主義文化を発展させることは、帝国主義者の思想的・文化的浸透を粉砕するための重要な方途となる。

文化革命を成功裏に遂行する上で重要なのは教育活動を発展させ、文化建設の各部門を早く発展させることである。

３大革命を遂行する上で堅持すべき原則は、思想革命を確固と優先させながら技術革命と文化革命をともに推進することである。

思想革命を優先させてこそ、人々の思想意識を改造して彼らを真の革命家に育てられ、勤労者の革命的熱意、精神力を高く発揮させて技術革命と文化革命も成功裏に遂行できる。

思想革命を確固と優先させながら、技術革命と文化革命をともに推進させてこそ、人間改造と自然改造、社会改造を力強く推し進めて思想的要塞と物質的要塞を成功裏に占領し、社会生活の各分野で社会主義社会の本性的要求を全面的に実現できる。

第４節　社会主義建設の根本的原則

チュチェの革命理論は、社会主義建設で一貫して堅持すべき根本的な原則を科学的に示す。

人民大衆の自主的要求と利益を徹底的に擁護し具現していくことは、社会主義建設で堅持すべき根本的な原則である。

金正日総書記は次のように述べている。

「人民大衆の自主的要求と利益をあくまで擁護し具現することが、社会主義建設において一貫して堅持すべき根本的原則です」

人民大衆の自主的要求と利益を擁護し具現することは、革命と建設において勤労人民大衆の自主的志向と要求を尊重し、それを実現するために積極的に闘うことを意味する。

革命と建設はいかなる特定の階級や階層のための事業ではなく、広範な勤労人民大衆のための事業である。社会主義は広範な勤労人民大衆の自主性が全面的に実現される社会であり、勤労人民大衆はともに自主性の実現にたいする共通した志向と要求をもっている。したがって、社会主義を成功裏に建設するためには、社会主義建設の各分野を担当している広範な勤労大衆の要求と利益をともに擁護し具現すべきである。

人民大衆の根本的要求と利益を第一の地位にすえ、それにすべてを服従させ、それに関連した問題ではいささかの妥協や譲歩もなしに、社会主義建設のすべての行程でそれをあくまで固守し徹底的に具現するところに、人民大衆の自主的要求と利益を擁護し具現する原則の本質的意味がある。

人民大衆の自主的要求と利益を擁護し具現することが、社会主義建設の根本的原則となるのは、社会主義建設が人民大衆の自主性を擁護し実現するための闘争であり、社会主義建設過程が人民大衆の自主的要求と利益を完全に実現していく過程だからである。

人民大衆の自主的要求と利益に即して社会主義を建設するためには、寸分なりとも譲歩することのできない革命的原則を徹底的に守るべきである。

人民大衆の自主的要求と利益に即して社会主義を建設するためには、まず、党を組織的・思想的に強化し革命と建設にたいする党の指導を確固と保障し、社会主義政権の機能と役割を絶えず高めなければならない。そして社会主義的所有を固守し発展させながら帝国主義に反対してしっかりと闘うべきである。

革命と建設で主体性と民族性を固守することは、社会主義建設で堅持すべき根本的原則である。

金正日総書記は次のように述べている。

「革命と建設で主体性と民族性を固守するのは、人民大衆の自主の偉業、社会主義偉業の遂行において堅持すべき根本的原則である」

革命と建設で主体性を堅持するということは、自国、自民族の運命と人民大衆の運命を人民大衆自身が主人となって自主的に、創造的に開拓していくということである。言い換えれば、それは国と民族の運命開拓で提起されるすべての問題を自国人民の要求に即して自国人民の力で解決することを意味する。

革命と建設で民族性を生かすということは、自民族の固有で優秀な特性を保存し発展させ、それを社会生活のすべての分野に具現していくということである。言い換えれば、それは自民族の思想感情と優秀な気質、伝統を守り積極的に生かすことを意味する。

革命と建設で主体性と民族性を固守することは、社会主義偉業をその自主的本性と歴史的、現実的条件に即して遂行していくための原則的要求である。

人民大衆の自主性を実現するための社会主義偉業は、国と民族を単位にして行われる。人民大衆が民族国家を単位にして生き、運命を開拓していく歴史的、現実的条件で国と民族を離れて人民大衆の自主偉業、社会主義偉業について考えられないし、国と民族の自主性が保障されないと人民大衆の自主性が実現され得ない。

主体性と民族性はすなわち自主性であり、国と民族、人民大衆の生命であるだけに、革命と建設で主体性と民族性を固守してこそ、人民大衆の自主性を成功裏に実現することができる。

社会主義は階級的偉業であると同時に、民族の発展と繁栄を目指す偉業である。社会主義社会の発展完成の過程は、勤労人民大衆の階級的要求と利益を実現する過程であると同時に、国の富強発展と民族の繁栄を成し遂げる過程である。どの民族であれ、民族構成員の絶対多数を占めているのが勤労人民大衆であるので、主体性と民族性を無視すれば必ず勤労人民大衆の階級的要求も十分に実現できなくなる。

主体性と民族性を固守する時にのみ、社会主義の偉業は人民大衆の自

主性を擁護して実現し、民族の自主的発展と繁栄を保証する真の革命偉業となれる。

革命と建設において主体性と民族性を固守することは、各国人民の共通した要求であり、志向である。

各国と民族構成員は、自国と民族の尊厳と魂を守ろうとし、自民族の繁栄を望む。これは民族構成員の共通した心理である。

自国と自民族を愛し、大事にしない人民はいないし、民族の尊厳と魂が踏みにじられ、無視されるのを好む人民はあり得ない。それは、国と民族の運命は個人の運命であり、国と民族の生命の中に個人の生命があるからである。国と民族が従属され支配されるようになれば、その民族構成員も奴隷の境遇に置かれる。それゆえ、各国の人民は自国と自民族の自主性を徹底的に守ることを要求し、自民族の優秀で固有の特性を固守し、積極的に保存し、発展させる上で切実な利害関係をもつ。

社会主義が人民の心の中に深く根を下ろし、人民大衆の熱烈な共感と支持、信頼の中で前進していくようにするためには、革命と建設の全過程に、主体性と民族性を堅持して、国の尊厳と民族の魂を守るべきである。

革命と建設で主体性と民族性を固守するのは、国際的団結と連帯を強化し、世界の革命運動の発展に寄与するための必須的要求である。

国際的団結と連帯は、自主性を志向する国と民族間に互いに支持し協力する関係であり、それは各国と民族の自主的発展が保障され、自主性を互いに尊重する基礎の上でのみ、真に自発的で強固な関係として発展することができる。

自主性にもとづく団結と協力は、国と民族間の真の国際主義的関係である。主体性と民族性が抑制され、国と民族の自主性が踏みにじられるならば、国家間、民族間に不平等と不和が生じ、団結と協力はなされない。

社会主義偉業は民族的な偉業であると同時に国際的な偉業である。世界の社会主義偉業は各国において革命が勝利し発展する過程を通じて前進

し完成されていく。各国の党と人民が主体性と民族性を堅持して、自国の革命と建設をりっぱに行なってこそ、世界の社会主義偉業も勝利的に前進できる。

革命と建設において主体性と民族性を固守する上で重要なのは、愛国・愛族の立場を守り、民族自主の原則で革命と建設を自己式にし、主体的力量をしっかりと準備することである。

そして、民族的誇りと自負を高め、帝国主義、支配主義に反対して闘うことである。

第５節　社会主義の基本政治方式

チュチェの革命理論は社会主義社会の本性に合わせて人民大衆が国家と社会を管理運営する上で実際的な主人とならしめる政治方式、社会主義の基本政治方式を新たに解明する。

チュチェの革命理論が明らかにした社会主義の基本政治方式には、仁徳政治と先軍政治、社会主義的民主主義とテアンの事業体系があり、ここで基本は仁徳政治と先軍政治である。

社会主義の基本政治方式で重要なのは仁徳政治である。

金正日総書記は次のように述べている。

「わが党は人民大衆の運命を責任をもって見守る母なる党であり、わが党の政治は人民に対する信頼と愛の政治、仁徳政治である」

仁徳政治は本質において、人民大衆にたいする愛と信頼で彼らの運命を温かく見守る政治方式である。

権力で人々を強制に動かすのは強権政治であり、お金で人々を動かすのが金権政治であるなら、愛と信頼で動かすのが仁徳政治である。

仁徳政治は何よりも人民にたいする限りない信頼の政治である。

人民を信じるということは、人民の思想を信じ、力を信じるとのこと

である。

人民の思想を信じるということは、人民大衆の自主的要求と意思を信じ、彼らの不屈の闘争精神と強靭な意志を信じるということである。人民の力を信じるということは、人民大衆の力が底知れないものであり、彼らを一つに固く団結させて動員するなら不可能なことはないという真理を信じるということである。

人民に対する信頼は、すべての路線と政策を人民大衆の意思と要求に従わせ、路線と政策を人民大衆の創造力に依拠して実行することで表現される。

仁徳政治はまた、人民のための献身的な奉仕の政治である。

人民大衆のために奉仕するということは、党と国家のすべての活動を人民大衆の自主的要求と利益を実現するのに服従させるということである。

人民にたいする献身的奉仕は、人民に自主的で創造的な政治生活、経済生活、文化生活を責任的に保障するところで表れる。

仁徳政治は社会主義の基本政治方式である。

仁徳政治はまず、社会主義制度の本質的特性に合わせて社会を管理、運営できるようにする政治方式である。

社会主義社会では愛と信頼が社会的集団とその構成員の間、社会の個別的構成員間に開花しそれは領袖と戦士間でもっとも気高く発現される。こういうことから社会主義社会では人民大衆にたいする愛と信頼が社会主義政治の本質をなし、仁徳政治が社会主義の基本政治方式となる。

仁徳政治はまた、革命の主体である領袖、党、軍隊と人民の一心団結を全面的に強化するようにする政治方式である。

仁徳政治は人民大衆にたいする崇高な愛と信頼で党と領袖の周りに人民大衆を鉄桶のごとく結束する。仁徳政治によって社会主義社会ではすべての人々が国家の社会政治活動に積極的に参加し、社会的集団の愛と信頼の中で社会的・政治的生命を輝かせながらもっとも価値あり尊厳ある生を享受す

るようになる。

それだけでなく、党と国家の人民的施策と暖かい配慮の下で、すべての人々が健全かつ平等な物質文化生活を実質的に保証されるようになる。

それで軍隊と人民が領袖に自己の運命を全的に委ね、党と領袖の周りに思想的・意志的に、道徳的・信義的に固く結束されて全社会の一心団結があらゆる面から強化され、社会主義社会の根源が深く根を下ろすようになる。

仁徳政治はまた、人民大衆をして、国家と社会を管理、運営する上で主人としての地位を守り、主人としての役割を果たすようにする政治方式である。

仁徳政治はすべての路線と政策を人民大衆の意思と要求を反映して提起し、それを人民大衆自身のものとして作り、人民大衆をしてそれを貫徹する闘争に主人らしく参加するようにする。仁徳政治は人民大衆に価値ある政治生活と幸福な物質文化生活を実質的に保障することによって、彼らが党と領袖の愛と信頼に報いるために、国家と社会を管理、運営する事業で高い革命的熱意と創意性を発揮するようにする。

社会主義偉業を力強く促すためには、仁徳政治を社会主義の基本政治方式として捉えて徹底的に遂行しなければならない。

社会主義社会で仁徳政治を実現するためにはまず、人民に対する限りない愛をもった政治指導者を押し立てて社会主義の政権党を母なる党に建設すべきである。そしてすべての幹部は人民を限りなく愛し、人民のために忠実に奉仕する精神で教育しそれに違反する現象と非妥協的に戦うべきである。

社会主義の基本政治方式で重要なのは、先軍政治である。

先軍政治は、金日成主席が朝鮮革命と建設を指導しながらその始原を開き、金正日総書記が全面的に定義づけ、体系化し完成させた社会主義の基本政治方式である。

先軍政治は銃剣重視、軍事優先の原則に立って軍事をすべての事業に

優先させ、人民軍を中核、主力部隊として革命の主体を強化し、それに依拠して社会主義偉業を勝利に向けて前進させていく金正日式社会主義基本政治方式である。

先軍政治はまず、軍事を第一の国事として押し立て、革命軍隊を各方面で強化して祖国と革命、社会主義を防衛する政治方式である。

軍事を第一の国事として押し立てるということは、軍事を国の第一の重大事とみなし、軍重視、軍事優先の原則ですべての活動を手配し、実行することを意味する。

先軍政治はまた、革命軍隊を中核、主力として革命の主体を打ち固め、全般的社会主義建設を力強く推し進める政治方式である。

革命軍隊を中核、主力として革命の主体を打ち固め、全般的社会主義建設を力強く推し進めるということは、革命軍隊を革命力量の編成で中核力量として押し立てて、その思想精神と闘争気風を手本にして、革命の主体を強化し、革命軍隊の先駆者的役割に依拠して全般的社会主義建設を革命的に、戦闘的に繰り広げることを意味する。

先軍政治はチュチェ思想とそれを具現した先軍革命原理に基づいている独創的な政治方式である。

先軍政治はチュチェ思想に根を下ろしている。

チュチェ思想は自主性を中核にして人民大衆の自主性を擁護し実現するための革命の原理と原則、方法を全面的に示す自主の革命思想である。

わが党の先軍政治はチュチェ思想が指し示す人民大衆の自主性を徹底的に擁護しあくまで実現する革命の根本目的から出発して主体的な革命原理と原則、方法で一貫されており、チュチェ思想の旗の下に前進してきた朝鮮革命の歴史的業績と貴い経験に基づいている。

先軍政治はチュチェ思想に根を下ろしていることによって、帝国主義反動派のあらゆる侵害から人民大衆の自主的要求と利益、国と民族の自主権と尊厳を頼もしく守り保証するもっとも原則的で正義ある反帝・自主の政治

に、もっとも崇高な愛国、愛族、愛民の政治となる。

先軍政治は先軍革命原理に基づいている。

革命の銃剣の上に国と民族の自主権も、底知れない繁栄もあり、強力な軍隊がないと労働者階級の党と国家､自主的人民もあり得ないという先軍革命原理は革命闘争の厳しい歴史によってその真理が立証された革命の哲理である。

先軍政治の根底は、革命的軍人精神である。

先軍政治が革命的軍人精神を根底にしているということは、それが革命的軍人精神を威力ある思想的･精神的武器にして革命と建設におけるすべての問題を解決することを意味する。

革命的軍人精神は、領袖決死擁護精神、決死貫徹の精神、英雄主義的犠牲精神を基本にする革命軍隊の高潔な革命精神である。

革命的党と革命武力、一心団結は先軍政治が依拠する３大革命力量である。

革命的党は先軍政治の指導的力量である。

これは革命的党が先軍政治の実現において指導的地位を占め、指導的役割を遂行することを意味する｡先軍政治はどこまでも社会主義社会の指導的政治組織である党の政治である。

革命武力、革命軍隊は先軍政治の頼もしい先兵であり、磐石の支点である。

これは革命軍隊が単なる武装集団や革命の手段ではなく、党の先軍政治を先頭で支える旗手､突撃隊であり､先軍政治が依拠するもっとも威力ある政治的力量であることを意味する。

一心団結は先軍政治実現の強力な推進力である。

これは先軍政治が革命の首脳部を中心とする党と軍隊と人民の不敗の一心団結によって確固と保証されて徹底的に実現されていくということである。

先軍政治は社会主義の基本政治方式である。

先軍政治はまず、革命の根本的理念、根本的原則を確固と堅持しもっとも徹底的に具現していくようにする政治方式である。

先軍政治は革命の根本的理念である社会主義を徹底的に擁護、固守し最後まで完成していくようにする。

先軍政治は軍事を国事の中の第一の国事として押し立てることによって、国の国防力を最大に強化して、社会主義を頼もしく守るようにし、革命軍隊を中核に、主力にして革命の主体を非常に強化しその先鋒的な役割に基づいて人民大衆の役割を高めることによって、社会主義建設を力強く推進するようにする。

先軍政治は革命の根本的原則である階級的原則を確固と堅持し、それを社会生活のすべての分野に徹底的に具現していくようにする。

先軍政治は階級の銃剣、革命の銃剣によって社会主義偉業遂行において革命的原則、階級的原則を徹底的に実現していけるようにする。

先軍政治は労働者階級の階級意識の最高表現である革命的軍人精神で人々を徹底的に武装させて、社会主義の階級陣地をしっかりと固め、軍隊と人民の精神力と創造力に依拠して全般的社会主義建設を積極的に、戦闘的に繰り広げることによって、社会生活のすべての分野で革命的原則、階級的原則をしっかりと固守し、徹底的に具現するようにする。

先軍政治はまた、帝国主義の侵略と戦争、孤立、抹殺策動から社会主義を擁護、固守しその最終的勝利を収めるようにする政治方式である。

先軍政治は帝国主義の侵略と戦争策動を粉砕し、社会主義を頼もしく守るために恒常的に捉えていくべき戦略的な政治方式である。

先軍政治は革命的軍人精神の威力でもって帝国主義者の思想的・文化的浸透策動と心理謀略戦を断固粉砕し、社会主義の思想陣地を強固にし、その威力を最上の境地に至らしめるようにする。これとともに、革命軍隊が社会主義建設のもっとも困難で骨の折れる部門で進撃の突破口を開き、革命軍

隊の模範に見習って全民を奮起させることによって、帝国主義の執拗で悪辣な封鎖と制裁策動を粉砕し、社会主義偉業を力強く前進させるようにする。

先軍政治を徹底的に実現するためには、人民軍を全面的に強化し、人民軍を中核にする軍民大団結を強化し、社会主義建設のすべての部門で人民軍の先導者的役割を高め、その模範を一般化していくべきである。

社会主義の基本政治方式である仁徳政治と先軍政治は密接につながっている。

社会主義社会で仁徳政治は銃剣と矛盾しないし、強い銃剣を前提とする。先軍政治は帝国主義者と反動派の侵害から党と政権、社会主義制度を徹底的に守ることによって、仁徳政治を実現できる条件を保障する。銃剣によってのみ、人民の自主的地位が保証され、自主的かつ創造的な生活がさらに開花し、これはそのものが人民への最大の愛となる。一方、仁徳政治は全社会の一心団結を強化することによって、先軍政治の要求をより良く貫徹できるようにする。

仁徳政治と先軍政治が密接に関連されているだけに、社会主義の政治実現においては仁徳政治と先軍政治を共に捉えていくべきである。

第４章　社会主義強国建設

チュチェの革命理論は社会主義強国の面貌と基本的表徴、強国建設の合法則的過程と戦略的路線をはじめ、強国建設で提起される理論的・実践的問題を全面的に示す。

第１節　社会主義強国の面貌と基本的表徴

チュチェの革命理論は社会主義強国の面貌について科学的に示す。

金正恩委員長は次のように述べている。

「社会主義強国は、国力が強く、限りなく繁栄し、人民がこの世に羨むことのない幸せな生活を思う存分享受する天下第一の強国です」

チュチェの革命理論が示した強国は、社会主義強国である。

社会主義強国の面貌は国力が強く限りなく繁栄し、人民がこの世に羨むことのない幸せな生活を思う存分享受する天下第一の強国である。

社会主義強国は、何よりも国力の強い国である。

社会主義強国は政治、軍事、経済、文化をはじめとする社会生活のすべての分野を世界の先端で走るレベルの高い国である。

誰もあえて手出しできない不敗の政治的・思想的威力と軍事力、強力な国家経済力を準備し、人類の文明の最先端を突破して人民大衆の自主的理想を全面的に実現し得る強力な力がまさに社会主義強国の国力である。

社会主義強国はまた、限りなく繁栄する国である。

限りなく繁栄する国という意味は、すべてが栄え、事がうまく行く国、言い換えれば、国家と社会生活のすべての分野が大きな活力をもって絶えず発展していく国のことを指す。

社会主義強国はまた、人民が世に羨むことのない幸せな生活を思う存分享受する天下第一の強国である。

社会主義盛国は、人民がこの世に羨むことのない万福を営む国、人民が国家と社会の真の主人としての張り合いのある政治生活と社会的人間の本性に合う平等で豊かな物質生活、もっとも気高くて文化的な思想・文化生活を享受する天下第一の強国である。

社会主義強国は政治思想強国、軍事強国、経済強国、文明強国を自らの基本的表徴とする。

社会主義強国は政治・思想強国である。

社会主義強国は政治的・思想的威力が最高の境地に至った政治・思想強国である。

政治・思想強国はまず、もっとも科学的な革命思想にもとづいて、全社会の思想的一色化を確固と実現し、人民大衆の強い精神力に依拠して革命と建設のすべての問題を解決する国である。

もっとも科学的な革命思想、領袖の革命思想にもとづく全社会の思想的一色化が立派に実現されて、ブルジョア思想など、あらゆる古くて反動的な思想潮流が侵入できない思想的に堅実で健全な国、社会の全構成員が領袖の革命思想でしっかりと武装し、その要求通りに思考して行動し、領袖のしっかりした擁護者、徹底した貫徹者となった国がまさに政治・思想強国である。

そして、千万軍民の思想の力、強い精神力によっていかなる帝国主義強敵をも打ち破り、国と民族の自主権と尊厳、栄誉を固守して行き、革命と建設で飛躍をなす国がほかならぬ政治・思想強国である。

政治・思想強国はまた、もっとも強固で威力ある政治的基盤をもった国である。

指導者を中心にする軍隊と人民の一心団結を立派に実現し、その威力でもって革命と建設を力強く前進させていく国が政治・思想強国である。

特に、政治・思想強国は政治的基盤でもっとも重要な力量である青年が、社会主義強国建設で先鋒隊としての役割がこの上なく強化される青年強国として威力を轟かす国である。

青年強国は本質において、党と革命、祖国と人民に限りなく忠実な強力な青年前衛組織と数百万の青年大軍をもっており、その先鋒隊的、突撃隊的役割によって躍動する若さで富強・繁栄する国である。言い換えれば、領袖決死擁護戦、党の思想貫徹戦、党政策擁護戦の先鋒で進撃路を開く先軍青年前衛の気高い精神的・道徳的品格と進取に富み、尽きない力と情熱によって全世界に青春の気概と威力を轟かせ、生成、発展する前途洋々たる国である。

政治・思想強国はまた、徹底した自主政治を実施しながら世界政治の流れを主導していく国である。

政治において自主的支柱を確固と立て、自主的な政治を実施していかなる歴史の風波と挑戦にもめげずに、自らの運命を自主的に開拓していく国が政治・思想強国である。

そして、国際舞台で高い権威をもち、革命的原則と自主的支柱にもとづいて国の尊厳と利益を第一の地位にすえて、対外関係を多角的に、主導的に拡大、発展させ、自主政治の威力でもって帝国主義とあらゆる反動派の挑戦を粉砕し、世界政治を人類の本性と念願に合わせて自主の道に導く国がまさに政治・思想強国である。

社会主義強国は軍事強国である。

社会主義軍事強国は強力な軍力でもって国と民族、社会主義を固く守り、国際舞台で反帝階級闘争を主導していく国である。

社会主義軍事強国はまず、強力な軍力でもって国と民族の自主権と尊厳を固く守り、社会主義偉業を軍事的に確固と保証する国である。

社会主義軍事強国はいかなる強敵も侵略できない強力な自衛的国防力をもった国である。政治的・思想的に、軍事・技術的にしっかりと準備された革命軍隊と自立的で近代的な国防工業をもって、全民武装化と全国要塞化を立派に実現して、社会主義偉業を固守する国がまさに社会主義軍事強国である。

社会主義軍事強国はまた、強力な軍事力をもって国際舞台で帝国主義者の強権と専横を阻止､破綻させて反帝階級闘争を主導していく威力ある国である。

社会主義軍事強国は強力な軍事力でもって国際舞台で帝国主義者の強権と専横、世界制覇戦略を断固粉砕し、自主化を目指す世界の革命的人民の闘争を大いに鼓舞し激励して、世界人民の自主化偉業、反帝階級闘争を力強く主導していく不敗の国である。

社会主義強国は経済強国である。

社会主義経済強国は自立性と主体性が強く、科学技術を基本生産手段にして発展する国である。

社会主義経済強国はまず、自立性と主体性が強い国である。

社会主義経済強国は経済の自立性と主体性が実現されて自己式の経済発展方向と目標をもって、自らの力と技術、自らの資源に依拠して国と民族の自主的発展と人民の生活向上における経済的問題を自国の実情に即して自力によって解決していく国である。

社会主義経済強国はまた、科学技術を基本生産力にして発展する国である。

人民経済のすべての部門が最先端科学技術にもとづいて近代化され、生産と経営活動の科学化、情報化が実現された国が経済強国である。

国防建設と経済建設、人民生活に必要な物質的手段を自力で生産、供給し科学技術と生産が一体化され､先端技術産業が経済成長において主導的役割をする自立経済強国、知識経済強国がまさに社会主義経済強国である。

社会主義強国は文明強国である。

社会主義文明強国は社会主義文化が全面的に開花、発展する国、人民が高い創造力と文化水準をもって最上の文明を最高の水準で享受する国である。

社会主義文明強国はまず、社会主義文化が全面的に開花、発展する国

である。

もっとも優れた社会主義文化制度をさらに強化発展させ、人民の福祉増進のための文化・便益サービス施設をより多く建設し、全国を人々の健康と活動に有益で美しい社会主義の理想郷につくり、全人民がもっとも文化的な条件と環境の中で社会主義の文化生活を思う存分享受するようにする国が、まさに社会主義文明強国である。

社会主義文明強国はまた、人民が高い創造力と文化水準をもって最上の文明を最高の水準で創造し享受する国である。

全人民が新世紀の文明開花期の要求に即して高い文化知識と壮健な体力、気高い道徳品性を所有した全面的に発達した革命人材に準備されて、最上の文明を最高の水準で創造し享受する国が、まさに社会主義文明強国である。

第2節　社会主義強国建設の合法則的過程

社会主義強国は一定の合法則的過程を経て建設される。

社会主義強国建設過程はなによりもまず、金正日的愛国主義を実践活動に徹底的に具現していく過程である。

金正恩委員長は次のように述べている。

「全国に金正日的愛国主義の熱風が巻き起こり、全人民が金正日的愛国主義を実際の活動に具現する時、わが祖国は繁栄する富強な社会主義強国として高く浮上するでしょう」

社会主義強国建設過程が金正日的愛国主義を徹底的に具現していく過程であるというのは、それが祖国の富強発展と子々孫々の幸福のための総書記の構想と念願を徹底的に実現し、祖国の隆盛・繁栄をめざすすべての活動を金正日同志式におこなう過程であることを意味する。

社会主義強国建設の過程が金正日的愛国主義を徹底的に具現していく

過程になるのはまず、金正日的愛国主義が社会の全構成員を強国建設の担当者としての思想的・精神的風格をりっぱに備えるようにする思想的・精神的源泉となるからである。

金正日的愛国主義は社会主義祖国と人民にたいするもっとも暖かくて熱烈な愛情であり、社会主義祖国の富強・繁栄と人民の幸福のためのもっとも積極的で犠牲的な献身である。

金正日的愛国主義を全社会に徹底的に具現していくとき、それが人々の心の中に深く根を下し、だれもが祖国と人民にたいする暖かくて熱烈な愛情の感情をもって、祖国と人民の真の幸福、社会主義強国建設のためにたたかう真の愛国主義者になれる。

社会主義強国建設の過程が金正日的愛国主義を徹底的に具現していく過程になるのは、また金正日的愛国主義が人々を社会主義強国建設のための実践闘争へと推進する原動力となるからである。

金正日的愛国主義を実践活動に徹底的に具現する人間のみが、社会主義強国建設を目指す闘争に愛国の汗を惜しみなくささげられるし、祖国と人民が記憶し、時代を代表する愛国の創造物を残せる。これと共に、自分の故郷と父母妻子、祖国の一株の草、一本木にも限りなく愛する愛国の心を宝のように持つことができる。

社会主義強国建設の過程が金正日的愛国主義を徹底的に具現していく過程となるのは、また金正日的愛国主義が千万軍民の団結の威力を強化する思想的・精神的旗じるしとなるからである。

金正日的愛国主義を徹底的に具現してこそ、すべての人々が国と民族のための最高の愛情、最大の献身で一貫された愛国の心を深くもち、一つに団結して戦えるし、千万軍民の愛国の力で隆盛・繁栄する不敗の強国を建設していける。

社会主義強国建設過程は次に、すべての分野で世界を目指して大飛躍、大革新を起こす過程である。

社会主義強国建設の過程がすべての分野で世界を目指して大飛躍、大革新を起こす過程であるということは、それがさる世紀の古くて立ち後れたものを大胆に捨て、新世紀の要求に即した思想観点と思考方式、働き振りと創造方式で社会主義建設において一大変革を成し遂げ、すべての分野で非常に早いスピードで世界にむけて勢いよく突進していく過程であることを意味する。

社会主義強国建設の過程が、すべての分野で世界に向けて大飛躍、大革新を起こしていく過程となるのは、まず、大飛躍、大革新が人々をしてすべての分野で世界を見下ろす高い眼目と革新的な活動態度をもって主席と総書記の遺訓貫徹戦、党政策の防衛戦を力強く展開して奇跡と偉勲を轟かせるようにするからである。

わが祖国の歴史でいまだかつてなかった雄大で大いなる強国建設の目標を近い将来に成功裏に占領する道はすべての分野で大飛躍、大革新を起こすことである。

社会主義強国建設過程がすべての分野で世界に向けて大飛躍、大革新を起こす過程となるのはまた、大飛躍、大革新がすべての分野で新たな時代の速度で最先端を突破し、総攻撃戦を展開して世界の先進水準を先行するようにするからである。

社会主義強国建設のすべての分野で千万軍民が総攻撃戦を展開して大飛躍、大革新を起こすとき近代的なもの、遠い将来に行っても遜色のない立派なものをより多く創造することができ、社会主義強国建設の高い峰を極めることができる。

社会主義強国建設の過程は次に、熾烈な階級闘争、社会主義の防衛戦で決定的な勝利を成し遂げていく過程である。

社会主義強国建設の過程が熾烈な階級闘争、社会主義の防衛戦で決定的な勝利を成し遂げていく過程だということは、それが超強硬でもって帝国主義など、あらゆる敵対勢力との対決で決定的な勝利をなし、社会生活のす

べての分野で帝国主義に打ち勝つための闘争過程だということである。

社会主義強国建設の過程が熾烈な階級闘争、社会主義の防衛戦で決定的な勝利をなすための闘争過程となるのはまず、社会主義強国が帝国主義をはじめとしたあらゆる敵対勢力の策動を断固粉砕するための闘争過程を通して建設されるからである。

社会主義強国は帝国主義をはじめ、あらゆる敵対階級の軍事的侵略と瓦解策動から国と民族、人民の自主権と生存権を固く守り、祖国の富強・繁栄と人民の幸福な生活を軍事的に確固と保証していく過程を通じて、帝国主義者の強硬には超強硬でもって断固立ち向かう過程を通じて建設される。

社会主義強国建設過程が熾烈な階級闘争、社会主義の防衛戦で決定的な勝利をなすための闘争過程となるのはまた、社会主義強国が政治、軍事、経済、外交など、すべての分野で帝国主義を圧倒して、社会主義と資本主義の差を天と地のようにつくっていく過程を通じて建設されるからである。

今日の社会主義の防衛戦はすでに勝ち取った勝利と成果を強化し、社会主義の優越性と威力を最大限に発揮させて社会生活のすべての分野で帝国主義を圧倒するための闘争である。

社会主義の防衛戦は、強国建設がより高い段階へと深化され、闘争課題が膨大になるにつれて、その闘争領域もさらに拡大される。

それゆえ、社会主義強国建設は反帝軍事戦線ばかりでなく、政治思想部門、経済文化部門においても熾烈な階級闘争を伴う。

第3節　社会主義強国建設の戦略的路線

一心団結を強化し、軍事力を不敗のものに固め、新世紀の産業革命を徹底的に遂行することは、社会主義強国建設の戦略的路線である。

金正恩委員長は次のように述べている。

「一心団結と不敗の軍事力に新世紀の産業革命をプラスすれば、それ

がすなわち社会主義強盛国家です」

一心団結を全面的に強化することは、社会主義強国建設の戦略的路線である。

一心団結を全面的に強化するということは、領袖を中心にして党と軍隊と人民を切り離せない偉大な思想と情で固く結束し全党、全軍、全民を領袖の唯一的指導の下に一つのように動く渾然一体につくるということである。

一心団結を全面的に強化するのが、社会主義強国建設の戦略的路線となるのはまず、それが社会主義政治思想強国の威力を高く轟かすための根本的な保証だからである。

一心団結を全面的に強化してこそ、指導者を中心にした党と軍隊と人民の統一団結を強化して、社会主義の政治的基盤を固く守り、いかなる世界的な政治混乱の中でも政治的安定を固守し、自主政治を徹底的に実現していける。そればかりか、全社会が領袖の唯一思想で一色化され、人民大衆を革命的な思想精神でしっかりと武装させることによって、彼らが強国建設で威力ある精神力を遺憾なく発揮するようにできる。

一心団結を全面的に強化することが、社会主義強国建設の戦略的路線となるのは次に、それが不敗の軍事力と強力な経済力をもつようにする確固たる保証となるからである。

いかなる帝国主義侵略も一気に打ちのめすことのできる不敗の軍事力と人民大衆に自主的かつ創造的な生活を徹底的に保障する威力ある経済力は、一心団結の威力によって成功裏にもたらされる。

一心団結を全面的に強化するためには、革命の首脳部を決死擁護し、領袖の指導がある限り必ず勝利するという必勝の信念と革命的楽天性をもって生きたたかい、各階層の大衆を党の周りにしっかりと結束すべきである。

軍事力を不敗のものとして固めることは、社会主義強国建設の戦略的路線である。

軍事力を不敗のものに固めるということは、人民軍を政治的・思想的に、軍事的・技術的に強化することに最優先的な関心を払い、国防工業を発展させて全国を難攻不落の要塞につくることを意味する。

不敗の軍事力を整え、強化することが社会主義強国建設の戦略的路線となるのはまず､それが社会主義軍事強国の尊厳と威容を高くとどろかせるための確固たる保証であるからだ。

強力な軍事力なしには、国と民族の自主権と生存権も社会主義も守れないし、強国も建設できない。

帝国主義者との熾烈な階級闘争を伴う社会主義強国建設偉業を成功裏に遂行するためには、軍事力の強化に最優先的に力を入れるべきである。

不敗の軍事力を整え、強化することが社会主義強国建設の戦略的路線となるのはまた、それが国の政治的・思想的、経済的威力を強化するための強固な軍事的保証となるからである。

不敗の軍事力は銃で強国の政治思想陣地を強化することに決定的な作用をするばかりでなく､人民大衆に帝国主義の滅亡の不可避性と社会主義勝利の必然性にたいする変わらない信念を植えつけ､全民が思想と信念の強兵である革命軍隊の崇高な模範を積極的にみならうようにすることによって、彼らの精神力を最高の境地に引き上げるようにする。

不敗の軍事力は帝国主義の侵略と戦争策動をことごとく粉砕し、経済発展のための平和な環境と条件を頼もしく整え､革命の主力軍である革命軍隊の先鋒的､中核的役割は社会主義経済建設闘争において革命的大高揚の炎が激しく燃え上がるようにする。それだけでなく、その基礎となる威力ある国防工業が最先端科学技術の成果を人民経済の各部門に一般化し､重工業をはじめとしたさまざまな生産部門の増産を積極的に推進することを通じて、国の経済力の強化に積極的に寄与する。

軍事力を不敗のものに固めるためには、人民軍を強力な力量として強化し発展させ、国防工業の主体化、現代化、情報化を高い水準で実現すべき

である。

新世紀の産業革命を徹底的に遂行することは、社会主義強国建設の戦略的路線である。

新世紀の産業革命は知識経済時代の要求に合わせて最先端科学技術にもとづいて、生産と経営活動を現代化、情報化することによって、社会主義知識経済強国を建設する闘争である。

新世紀の産業革命は経済のすべての部門を最先端科学技術によって現代化し、科学技術と生産の一体化を実現することによって、国の経済を知識の力で発展する経済に一新させるようにする。

新世紀の産業革命を遂行することが、社会主義強国建設の戦略的路線となるのはまず、それが知識経済時代の社会主義経済強国建設の合法則的要求だからである。

新世紀の産業革命を遂行してこそ、自立的民族経済の土台の威力をさらに強化し自らの力と知恵でこの地上に繁栄する富強な社会主義経済強国を建設できる。そればかりか、自主的立場に立って他国との経済交流も発展させることができ、他国の先進技術も受け入れて、われわれのものにつくり、もっと新しくて発展的なものにつくっていける。

新世紀の産業革命を遂行することが、社会主義強国建設の戦略的路線となるのはまた、それが社会主義強国の政治的・思想的、軍事的威力をさらに強化し得る強固な技術的保証となるからである。

新世紀の産業革命を遂行して知識経済強国を建設してこそ、人民を困難で骨の折れる労働から完全に解放して彼らに裕福で文化的な物質・文化生活を保障することができる。

人民は自分たちの享受する自主的かつ創造的な労働生活と物質生活を通じて社会主義の優位性を生活で切に感じるとき、党と領袖の周りにさらに固く団結されるようになり、社会主義を自分の生命に、生活にして、それを固守し輝かせるために献身的に闘える。

そして、人民経済のすべての部門を最先端科学技術にもとづいて現代化、情報化してこそ、国防工業の発展に必要な原料と資材、設備を最上の質的水準で適時に生産、供給を十分にすることができ、生産を高い水準で正常化して予備物資を蓄積して、戦いの準備を完成していける。

新世紀の産業革命を徹底的に遂行するためには、強国建設でもっとも切実に要求される科学技術分野を主要攻略目標として決め、そこに力を集中して突破口を開き、その成果にもとづいて国の全般的科学技術を早く発展させていき、科学技術と生産を密着させるべきである。

第５章　祖国統一

祖国統一は金日成主席と金正日総書記の終生の念願であり、貴い遺訓、民族最大の宿願である。

主席と総書記が祖国統一の盛業に積み上げた不滅の業績をしっかりと擁護、固守して輝かせて行き、不世出の偉人の崇高な志を体して必ずこの地に尊厳高く富強な統一強国を打ちたてようというのがわが党と人民の確固不動の意志である。

第１節　祖国統一問題の本質と主体

チュチェの革命理論は祖国統一問題の本質を科学的に解明した。

祖国統一の問題はまず、南朝鮮にたいする外部勢力の支配と干渉を終わらせ、全国的範囲で民族の自主権を確立する問題である。

民族の自主権は全国的な範囲で外部勢力の支配と干渉を終わらせる条件でのみ保証され得る。国の一部分が外部勢力の支配と干渉の下にある状況下では全国的範囲で民族の自主権が確立されたと言えない。

いま、共和国の北半部では民族の自主権が堂々と行使されているが、

国の半分である南朝鮮ではアメリカの植民地的支配と干渉によって民族の自主権が無残に蹂躙されている。

今日、南朝鮮はアメリカの完全な植民地である。アメリカは南朝鮮を軍事的に占領し政治、経済、文化、軍事のすべての分野の権力を完全に掌握している実際的統治者である。

地球上のどこにも南朝鮮のように民族的自主権が無残に蹂躙されているところはない。南朝鮮がアメリカの支配と干渉を受けている条件で民族の自主権が全国的範囲で確立されたと言えない。

朝鮮の統一問題はまさに南朝鮮にたいするアメリカの支配と干渉を終わらせ、全国的範囲で民族の自主権を確立する問題である。

祖国統一問題はまた、人為的に断ち切られた民族の血脈をつないで一つの民族として民族的団結を実現する問題である。

わが国で国土の分断と民族の分裂は第２次世界大戦後、朝鮮問題が列強の利害関係によって処理されながらアメリカが南朝鮮を占領した時から生まれた。そして、民族内の不信と対立もアメリカの民族離間策動によってもたらされたものである。アメリカは南朝鮮を占領した初日から反共和国策動を悪辣に行ないながら北と南の間の不信と対立を鼓吹してきた。

二分された民族の血脈をつなぎ、民族的団結を実現することは、民族の本性から溢れ出る死活の要求であり、わが民族の存亡、同胞の運命に関わる重大な問題である。

祖国統一の問題はその性格においてわが民族内部の問題である。

祖国統一の問題がわが民族内部の問題であるというのは、それがいかなる外部勢力の干渉もなしにわが民族が主人となってわが民族自体の力で解決すべき問題であるということである。

朝鮮の統一問題は侵略戦争に参加して敗戦した結果、分裂された国の統一問題とは根本的にその性格が異なる。わが国は侵略戦争に参加した国でもないし、また敗戦国でもない。

朝鮮の統一問題は外部勢力によって強要された国土の両断と民族の分裂による不幸と苦痛を終わらせ、民族の自主権と民族的団結を実現するための問題であるだけに、いかなる外部勢力の干渉もなしにわが民族同士で解決すべき民族内部の問題である。

チュチェの革命理論は祖国統一の主体についても解明している。

祖国統一の主体に関する問題は、祖国統一盛業の実際的担当者に関する問題である。

金正恩委員長は次のように述べている。

「祖国統一の主体は北と南、海外の全朝鮮民族であり、国の統一は『わが民族同士』の立場を堅持してこそ、民族の利益と要求に即して自主的に実現することができます」

祖国統一の主体は全朝鮮民族である。

祖国統一の主体が全朝鮮民族であるということは、祖国統一の主体がいかなる外部勢力や一部の特定の人々ではなく、国を愛し、民族の自主性を大事にするすべての民族構成員であるということである。

祖国統一の主体が全朝鮮民族となるのは、祖国統一が朝鮮民族のための朝鮮民族自身の崇高な偉業であり、祖国統一をなし得る力がわが民族自体の主体的力量にあるからである。

祖国統一の主体で重要な構成部分をなすのはまず、共和国北半部の革命力量である。

アメリカの南朝鮮占領は共和国北半部の人民の自主権にたいする侵害となり、社会主義偉業遂行の大きな難関と障害になっている。特に、南朝鮮を占領しているアメリカの恒常的な侵略と戦争挑発策動は北半部人民の平和と安全に大きな脅威となっている。

祖国統一をなすことは、共和国北半部の人民の運命と切り離せない死活の要求であり、従って共和国北半部の人民は祖国統一の主体の重要な構成部分をなす。

共和国北半部の革命力量は祖国統一の主体でもっとも強力な革命力量である。

祖国統一の主体の重要な構成部分をなすのは次に、南朝鮮の愛国的民主勢力である。

南朝鮮の愛国的民主勢力は、国の分裂に反対し統一を切に望む重要な政治的力量である。南朝鮮がアメリカの植民地となっている状況下で民族分裂の苦痛を直接的に強いられているのは南朝鮮の人民である。

それゆえ、国の統一を志向する南朝鮮の労働者、農民、青年学生、知識人、都市ブルジョア階級、良心的な宗教人をはじめ、各階層の広範な愛国的民主勢力が祖国統一の主体をなすようになる。

祖国統一の主体の重要な構成部分をなしているのは次に、海外の愛国力量である。

海外同胞はたとえ異国で暮らしているが、どこまでも同じ血筋を引いたわが民族である。

今日、海外同胞は愛国、愛族の理念をもって国の統一を切に望んでおり、それを実現する闘争にこぞって立ち上がっている。

アメリカに追随しながら国の分裂を永久化し民族の団結ではなく、分裂をはかる反統一勢力は、祖国統一の闘争対象に、民族の敵となる。

第２節　祖国統一の３大憲章

祖国統一３大原則と祖国統一を目指す全民族大団結 10 大綱領、高麗民主連邦共和国創立方案は祖国統一の 3 大憲章である。

金正恩委員長は次のように述べている。

「偉大な金正日同志は、金日成同志が示した祖国統一３大原則と高麗民主連邦共和国創立方案、全民族大団結 10 大綱領を祖国統一の３大憲章として定立し、民族大団結５大方針をはじめ卓越した思想と路線を打ち出して

民族が進むべき統一の前途を明示しました」

祖国統一の 3 大憲章は民族自主精神と祖国愛と民族愛を具現し、統一を望む全朝鮮人民の一致した志向と要求を反映している全民族的な統一綱領であり、北と南に互いに異なる思想と制度が長い間、存在してきたわが国の現実的条件に全的に符合するもっとも公明正大で現実的な統一綱領であり、統一偉業遂行のすべての行程において変わることなく掌握すべき指導的指針である。

祖国統一の 3 大憲章の重要な内容をなすのはまず、祖国統一 3 大原則である。

祖国統一 3 大原則は自主、平和統一、民族大団結の原則である。

自主、平和統一、民族大団結の 3 大原則は、祖国統一の根本的な原則であり、全朝鮮人民の意思を集大成した民族共通の統一原則である。

自主、平和統一、民族大団結の 3 大原則は国の統一問題を民族の意思と利益に即して民族自体の力で、わが民族同士で解決できる根本的立場と根本方途を闡明した祖国統一の礎である。

祖国統一 3 大原則で重要なのはまず、自主の原則である。

自主の原則は祖国統一 3 大原則で起点であり、基礎的な原則である。

自主の原則はわが人民自身が主人となって国の統一問題を自主的に解決する原則である。これは外部勢力に依存し、その干渉を受けることなく、朝鮮人民自身がわが民族の意思と要求に即して民族自体の力に依拠して祖国統一のためのすべての問題を解決する原則である。

自主の原則を堅持するためには、米軍を南朝鮮から撤去させ、わが国の内政にたいする外部勢力の干渉を終わらせるべきである。そして南朝鮮の傀儡一味の事大売国的な外部勢力にたいする依存政策に反対し、排撃すべきである。

祖国統一 3 大原則で重要なのはまた、平和統一の原則である。

平和統一の原則は、武力行使に依拠することなく、対話と協商の方法

で統一問題を解決する原則である。

平和統一の原則は祖国統一の問題が分裂された民族の血脈をつなぎ、民族の団結を実現する問題であるということから溢れ出る原則である。分かれた民族の血脈をつなぎ民族的団結を実現する問題は、民族内部の不信と誤解をなくす問題であるだけに、戦争の方法によってではなく、対話と協商による平和的方法によってのみ解決される。

平和統一の原則を堅持するためには、朝鮮半島で戦争を防ぎ、強固な平和を保障し、統一のための対話を発展させるべきである。

祖国統一 3 大原則で重要なのはまた、民族大団結の原則である。

民族大団結の原則は思想と理念、制度の差を超越して、統一を望むすべての愛国勢力を結束して全民族の大団結をなしとげる原則である。

民族大団結の原則を堅持するためには、思想と理念、制度の差を超越して民族共通の利益を優先させ、祖国統一のための聖なる偉業にすべてを服従させる立場に立つべきである。

祖国統一 3 大憲章の重要な内容をなすのは次に、祖国統一を目指す全民族的大団結 10 大綱領である。

祖国統一を目指す全民族大団結 10 大綱領は、全民族の団結をなしとげて、祖国統一の主体的力量を強化するための政治綱領である。

祖国統一をめざす全民族大団結 10 大綱領は、祖国統一をめざす民族大団結思想が全面的に集大成されている不滅の民族大団結の叢書である。

祖国統一をめざす全民族大団結 10 大綱領には、民族大団結の目標と理念的基礎、団結の原則と方途が全面的に明示されている。

民族大団結の目標は、統一国家を創立することであり、民族大団結の理念的基礎は民族愛と民族自主精神である。そして民族大団結の原則は共存、共栄、共利をはかることであり、全民族大団結をなす方途は北と南が政治的・軍事的対決を一掃し、互いに信頼して団結し、民主主義を大事にし、祖国統一の道で共に前進し、個人と団体が所有した物質的・精神的財貨を民族

大団結をはかる上で有利に利用することを奨励することである。

これとともに北と南、海外の全民族が接触と往来、対話を通じて互いに理解し、信頼して団結し祖国統一偉業に貢献した人々を高く評価することである。

祖国統一の 3 大憲章の重要な内容をなすのは次に、高麗民主連邦共和国創立方案である。

高麗民主連邦共和国創立方案は統一国家の全容とその実現方途を示した祖国統一の設計図である。

高麗民主連邦共和国創立方案は一つの民族、一つの国家、二つの制度、二つの政府にもとづいた連邦制方式の祖国統一方案である。

高麗民主連邦共和国創立方案は、朝鮮の北と南に存在する思想と制度を互いに容認する基礎の上で、双方が同等に参加する民族統一政府を立てて、自主的で民主主義的で中立的な国家として統一しようということである。

高麗民主連邦共和国創立方案には国の統一を北と南の思想と制度を互いに認め、容認する基礎に立ってもっとも公正に、順調に実現できる基本方途が明示されている。

高麗民主連邦共和国創立方案には連邦国家の組織と構成原則、連邦国家の機能とその運営原則、連邦政府と地域政府の権限と任務、連邦国家の国号と性格が規定されている。

高麗民主連邦共和国創立方案は、祖国統一の根本的な原則に基づいているもっとも現実的な統一方案であり、民族共通の利益とわが国の具体的実情を正しく反映した現実的かつ合理的な統一方案であり周辺国と世界平和愛好人民の念願にも符合する合理的な統一方案である。

祖国統一の3大憲章を指針にして祖国の自主統一を実現するためには、6.15 北南共同宣言とその実践綱領である 10.4 宣言の旗を高く掲げていくべきである。

6.15 北南共同宣言と 10.4 宣言は、民族自主の宣言、民族大団結の宣言

であり、祖国統一の大綱である。

北と南、海外の全同胞は、新世紀の民族共通の統一大綱であり、平和繁栄の道標である6.15共同宣言と10.4宣言を徹底的に履行するための闘争を積極的に展開して、祖国統一の偉業を必ず成就すべきである。

第６章　全世界の自主化

世界革命は、全世界的範囲において帝国主義、植民地主義を一掃し、人民大衆の自主性を完全に実現するための闘争であり、この闘争で世界の人民の前に提起される共通の闘争課題は、全世界を自主化することである。

チュチェの革命理論は、全世界の自主化を現時、世界革命の重要な戦略的課題として提起し、全世界の自主化の本質とそれを実現する闘争戦略を全面的に解明することにより、現代の人類の自主偉業の遂行において提起される理論的・実践的問題にもっとも正しい解答を与えた。

第１節　全世界の自主化の本質

全世界を自主化することは、世界の人民の前に提起される共通の闘争課題である。

金正日総書記は次のように述べている。

「自主化された世界は支配と従属、干渉と抑圧がない世界であり、すべての国と民族が自己の運命の主人として自主権を完全に行使する世界である」

全世界を自主化するということは、一言で言って世界のすべての国があらゆる形態の支配と従属から脱し、自主的な道へと進むことを意味する。

全世界を自主化するということはまず、国と民族間のあらゆる支配と従属、干渉と抑圧のない新しい世界を建設することを意味する。

これはすなわち帝国主義、植民主義、支配主義が完全に一掃された世界を建設することである。

帝国主義、植民主義、支配主義が存在している限り、世界の自主化について語れない。帝国主義、植民主義、支配主義が地球上から完全に一掃されたとき、すべての国と民族があらゆる支配と従属、干渉と抑圧から脱し、自主の道へ進むことができ、初めて世界の自主化を実現し得る。

全世界を自主化するということはまた、すべての国と民族が自己の運命の主人として自主権を完全に行使する新しい世界を建設することである。

国と民族が外部勢力の支配と干渉から脱し、民族的独立を達成するばかりでなく、政治と経済、軍事と文化など、すべての分野で自主性を確固と堅持するときにのみ、自らの自主権を完全に行使すると言える。

たとえ、国と民族が帝国主義、植民主義のくびきから脱したと言っても、自己の運命の主人として自主権を堂々と行使しないと、自国と人民の要求と利益を擁護、固守することができず、完全な平等と相互尊重の原則に基づいて他国との関係を発展させることができない。

すべての国と民族が外部勢力の支配と従属から脱するばかりでなく、政治と経済、軍事と文化、対外関係など、すべての分野で自主権を完全に行使するとき、初めて全世界の自主化が実現されたと言える。

帝国主義、植民主義、支配主義を一掃する問題とすべての国と民族が自主権を完全に行使する問題は密接に結ばれている。

帝国主義、植民主義、支配主義を完全に一掃せずには、すべての国と民族が自主権を完全に行使できず、すべての国と民族が自主権を行使せずには帝国主義、植民主義、支配主義を最終的に一掃できない。

全世界の自主化は帝国主義、植民主義、支配主義が一掃され、自主権を完全に行使する国の隊列が次第に拡大される過程を通じて実現される。言い換えれば、帝国主義、植民主義、支配主義に反対する闘争過程を通じて、すべての国と民族があらゆる支配と従属、干渉と抑圧から脱し、民族的独立

を強固にし､自己の運命の主人としての自主権を完全に行使する過程を通じて建設されるようになる。

全世界を自主化するための闘争は､自主性に基づく国際関係を確立し､国際社会を民主化するための闘争である。

自主性に基づく国際関係を確立するということは、国と民族の関係を自主性に基づく関係に転換させるということである。言い換えれば、支配と従属、干渉と抑圧ではなく、自主と平等、平和と親善、互恵の原則で国と民族間の関係を発展させることを意味する。

国際社会を民主化するのは、帝国主義支配勢力が樹立した支配と従属の古い国際秩序をなくし、自主権と平等、正義と公正に基づく新しくて強固な国際秩序を確立するということである。

自主性に基づく国際関係が強固な国際秩序に転換され、国際社会の民主化が完全に実現された世界がまさに自主化された新しい世界である。

全世界を自主化するのは、今日、世界革命の重要な課題である。

全世界を自主化することが今日、世界革命の重要な課題になるのは、それが世界人民の自主的志向と現代の基本趨勢を正しく反映しているからである。

現代は自主性の時代である。あらゆる支配と従属に反対し、自主の道へ進むことは自主性を擁護するすべての国の人民の一致した志向であり､多くの国が自主の道へ進むことは､いかなる力をもってしても押しとどめることのできない現代の基本趨勢である。

全世界を自主化することが世界革命の重要な課題となるのはまた、それが世界的範囲で人民大衆の自主性を完全に実現することのできる広い道を開いているためである。

全世界が自主化されれば、帝国主義、植民主義が一掃され、戦争を防ぎ、世界の強固な平和を維持することができ、古い国際秩序が一掃され、国と民族間にあらゆる不平等がなくなり、相互尊重と平等、互恵の原則に基づ

く団結と協力の関係がなされ、すべての国で自国人民の理想と念願に合致する独立され繁栄する新しい社会を立派に建設できる広い道が開かれる。

全世界の自主化を実現するのは自主性を擁護するすべての国の人民の共通の偉業である。全世界の自主化はどの個別的な国と民族の努力だけでは決して実現されない。

全世界の自主化は自主性を志向するすべての国、すべての民族の共通の闘争によってのみ実現される。それゆえ、各国の人民は国際社会の一構成員として自国と民族の自主性のために戦うばかりでなく、全世界の自主化を実現する闘争に主人の立場をもって力強く立ち上がるべきである。

第２節　全世界の自主化を実現するための闘争戦略

全世界の自主化を実現するための闘争戦略において重要なのは何よりも、全世界を自主化する闘争の主体を強化することである。

全世界を自主化する闘争において主体は、すべての反帝・自主勢力である。

金正日総書記は次のように述べている。

「全世界の自主化をめざすたたかいにおいて、主体をなすのはすべての反帝・自主勢力である」

各国において自主性を目指す闘争の主体は、その国の人民であるが、全世界を自主化する闘争の主体はすべての反帝・自主勢力である。

全世界の自主化を目指す闘争の主体をなす反帝･自主勢力には社会主義諸国と世界の社会主義運動、反帝・民族解放運動、非同盟諸国運動、世界平和擁護運動などが含まれる。

全世界の自主化偉業の主体を強化する上で重要なのはまず、自主性に基づき反帝・自主勢力の団結を成し遂げることである。

今日、帝国主義者とあらゆる反動勢力が連合された勢力で世界の進歩的

人類の自主偉業に挑戦している条件で大国、小国、マジョリティ、マイノリティを問わず、すべての反帝・自主勢力が自主性の旗印の下に団結して共同で戦わないと、帝国主義、植民主義、支配主義勢力を一掃することもできず、すべての国と民族が自らの運命の主人として自主権を完全に行使することもできない。

世界のすべての国、すべての民族が自主性の旗印の下に固く結束するときにのみ、反帝・自主勢力の団結した力によって全世界の自主化偉業を立派に実現することができる。

金日成主席が打ち出した「自主性を擁護する世界の人民は団結せよ！」というスローガンは、全世界の自主化偉業の主体を強化するための基本原則を解明した独創的な戦略的スローガンである。

全世界の自主化偉業の主体を強化する上で重要なのはまた、その主体をなしているすべての反帝・自主勢力を強化することである。

反帝・自主勢力を強化するためには、社会主義諸国と世界の社会主義運動を強化すべきである。

社会主義諸国と世界の社会主義運動を強化するためには、平壌宣言を徹底して具現し、あらゆる日和見主義を克服すべきである。

反帝・自主勢力を強化するためには、反帝・民族解放運動を強化すべきである。

未だに帝国主義、植民主義の従属の下にある諸国の人民は反帝・民族解放闘争を力強く展開し、国の独立を達成すべきである。これと共に、反帝・民族解放革命の課題をあくまで遂行すべきである。民族解放を成し遂げ、民族的独立を達成した国の人民は帝国主義と国内の反動勢力の政治的・経済的基盤を一掃し、先進的な社会制度を樹立し、自立的民族経済と民族文化を建設する闘争を大いに展開し、民族的繁栄を成し遂げるべきである。

反帝・自主勢力を強化するためには、非同盟諸国運動を引き続き拡大、発展させるべきである。

非同盟諸国運動は、帝国主義者の侵略的同盟に対処し、あらゆる支配と従属、侵略と戦争に反対し、自主性を志向する進歩的勢力であり、自主的な国々の国際的連帯を強化するための運動である。

非同盟諸国運動を拡大、発展させるのは、今日国際舞台において勢力の均衡が破壊されたことを皮切りに、帝国主義者が反帝・自主勢力を分裂・瓦解させようと執拗に策動している条件でさらに重要な問題として提起される。

非同盟諸国運動を引き続き拡大、発展させるためには、すべての非同盟諸国がこの運動の根本理念と原則を徹底して守るべきである。

非同盟諸国運動の根本的理念は、反帝・自主であり、根本原則はいかなる同盟にも加担せず、自主的に進むことである。

反帝・自主勢力を強化するためには、世界の平和擁護運動をさらに拡大、発展させるべきである。

世界の平和擁護運動には、思想と制度、政見と信仰の差、財産の有無にかかわらず、戦争に反対し、平和を愛するすべての勢力と平和愛好人民が参加している。従って、世界の平和擁護運動を拡大し発展させるのは、反帝・自主勢力を強化するための重要な方途となる。

全世界の自主化を実現する闘争戦略において重要なのは次に、反帝・反米闘争を大いに展開することである。

アメリカ帝国主義をはじめ、帝国主義反動勢力は全世界を自主化する上で主な闘争対象である。

反帝・反米闘争を強化する上で重要なのは、まずアメリカ帝国主義の世界制覇の野望を粉砕することである。

アメリカ帝国主義に主な矛先を向けるのは、今日全世界の自主化偉業を実現する基本戦略である。それは全世界の自主化の第一の闘争対象、主な打撃対象が他ならぬアメリカ帝国主義だからである。

アメリカ帝国主義の世界制覇を粉砕するためには、世界のいたるところ

でアメリカ帝国主義の手足を切り取り、アメリカ帝国主義の傲慢な専横と強権行為に真っ向から立ち向かって戦い、アメリカ帝国主義に対する幻想を徹底して排撃すべきである。

反帝・反米闘争を強化する上で重要なのは、またアメリカ帝国主義の手先どもとその同盟者に反対して戦うことである。

反帝・反米闘争を強化する上で重要なのは、また国際的な反帝・反米統一戦線を形成することである。

反帝・反米共同行動をなし、反帝・反米統一戦線を形成してこそ、国際的な範囲で帝国主義、支配主義勢力に対する反帝・自主勢力の決定的な優勢を保障し、アメリカ帝国主義を始め、帝国主義勢力を最大に孤立させ、反帝・自主的な諸国に対する帝国主義者の侵略と干渉策動を断固粉砕することができる。

全世界の自主化を実現する闘争戦略において重要なのは次に、革命を行う国と党が自主、平和、親善の理念に基づく対外政策を堅持することである。

自主、平和、親善は現代の要求に合う最も正しい対外政策理念である。

自主の理念は、対外関係分野において自主時代の要求と世界の人民の自主的本性を具現した理念であり、平和の理念は侵略と戦争のない平和な世界で生きることを望む人民の念願を反映している理念である。親善の理念は、自主性と平等の原則に基づいて助け合い、協力し合いながら共同の繁栄を成し遂げることを願う世界人民の志向に合う理念である。

自主、平和、親善の理念に基づく対外政策を堅持するためには、自主的な対外政策を実施し、自主権を尊重する世界のすべての国との親善協力関係をさらに発展させ、世界の強固な平和と安全を保障するために積極的に戦わなければならない。

第３編　チュチェの指導方法

偉大な金日成・金正日主義は、チュチェ思想、先軍思想に基づいて指導方法に関する理論を独創的に完璧に解明し、特に政権党の指導方法、社会主義建設を指導する方法を新たに提起し完成した。

これは、金日成・金正日主義の重要な歴史的功績である。

チュチェの指導方法には、革命的指導の本質と特徴、革命的指導原則、革命的指導体系、革命的活動方法と人民的活動作風など、人民大衆を革命と建設へと組織動員する上で提起されるすべての問題が全面的に解明され集成されている。

第１章　革命的指導の本質と特徴

チュチェの指導方法によって革命的指導の本質と特徴が独創的に解明された。

第１節　革命的指導の本質

チュチェの指導方法は、革命的指導の本質を新たに解明している。

金正日総書記は次のように述べている。

「革命運動、共産主義運動における指導の問題は、人民大衆にたいする党と領袖の指導の問題にほかなりません」

革命的指導は、人民大衆に対する党と領袖の指導である。言い換えれば、党と領袖が人民大衆をして革命と建設の主人としての立場を持ち、主人としての責任と役割を果たすように導く活動である。

人民大衆は、歴史の主体、歴史の創造者であるが、正しい指導によって

のみ社会・歴史発展において主体としての地位を占め、役割を果たしながら自己の運命を成功裏に切り開くことができる。

革命的指導が人民大衆に対する党と領袖の指導になるのは、党と領袖が革命の主体において占める地位と役割にかかわる。

革命の主体は領袖、党、軍隊と人民の統一体である。

党と領袖は革命の主体、社会的・政治的生命体において指導的地位を占め、指導的役割を果たす。

革命的党は革命の参謀部、指導的勢力として勤労人民大衆を導く社会の指導的政治組織である。

領袖は革命の最高指導者である。

領袖は人民大衆の最高頭脳として軍隊と人民を革命の主体に結束させる統一団結の中心であり、社会的・政治的生命体の活動を統一的に導く指導の中心である。したがって、革命的指導は、人民大衆に対する党と領袖の指導である。

人民大衆に対する党と領袖の指導はまず、党と領袖が人民大衆をして、革命と建設の主人としての立場を守るように導く活動である。

人民大衆をして、革命と建設の主人としての立場を守るように導くことは、人民大衆を政治的に覚醒させ、彼らが革命に対する主人たる態度を持ち、すべての問題を独自的な判断と決意にしたがって自らが責任を持ち、自力によって解決することを意味する。

人民大衆が政治的に覚醒されて革命と建設の主人としての地位を占め、主人としての立場を守る問題は、党と領袖の指導によってのみ実現される。

領袖は、人民大衆の本性的要求と利害関係を正しく反映し、革命思想を創始し、それを具現した党の路線と政策で人民大衆を武装させ、彼らを意識化する。人民大衆は領袖が創始した革命思想によって意識化されることにより、はじめて革命に対する主人たる態度を持ち、すべての問題を独自的な判断と決心に従って自らが責任を持ち、自力によって解決するようになる。革

命運動で提起されるすべての問題を主人たる立場で独自の判断と決心に従って自らが責任をもち、解決することは、すなわち人民大衆が革命と建設の主人としての地位を占め、主人としての立場を守ることである。

先軍時代、人民大衆に対する党と領袖の指導は、革命軍隊を主力部隊として、中核勢力として革命の主体を全面的に強化し、軍隊と人民をして革命と建設の主人としての地位をさらに固守するようにする。

人民大衆に対する党と領袖の指導はまた、党と領袖が人民大衆をして革命と建設の主人としての責任と役割を果たすように導く活動である。

人民大衆をして革命と建設の主人としての役割を発揮するようにすることは、人民大衆の尽きない力と創意性を余すところなく発揮させ、革命と建設をりっぱに遂行するようにすることである。

人民大衆は、党と領袖の指導を受けるときにのみ自力と知恵、創意性を余すところなく発揮し、革命と建設の主人としての責任と役割を果たすことができる。

党と領袖は、人民大衆を組織的に結束させ、彼らの威力を全面的に強化する。人民大衆の威力は団結の威力である。団結した人民大衆は個別人の力に比べようもない大きな威力を発揮する。

人民大衆を一つに結束する活動は、党と領袖の指導によって実現される。領袖は党を始め、革命組織を結成し、それを通じて広範な大衆を組織的に結束させ、彼らを威力のある創造的能力の所有者に育成する。

領袖は党を始め、革命組織が政治活動を力強く展開するようにし、大衆をして革命勝利に対する信念と楽観を持ち、自らの尽きない力と知恵、精神力を余すところなく発揮して革命と建設で主人としての責任と役割を果たすようにする。

先軍時代の人民大衆に対する党と領袖の指導は、革命軍隊の主導的、先覚者的役割によって人民大衆を革命と建設の主人としての役割を非常に高めるようにする。

第２節　革命的指導の特徴

朝鮮労働党の革命的指導は、一言で言って、チュチェ思想に基づき、革命的大衆路線を具現している大衆指導の典型､模範として自己固有の特徴を有する。

朝鮮労働党の革命的指導は、最も人民的な指導である。

金日成主席は次のように述べている。

「われわれは革命の初期からこんにちにいたるまで､数段階にわたる困難かつ複雑な革命闘争と建設事業を指導する過程で､革命的で人民的な指導芸術を創造し、それを党活動に具現しました」

朝鮮労働党の革命的指導が最も人民的な指導であるというのは､それが人民に対する限りない愛情と信頼に基づき、人民大衆に徹底して依拠し、彼らを組織、動員してすべての問題を解決する指導であるということである。

朝鮮労働党の革命的指導はチュチェ思想にもとづいて人民への限りない愛情と信頼で人民大衆を導く指導である。

朝鮮労働党の革命的指導は､人民大衆を最も力強く知恵ある存在として絶対的に信頼し、人民大衆を組織、動員してすべての問題を解決する指導である。

朝鮮労働党の革命的指導は最も科学的な指導である。

朝鮮労働党の革命的指導が最も科学的な指導であるというのは､それが革命運動の客観的現実と合法則性に即して人民大衆の役割を非常に高め､すべての問題を立派に解決するようにする指導であることである。

朝鮮労働党の革命的指導は､人民大衆に対する主体的観点と立場に基づき､人民大衆の自主的で創造的かつ意識的な活動によって行われる社会的運動、革命運動の本質的特性、合法則性を正しく反映している。

朝鮮労働党の革命的指導は、国と民族を単位として行われ、絶えず変化発展する各国の具体的条件で行われる革命運動の客観的現実を正しく反映

している。

朝鮮労働党の革命的指導は、百科全書的な指導である。

朝鮮労働党の革命的指導が百科全書的な指導であるというのは、それが革命的指導において提起されるすべての問題に全面的かつ完璧な解明を与える指導であるということである。

朝鮮労働党の革命的指導は大衆指導において提起されるすべての問題に完璧な解答を与えた百科全書的な指導である。

朝鮮労働党の指導には、もっとも正しい指導原則と指導体系、革命的かつ人民的な活動方法と活動作風まで大衆指導において提起されるすべての問題をみな包括している。そればかりでなく、革命と建設のために活動を設計し、作戦する方法から戦闘的に組織し展開する方法、人々と話し合い、覚醒させる方法と彼らに対する上で具現すべき人民的風貌、革命的気風にいたるまで大衆に対する上で提起されるすべての問題が具体的に集大成されている。

第２章　革命的指導原則

チュチェの指導方法は、領袖の唯一的指導を実現する原則と革命的大衆路線を貫徹する原則、先軍革命指導原則を革命的指導の原則として押し立て、独創的に解明した。

第１節　領袖の唯一的指導を実現する原則

革命的指導原則において重要なのは、領袖の唯一的指導を徹底的に実現することである。

金正日総書記は次のように述べている。

「党内における思想と指導の唯一性は、卓越した領袖の指導を受けると

きにもっとも円滑に実現される」

領袖の唯一的指導を実現するということは、領袖の思想と路線を唯一の指導的指針とし、領袖の唯一的指導の下に革命と建設において提起されるすべての問題を解決するということである。

領袖の唯一的指導を実現することは、革命的指導において堅持すべき根本原則である。

領袖の唯一的指導を実現することはまず、領袖の革命思想を唯一の指導的指針とし、革命と建設をまっすぐに導く根本的保証である。

領袖の唯一的指導を実現してこそ、党がひたすら領袖の革命思想に基づき、すべての路線と政策を策定し、革命と建設において一貫性と原則性を堅持することができる。そして、人民大衆が領袖の革命思想とその具現である党の路線と政策で武装し、領袖の思想・意志通りに革命と建設を勝利の一途へと前進させることができる。

領袖の唯一的指導を実現することはまた、領袖を中心とする党と革命隊伍の強固な統一団結を非常に強める決定的な裏づけである。

領袖の唯一的指導を保障するとき、あらゆる異質で分派的な要素を一掃し、領袖を唯一中心とする党と革命隊伍の組織的・思想的、徳義的な統一団結を実現することができる。

領袖の唯一的指導を実現することは、全党、全国、全軍、全人民を統一的に組織、動員して社会主義偉業を勝利へと前進させる確固たる保証であるからである。

領袖の唯一的指導は、党をはじめ、すべての政治組織、社会的集団が領袖の思想と路線を指針とし、一つのように動き、軍隊と人民が領袖の思想と路線を貫徹する闘争にこぞって動員されるようにする。

領袖の唯一的指導を実現してこそ、全党、全国、全軍、全人民が立ち上がり、行動の完全な統一性を確固と保障し、社会主義偉業を強力に推し進めることができる。

社会主義運動の歴史的経験と教訓は、領袖の唯一的指導を徹底的に実現するときには、革命と建設が生々・発展するが、そうでないときには、革命と建設において自然発生性と、分散性を招き、偏向と紆余曲折をなめるようになり、結局、革命偉業を台無しにすることを示している。

革命的党が人民大衆の自主偉業、社会主義偉業を力強く前進させ、あくまで完成するためには、領袖の唯一的指導を徹底して実現しなければならない。

領袖の唯一的指導を実現する上で提起される重要な要求は、領袖の唯一的指導を無条件受け入れ、徹底して保障し、党などのすべての政治組織の活動が領袖の唯一的指導の保障に志向され、服従されるようにすることである。

これとともに、領袖の唯一的指導が革命と建設のすべての分野に全面的に具現されるようにすることである。

第２節　革命的大衆路線を貫徹する原則

革命的指導原則において重要なのは、革命的大衆路線を徹底して貫徹することである。

金正日総書記は次のように述べている。

「革命的大衆路線を具現することは、革命と建設に対する指導においてわが党が堅持している一貫した方針である」

革命的大衆路線を貫徹するということは、人民大衆の利益をしっかり擁護し、人民大衆の力と知恵を信じ、それに依拠して革命と建設を行うということである。

革命的大衆路線を貫徹することは、革命の主体が人民大衆であるという原理から提起される指導原則である。

人民大衆は、革命と建設の主人であり、革命と建設を推し進める決定的な勢力である。革命と建設を要求するのも、推し進めるのも人民大衆である。

革命と建設の主人であり、革命と建設を推し進める決定的な勢力である人民大衆が主人としての自己の責任と役割を果たしてこそ、いくら困難かつ複雑な条件の中でも課された革命課題を立派に遂行することができる。従って、大衆指導は当然、人民大衆をして革命と建設の主人としての責任と役割を果たすべきである。

人民大衆が革命と建設の主人としての責任と役割を果たすためには、革命的党が大衆指導において革命的大衆路線を徹底して貫徹すべきである。

革命的大衆路線を貫徹するのは、革命的指導において堅持すべき根本原則である。

革命的大衆路線を貫徹するのは、人民大衆の志向と要求を反映して正しい路線と政策を立て，それを大衆自身のものにし、すべての問題を大衆の力に依拠して解決する根本要求である。それはまた、広範な大衆を党と領袖の周りに結束させ、一つの威力ある政治的勢力に準備させ、彼らの革命的熱意と創造的積極性を最大に発揮させる基本要求である。

革命的大衆路線を貫徹する上で提起される重要な要求はまず、人民大衆の利益を最優先、絶対視し、人民大衆のために献身的に奉仕することである。

人民大衆の利益を最優先、絶対視し人民に献身的に奉仕するということは、人民大衆の自主的要求と利益を第一にし、その実現のためにすべてを尽くして戦うことを意味する。

革命的大衆路線を貫徹する上で提起される重要な要求は次に、人民大衆を教育し改造して、党と領袖の周りに結束することである。

人民大衆を教育し改造して、党と領袖の周りに結束させるのは、人民大衆を領袖の革命思想でしっかりと武装させ、彼らを党と領袖の周りに組織的・思想的に、道徳的・信義的に結束された一つの政治的勢力にすることを意味する。

革命的大衆路線を貫徹する上で提起される重要な要求はまた、人民大衆の力と知恵を発揮し、革命課題を遂行することである。

人民大衆の力と知恵を引き出して革命課題を遂行するということは、人民大衆の力を信じ、大衆の革命的熱意と創意性を発揮させ、すべての問題を解決することを意味する。

革命的大衆路線は、必ず領袖の唯一的指導と結ばれなければならない。領袖の唯一的指導の下にのみ人民大衆が革命と建設の主人としての威力を発揮することができ、広範な人民大衆に依拠してこそ、党と領袖が革命と建設に対する指導を立派に実現することができる。

第３節　先軍革命指導原則

革命的指導原則において重要なのは、先軍革命指導原則である。

先軍革命指導原則は、軍事優先の原則に沿って革命軍隊の強化に第一義的に力を入れ、軍隊を中核にして革命隊伍を鍛え上げ、革命軍隊の闘争精神と闘争気風によって革命と建設全般を力強く導く原則である。

金正恩委員長は次のように述べている。

「わが党は、先軍革命の主力部隊である人民軍を全面的に強化しながら国防を主とする国家機構システムを確立し、すべての分野を先軍の原則と要求に即して改造し整備しました」

先軍革命指導原則は、革命的指導において堅持すべき重要な原則である。

先軍革命的指導原則を堅持するのは、人民大衆の自主偉業、社会主義偉業の開拓と発展、完成の合法則性に関わっている。

人民大衆の自主偉業、社会主義偉業はその開拓から発展、完成に至る全期間、帝国主義者とあらゆる反動勢力との厳しい対決の中で行われる。帝国主義者との長期間にわたる軍事的対決を伴う社会主義偉業は軍事を重視し、革命軍隊に依拠して革命と建設を導く先軍指導によってのみ立派に遂行される。

先軍革命指導原則を堅持してこそ、革命の領袖を決死擁護し、領袖の偉

業、社会主義偉業をしっかり守ることができ、全社会の一心団結をもっとも高い水準で実現し、主体の威力を非常に強化することができる。そして、革命軍隊の主導的、先駆者的役割によって社会主義強国建設を力強く推し進めることができる。

実践的な経験は、朝鮮労働党の先軍革命指導が革命軍隊の主導的、先駆者的役割によって、社会主義強国建設を推し進める威力ある革命指導であることをはっきり確証している。それゆえ、先軍革命指導原則は人民大衆の自主偉業、社会主義偉業遂行において一貫して堅持すべき重要な原則となる。

先軍革命指導原則を堅持する上で提起される重要な要求は、革命軍隊を領袖に限りなく忠実な革命強兵に鍛え上げ、革命軍隊の闘争精神と闘争気風を見習う運動を力強く展開することである。

第 3 章　革命的指導体系

革命的指導体系は、党と国家、軍隊に対する領袖の唯一的指導体系である。

チュチェの指導方法は歴史上初めて、革命的指導体系が本質において領袖の唯一的指導体系であり、これは領袖が党と国家、軍隊を掌握し、革命と建設を導く制度と秩序であることを解明した。

第１節　領袖の唯一的指導体系

革命的指導は、すなわち領袖の指導であり、従って革命的指導体系はほかならぬ領袖の唯一的指導体系となる。

金正恩委員長は次のように述べている。

「わが党を永遠に金日成・金正日同志の党として強化、発展させる上で重要なのは、党の唯一的指導体系をさらに強く確立することです」

領袖の唯一的指導体系は、革命と建設において領袖の指導の唯一性を強く保障する体系である。

領袖の唯一的指導体系は一言で言って、領袖の革命思想を唯一の指導的指針として革命と建設を遂行し、領袖の思想と意図に従って全党、全国、全軍、全人民が一致して動く革命的制度と秩序である。

領袖の唯一的指導体系を強く確立する上で重要なのはまず、社会の全構成員を一つの思想、領袖の革命思想で武装させることである。

社会の全構成員が領袖の革命思想でしっかり武装してこそ、全党と全社会に領袖の革命思想のみが唯一的に支配することができ、すべての政治組織と機関、全人民が領袖の革命思想を唯一の指導的指針とし、領袖の思想と意図通りに思考し、行動することができる。そして、領袖の革命思想に反する反党・反革命的思想の浸透を徹底して防ぎ、領袖の革命思想の純潔さを確固と保障することができる。

領袖の唯一的指導体系を強く確立する上で重要なのは次に、革命と建設において提起されるすべての重要な原則的問題を領袖に報告し、領袖の唯一的な結論に従って処理することである。

革命と建設において提起される重要な原則的問題を領袖に報告し、領袖の唯一的な結論に従って処理してこそ、領袖の構想と意図に即して提起されるすべての問題を正しく解決することができる。それだけでなく、すべての政治組織とそこに網羅されている構成員が領袖の思想と意図、命令、指示に従って一つのように動きながら領袖の唯一的指導体系を強く確立することができる。

領袖の唯一的指導体系を強く確立する上で重要なのは次に、領袖の思想と意図、命令、指示を無条件受け入れ、徹底して貫徹する革命的気風を確立することである。

領袖の思想と意図、命令、指示を無条件受け入れ、決死貫徹する革命的気風を確立してこそ、全党、全国、全軍、全人民が領袖の唯一的指導の下に

一つのように動く革命的秩序と規律を確立することができる。

社会主義偉業の歴史的教訓は、領袖の唯一的指導体系を確立する問題が革命の運命、社会主義の運命に関わる重要な問題であることをはっきり示している。

領袖の唯一的指導体系を確立する活動を絶えず深化させ、代をついで引き続き行うべきである。

人民大衆の革命偉業は、領袖の革命偉業であり、これは代をついで引き続き行われる歴史的偉業であるため、領袖が切り開く革命偉業を代々に完成するためには、領袖の唯一的指導体系を確立する活動を代々に行わなければならない。

世界の社会主義運動の歴史は、領袖の唯一的指導体系を確立する活動を引き続き行われなければ、革命の背信者によって党が翻弄され、革命偉業が挫折と失敗を免れ得ないことを示している。

第2節　領袖の唯一的指導を実現するための革命的指導体系

革命と建設に対する領袖の唯一的指導を実現するためには、党の指導体系、国家指導体系、軍指導体系を確立すべきである。

党の指導体系。国家指導体系、軍指導体系を整然と確立してこそ、党と国家、軍隊を領袖の党、領袖の国家、領袖の軍隊にし、領袖の唯一的指導を立派に実現することができる。

何よりも、党の指導体系を確立すべきである。

革命と建設に対する領袖の唯一的指導は、革命的党を通じて実現される。

革命的党が領袖の唯一的指導を実現する政治的武器としての使命を果たすためには、党の指導体系を確立すべきである。

金正恩委員長は次のように述べている。

「われわれは党と革命発展の新たな高い段階の要求に即して、党の唯一的指導体系を確立する事業を党活動の基本としてとらえ、絶えず深めていかなければなりません」

党の指導体系は、党の指導の下に革命と建設を行う制度と秩序である。言い換えれば、党の指導体系は党の路線と政策、決定、指示に従って全党と全社会が一致して動く制度と秩序である。

革命と建設に対する党の指導は、党の路線と政策、決定、指示を貫徹する過程を通じて実現される。党の路線と政策は、党の組織的意思であり、革命と建設においてとらえるべき指導的指針である。

全党と全社会は党が提示した路線と政策、決定、指示を唯一の基準としてすべてに対応し、それを唯一の指針とし、すべての活動を行う制度と秩序が確立したとき、革命と建設に対する党の指導体系が確立したと言え、領袖の唯一的指導を立派に実現することができる。

党の路線と政策、決定、指示は領袖の思想と指導を実現するためであり、それを徹底して具現している。従って、全党と全社会が党の路線と政策、決定、指示に従って一致して動き、それを貫徹すれば革命と建設に対する領袖の指導が確固と保障するようになる。結局、党の指導体系は領袖の唯一的指導を保障するための制度と秩序である。

革命的党が指導的勢力として革命と建設に対する指導を保障するためには、党の指導体系を確固と確立すべきである。

次に、国家指導体系を確立すべきである。

領袖の唯一的指導を実現するための革命的指導体系において重要なのは、国家指導体系である。

国家は、最も包括的な政治組織であり、領袖の思想と指導を実現するための政治的武器である。従って、革命と建設に対する領袖の唯一的指導を実現するためには、国家指導体系を確立すべきである。

国家指導体系は、すべての国家機関が領袖の唯一的指導の下に一つのよ

うに動く制度と秩序である。

次に、軍指導体系を確立すべきである。

領袖の唯一的指導を実現するための革命的指導体系において重要なのは、軍指導体系である。

軍指導体系は領袖が国の全般的革命武力に対する指導を実現するための制度と秩序である。

革命軍隊が自らの使命と本分を果たすためには、革命軍隊に対する領袖の唯一的指導体系、最高司令官の軍指揮体系を確立すべきである。

最高司令官の唯一的軍指揮体系は、最高司令官の思想と意図に従って軍建設と軍事活動の全般をおこない、最高司令官の命令、指示に従って全般的革命武力が一つのように動く制度と秩序である。

第４章　革命的活動方法と人民的活動作風

チュチェの指導方法は、人民大衆をして革命と建設の主人としての地位を占め、役割を果たすための革命的活動方法と人民的活動作風を全面的に明らかにした。

第１節　革命的活動方法

党が人民大衆を革命と建設へ力強く組織、動員するためには、活動方法問題を正しく解決すべきである。

金正日総書記は次のように述べている。

「チュチェの活動方法は、人民大衆に革命と建設の主人としての立場を守り、主人としての役割を果たさせる活動方法です」

革命的活動方法は、人民大衆をして革命と建設の主人としての立場を守り、その役割を果たせる活動方法である。

革命的活動方法は、大衆指導において提起されるすべての問題を正しく解決する方法が集大成されている。

革命的活動方法は、本質において人民大衆をして革命と建設の主人としての立場を守り、その役割を果たすように活動を組織し、その実行に大衆を導く方式、手法である。

革命的活動方法を確立することは、人民大衆に依拠して革命と建設を立派に遂行するための必須的要求である。

革命的活動方法を確立することはまず、革命的党が革命と建設に対する指導を正しく遂行するための必須的要求である。

人民大衆を革命と建設に組織、動員する革命的党の大衆指導は正しい活動方法に依拠してこそ、りっぱに行われる。

正しい路線と方針があっても革命的活動方法がなければその貫徹へ大衆を正しく組織、動員することができず、革命と建設を立派に遂行することができない。

革命的活動方法を確立することは、また政権党内で表れる官僚化と行政化の傾向を防ぐための必須的要求である。

革命的活動方法を確立してこそ、政権党内で表れうる官僚化と行政化の傾向を防ぎ、大衆の革命的熱意と創造的積極性を高く発揮させ、社会主義建設を力強く推し進めることができる。

革命的活動方法において重要なのはまず、政治活動をすべての活動に確固と優先させる方法である。

政治活動を優先させる方法は人々を教育し、彼らの思想精神力を発揮させる活動をほかのすべての活動に優先させる方法である。言い換えれば、それはすべての活動において人々を教育する活動を第一とし大衆の心を動かせ、彼らの自発的熱意と創意性、精神力を発揮させて革命課題を遂行する方法である。

革命的活動方法において重要なのは次に、上部が下部を助ける方法で

ある。

上部が下部を助ける活動方法は上部が下部を助け、目上の人が目下の人を助けて上下が力をあわせて協力し、懸案のすべての問題を立派に遂行する活動方法である。

革命的活動方法において重要なのは次に、すべての活動を科学的に、創造的に行う方法である。

すべての活動を科学的に行うということは、革命の客観的な現実と合法則性に即して活動を行うことであり、すべての活動を創造的に行うことは普段に変わる具体的な環境と実情に即して活動を組織し展開するということである。

革命的活動方法において重要なのは次に、すべてをスケールが大きく作戦し、実践する方法である。

すべてをスケールが大きく作戦し実践するのは、何事においても目標を高く立て、スケールが大きく設計して作戦し、定められた目標を大胆に推し進め、最高の水準で遂行することである。

革命的活動方法において重要なのは次に、革命軍隊を先駆者、手本にしてすべての問題を解決する方法である。

革命軍隊を先駆者、手本にしてすべての問題を解決するというのは、革命性と組織性、規律性と戦闘力が最も強い集団である革命軍隊が社会主義建設の困難で骨の折れる部門、重要部門で進撃の突破口を開きながらモデル単位を創造させ、全社会がその模範を見習い、すべての問題を軍式に、戦闘的に解決するということである。

第２節　人民的活動作風

党と大衆との連携を強化し､大衆の革命的熱意と創造的知恵を余すところなく発揮して革命課題を立派に遂行するためには､幹部が人民的活動作風を所有することが重要である。

金日成主席は次のように述べている。

「わが党の活動作風で重要なのはつぎに､人民に党を真の母のふところと感じさせる人民的な気風と品性です」

一般的に活動作風は、活動と大衆に対する幹部の品性と態度をいう。

人民的活動作風は革命のために粉骨砕身し､人民のために忠実に奉仕する党と幹部の活動気風であり、政治的・道徳的品性である。

人民的活動作風を確立することは､党の革命的性格を固守するための必須的要求である。

党が活動作風を確立してこそ､党内に革命的で人民的な党風を徹底して確立し、全党に革命的かつ戦闘的な気概がみなぎるようにし、すべての幹部と党員が領袖の思想と指導を忠実に捧げる革命家としての本分を全うさせることができる。

人民的活動作風を確立することは､党と大衆との血縁的なつながりを強化して革命隊伍の統一団結を立派に実現するための必須的要求である。

幹部が革命のために献身的に戦い､人民のために忠実に奉仕する革命的活動気風と人民的品性を高く発揮すれば発揮するほど､党と大衆の血縁的つながりはさらに確固たるものとなり､革命隊伍の統一団結は不敗のものとして強化される。

人民的活動作風を確立するのは､人民大衆の革命的熱意と創造的積極性を高く発揮させ、革命課題を立派に遂行するための必須的要求である。

幹部が人民的な活動作風を持ち､大衆に対するときに党に対する大衆の信頼はさらに高まり､党の路線と政策の貫徹において革命的熱意と創意性を

余すところなく発揮するようになり、革命と建設は立派に遂行される。

人民的活動作風は大衆指導において必ず守るべき革命的活動気風と人民的な品性を含めている。

人民的活動作風において重要な内容はまず、革命的活動気風である。

革命的活動気風は、党と領袖のために、祖国と人民のためにすべてを捧げる限りない献身性といかなる逆境の中でもいささかの動揺もなく、革命偉業の完成のためにあくまでしっかりたたかう不屈の革命精神をもって働く気風である。幹部が革命的活動気風を確立してこそ、いかなる困難かつ複雑な環境の中でも活動を立派に導くことができ、革命の指揮メンバーとしての責任と本分を全うすることができる。

革命的活動気風において重要なのはまず、領袖の思想と意図、党の路線と政策を決死貫徹する革命的気風である。

領袖の思想と意図、党の路線と政策を決死貫徹する革命的気風を確立するということは、領袖の思想と意図、党の路線と政策を最も正しいものとして受け入れ、しっかりと擁護し限りない献身性と犠牲精神を発揮してそれを徹底して実行することを意味する。

革命的活動気風において重要なのはまた、自分のものを大事にしさらに輝かせる愛国献身の闘争気風である。

自分のものを大事にし、さらに輝かせる愛国献身の気風は、党と領袖の優れた指導の下に革命の前世代が貴い血と汗を流して獲得したこの地のすべての財貨を祖国と人民の富強·繁栄と幸福のためのこの上なく貴重な元手、財貨として大事にし、さらに輝かせるために心血を捧げて戦う気風である。

革命的活動気風において重要なのはまた、自力更生の闘争気風である。

各国の革命と建設の主人は、その国の人民であり、革命と建設を推し進める力もその国の人民にある。ここから革命と建設において提起されるすべての問題は、人民大衆自らが責任を持ち、大衆の力によって解決すべきである。

自力更生の革命的闘争気風を発揮してこそ、いくら困難で複雑な課題で

あっても自力で責任的に遂行することができ、いかなる難関と試練の中でも屈せず、革命の旗を固守しながら革命課題をあくまで遂行することができる。

革命的活動気風において重要なのはまた、原則的で公明正大な活動気風である。

原則的で公明正大な活動気風は、すべての問題を党的、労働者階級的立場と革命の利益、人民大衆の利益の見地から道理に合うように公正に処理する活動気風である。

活動を原則的におこなうというのは、党的、階級的立場に立ってすべての問題を考察し判断して処理するということであり、活動を公明正大におこなうというのは提起された問題を誇張したり、弱化させたりせず、ありのまま正しく判断し、処理するということである。

革命的活動気風において重要なのはまた、率先垂範の気風である。

率先垂範の気風は、幹部が常に困難な仕事で大衆の先頭に立ち、自らの実践的模範によって大衆を革命課題の遂行へと導く活動気風である。

人民的活動作風において重要な内容は次に、人民的な品性である。

人民的な品性は人民を大事にし、限りなく愛し、人民の利益を最優先、絶対視し、その実現のために忠実に奉仕する崇高な品性である。

人民的な品性において重要なのはまず、母なる品性である。

母なる品性は、母親が子息を真心を込めて愛し見守るように、人民の運命に責任を持ち、真心を込めて愛し、彼らの活動と生活を見守る崇高な品性である。

人民的な品性において重要なのはまた、謙譲かつ素朴で清廉潔白に生活する品性である。

謙譲性は、大衆の前で自分を下げ、大衆を尊重し礼儀正しく行動する品性であり、素朴性は大衆が生活し行動する通りに平凡で質素に生活し行動する品性である。清廉潔白性は私利私欲を追求せず、正直に生き、精神的・道

徳的に純潔で真実であり、真っ正直に生活し行動する品性である。

　人民的な品性において重要なのはまた、豊富な人間性と文化性である。

　人間性は、人々を愛し、真心を込めて待遇する品性であり、文化性は豊富で多面的な知識と高い文化的素養をもって活動し生活する品性である。